



AVレシーバー RX-V583 取扱説明書

musicCast

ご使用前に本説明書の「安全上のご注意」（8 ページ）を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機は、ご家庭で映像や音声を楽しむための製品です。
- 本説明書では、本機をお使いになる方のための設置や操作方法を説明しています。
- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

この製品には、本書のほかに「スタートアップガイド」が付属しています。はじめに「スタートアップガイド」をご覧ください。

本書および「スタートアップガイド」は以下のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。

<http://download.yamaha.com/jp/>

目次

ご使用になる前に 8

安全上のご注意.....	8
注記とお知らせ.....	13
付属品を確認する.....	15
付属品を確認する.....	15
本説明書について.....	15
本説明書について.....	15
リモコンで操作するには.....	15
リモコンに電池を入れる.....	15
リモコンの操作範囲.....	15

本機の特長 16

本機でできること.....	16
関連アプリ.....	19
AV SETUP GUIDE.....	19
AV CONTROLLER.....	19
MusicCast CONTROLLER.....	19
各部の名称.....	20
本体前面の名称と機能.....	20
本体前面ディスプレイ（インジケータ）の名称と機能.....	22
本体背面の名称と機能.....	24
リモコンの名称と機能.....	25

準備する 26

1 スピーカーを接続する.....	26
スピーカの名称と機能.....	26
スピーカの準備.....	27
スピーカケーブルの準備.....	27
スピーカケーブルの加工・接続時のご注意.....	27
スピーカの接続のしかた.....	28
5.1.2 システム.....	30
7.1 システム.....	30
5.1 システム.....	30
5.1 システム（バーチャルシネマフロント）.....	31
その他のシステム.....	31
プレゼンスピーカーについて.....	32
バイアンプ接続対応のフロントスピーカを接続する.....	34
2 テレビを接続する.....	35
テレビを HDMI 接続する.....	35
テレビをビデオ（コンポジット）接続する.....	35
3 AV 機器を接続する.....	36
BD/DVD レコーダーなどを HDMI 接続する.....	36
AV 機器を HDMI 以外で接続する.....	36
4 FM/AM アンテナを接続する.....	38
FM/AM アンテナを接続する.....	38
5 ネットワークケーブルの接続や無線アンテナの準備をする.....	39
ネットワークケーブルを接続する.....	39
無線アンテナを準備する.....	39

6	電源コードを接続する.....	40
	電源コードを接続する.....	40
7	スピーカー設定を行う.....	41
	スピーカー構成を設定する.....	41
	スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）.....	42
	YPAO のエラーメッセージ一覧.....	44
	YPAO のエラーメッセージ表示後の操作.....	44
	YPAO の警告メッセージ一覧.....	45
	YPAO の警告メッセージ表示後の操作.....	45
8	ネットワークに接続する.....	46
	ネットワーク接続の方法を選ぶ.....	46
	iOS デバイスを使って無線設定する.....	46
	WPS ボタンを使って無線設定する.....	47
9	MusicCast を設定する.....	48
	MusicCast について.....	48
	MusicCast CONTROLLER について.....	48
	MusicCast ネットワークに登録する.....	48

再生する 49

基本操作.....	49
再生の基本操作.....	49
前面ディスプレイの表示を切り替える.....	50
再生画面の名称と機能.....	50
ブラウザ画面の名称と機能.....	51

お好みのサウンドを選ぶ.....	52
お好みのサウンドを選ぶ.....	52
音場効果をかけて再生する.....	53
音場効果をかけずに再生する.....	55
低音を増強する.....	57
圧縮フォーマット（MP3 など）を厚みのある音で再生する.....	57
FM/AM ラジオを聴く.....	58
周波数を指定してラジオ局を選ぶ.....	58
プリセット登録したラジオ局を呼び出す.....	59
ラジオ局を自動でプリセット登録する（オートプリセット）.....	59
ラジオ局を手動でプリセット登録する.....	60
ラジオ局のプリセット登録を解除する（クリアプリセット）.....	60
Bluetooth®接続で再生する.....	61
Bluetooth®機器の音声を本機で再生する.....	61
本機の音声を Bluetooth®対応スピーカー/ヘッドホンで再生する.....	61
AirPlay で音楽を聴く.....	63
AirPlay で iTunes/iPhone の音楽を再生する.....	63
USB 機器の曲を再生する.....	65
USB 機器の曲を再生する.....	65
メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を再生する.....	66
Windows Media Player でメディアの共有設定を行う.....	66
Windows Media Player 以外でメディアの共有設定を行う.....	66
メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を再生する.....	66
インターネットラジオを聴く.....	68
インターネットラジオ局を選ぶ.....	68
インターネットラジオ局をお気に入りに登録する.....	68
Spotify サービスを利用する.....	69
Spotify サービスを利用する.....	69

複数の部屋で音楽を楽しむ.....	70
複数の部屋で音楽を再生する（ゾーン機能）	70
ゾーン B スピーカーを接続する.....	70
ゾーン B の再生を操作する.....	71
ゾーン A/B の音量差を補正する.....	72
ゾーン B の音量を個別に調節する.....	72
便利な再生機能.....	73
入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について（SCENE キー）	73
SCENE キーに登録したシーンを呼び出す.....	73
SCENE キーの登録内容を変更する.....	74
好みのコンテンツをショートカットに登録する.....	74
ショートカットに登録したコンテンツを呼び出す.....	75
再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）	76
再生機能を変更する（オプションメニュー）	76
オプションメニュー一覧.....	76
入力を切り替える（Input Select）	77
出力される音声のトーンを調整する（Tone Control）	77
DSP/サラウンドの設定を変更する（DSP/Surround）	78
再生時の音量差を調整する（Volume Trim）	79
リップシンク補正を使用するか設定する（Lipsync）	79
映像/音声信号情報を確認する（Signal Info.）	79
映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を選択する（Audio In）	80
音声と同時に出力する映像を選択する（Video Out）	80
FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する（FM Mode）	81
シャッフル再生を設定する（Shuffle）	81
リピート再生を設定する（Repeat）	81
AirPlay で再生する機器を本機の音量と連動させるか設定する（Vol. Interlock）	81

設定する

82

機能設定を変更する（設定メニュー）	82
機能設定を変更する（設定メニュー）	82
設定メニュー一覧.....	83
スピーカー設定.....	86
スピーカーシステムの構成を設定する.....	86
サブウーファースの有無を設定する.....	86
フロントスピーカースのサイズを設定する.....	86
センタースピーカースの有無やサイズを設定する.....	87
サラウンドスピーカースの有無やサイズを設定する.....	87
サラウンドバックスピーカースの有無やサイズを設定する.....	88
プレゼンススピーカースの有無やサイズを設定する.....	88
プレゼンススピーカースの配置を設定する.....	89
低音クロスオーバーの周波数を設定する.....	89
サブウーファースの位相を設定する.....	90
エクストラベースを設定する.....	90
バーチャルシネマフロントを設定する.....	90
スピーカースの距離を個別に設定する.....	90
スピーカースの音量を個別に調整する.....	91
イコライザーを設定する.....	91
テストトーンを出力する.....	91

HDMI 設定	92
HDMI コントロールを設定する.....	92
HDMI の音声を TV スピーカーから出力するか設定する.....	92
HDMI スタンバイスルーを設定する.....	92
HDMI 映像信号の 4K アップスケーリングを設定する.....	92
テレビからの音声を入力する端子を設定する.....	93
本機とテレビのスタンバイ連動を設定する.....	93
ARC を設定する.....	93
シーン連動を設定する.....	93
音声設定	94
シネマ DSP 3D モードを設定する.....	94
センタースプレッドを設定する.....	94
センター定位の強さ（広がり感）を調節する.....	94
リップシンクの調整方法を設定する.....	95
リップシンクの補正値を調整する.....	95
セリフの音量を調整する.....	95
DTS:X 再生時にセリフの音量を調整する.....	95
セリフの位置（高さ）を調整する.....	96
音量表示の単位を設定する.....	96
ダイナミックレンジの調節方法を設定する.....	96
音量の上限を設定する.....	97
電源を入れたときの音量を設定する.....	97
ゾーン A とゾーン B の音量を連動させる.....	97
エコ設定	98
自動スタンバイまでの時間を設定する.....	98
エコモードを設定する.....	98

ファンクション設定	99
前面ディスプレイに表示する入力名を自動設定する.....	99
前面ディスプレイに表示する入力名を手動設定する.....	99
入カスキップを設定する.....	100
前面ディスプレイの明るさを設定する.....	100
設定を保護する.....	100
リモコンのカラーキーの機能を変更する.....	100
ネットワーク設定	101
ネットワーク情報を確認する.....	101
ネットワークへの接続方法（有線/無線）を設定する.....	101
ネットワーク情報を自動設定する（DHCP 機能）.....	101
ネットワーク情報を手動設定する.....	102
MAC アドレスフィルターを設定する.....	102
デジタルメディアコントローラーからの操作を設定する.....	103
ネットワークスタンバイを設定する.....	103
本機のネットワーク名を設定する.....	103
本機と MusicCast 対応機器の電源連動を設定する.....	103
ファームウェアを更新する.....	104
Bluetooth	104
Bluetooth を設定する.....	104
Bluetooth スタンバイを設定する.....	104
言語設定	105
メニュー言語を設定する.....	105

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）	106
システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）	106
アドバンスドセットアップメニュー一覧	106
リモコン ID を設定する（REMOTE ID）	107
ビデオ信号方式を設定する（TV FORMAT）	107
HDMI 4K 信号のフォーマットを設定する（4K MODE）	107
DTS フォーマットの通知設定（DTS MODE）	108
設定を初期化する（INIT）	108
ファームウェアを更新する（UPDATE）	108
ファームウェアバージョンを確認する（VERSION）	108

付録 109

ファームウェアを更新する	109
ネットワーク経由で直接ファームウェアを更新する	109
ネットワーク経由でファームウェアをすぐ更新する	109
電源オフ時にネットワーク経由でファームウェアを更新する	110
無線接続する	111
アクセスポイントの一覧から無線接続する	111
手動で無線接続する	112
PIN コード式の WPS で無線接続する	114
無線 LAN ルーターを使わずに無線接続する	114
本機をアクセスポイントにする（ワイヤレスダイレクト）	114

こんな場合の解決方法	116
別のスピーカーに交換したら、音のバランスが以前より悪くなった	116
音量が大きくならないようにしたい	116
電源を入れた時の音量を一定にしたい	116
入力によって音量が違う	116
HDMI コントロールが機能しない	116
入力名を変更したい	116
設定変更を禁止したい	116
本機のリモコンを操作すると、別のヤマハ製機器が同時に動いてしまう	117
本機の電源がスタンバイのときも、テレビでビデオ機器の映像/音声を楽しみたい	117
本機の入力端子（映像/音声）の組み合わせが外部機器と合わない	117
テレビの映像とスピーカーの音声がずれている	117
テレビのスピーカーから音声を出力したい	117
ファームウェアを更新したい	117
故障かな？と思ったら	118
故障かな？と思ったら最初にご確認ください	118
電源/システム/リモコンのトラブル	118
音声のトラブル	119
映像のトラブル	122
FM/AM ラジオのトラブル	123
USB のトラブル	123
ネットワークのトラブル	124
Bluetooth®のトラブル	126
前面ディスプレイのエラー表示	128
前面ディスプレイのエラー表示	128
入出力端子とケーブル	130
映像/音声を入出力する端子	130
映像を入出力する端子	130
音声を入出力する端子	130

用語/技術解説.....	131
音声に関する用語.....	131
HDMI/映像に関する用語.....	133
ネットワークに関する用語.....	133
ヤマハテクノロジーに関する用語.....	133
対応している機器とフォーマット.....	135
対応している Bluetooth 機器.....	135
対応している USB 機器.....	135
対応している AirPlay 機器.....	135
対応しているファイルフォーマット.....	135
映像信号の流れ.....	136
映像信号の流れ.....	136
HDMI について.....	136
HDMI コントロールと連動機能.....	136
オーディオリターンチャンネル (ARC)	138
対応している HDMI 信号.....	138
商標.....	139
商標.....	139
主な仕様.....	141
主な仕様.....	141
初期値一覧.....	145
オプションメニュー初期値一覧.....	145
設定メニュー初期値一覧.....	145
アドバンスドセットアップメニュー初期値一覧.....	146

ご使用になる前に

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、機器を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号



- 点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / 電源コード



禁止

電源コードが破損するようなことをしない。

- ストーブなどの熱器具に近づけない
- 無理に曲げたり、加工しない
- 傷つけない
- 重いものをのせない

芯線がむき出しのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



禁止

落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らない。

感電の原因になります。



必ず実行

電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。

誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

火災または感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



必ず実行

雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

火災や故障の原因になります。



必ず実行

長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

分解禁止



禁止

この機器を分解したり改造したりしない。

火災、感電、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

水に注意



禁止

- この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
- 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。また、ぬれた手でこの機器を扱わない。

感電や故障の原因になります。

火に注意



禁止

この機器の近くで、火気を使用しない。火災の原因になります。

乾電池



禁止

乾電池を分解しない。

乾電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、失明や化学やけどなどのおそれがあります。



禁止

乾電池を火の中に入れない。

破裂により、火災やけがの原因になります。



禁止

乾電池を日光や火のような高温に晒さない。

破裂により、火災やけがの原因になります。



禁止

使い切りタイプの乾電池は充電しない。

充電すると破裂や液漏れの原因になり、失明や化学やけど、けがなどのおそれがあります。



禁止

乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。

失明や化学やけどなどのおそれがあります。万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

ワイヤレス機器



禁止

医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使用しない。

この機器が発生する電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。



禁止

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から 15cm 以内で使用しない。

この機器が発生する電波により、ペースメーカーや除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。

異常に気づいたら



必ず実行

以下のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・ 電源コード/プラグが傷んだ場合
- ・ 機器から異常なおいや煙が出た場合
- ・ 機器の内部に異物が入った場合
- ・ 使用中に音が出なくなった場合
- ・ 機器に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。



禁止

この機器を落としたり、強い衝撃を与えたりしないように注意する。落とすなどして破損したおそれのある場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / 電源コード



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。

火災、感電、やけどの原因になります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。

設置



禁止

不安定な場所や振動する場所に置かない。

この機器が落下や転倒して、けがや故障の原因になります。



禁止

この機器の通風孔(放熱用スリット)をふさがない。

内部の温度上昇を防ぐため、この機器の天面/側面/底面には通風孔があります。機器内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。



禁止

この機器を設置する際は、

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたんやカーペットなどの上には設置しない。
- 天面以外を上にして設置しない。
- 風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

機器内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。本機の周囲に上 30cm、左右 20cm、背面 20cm 以上のスペースを確保してください。



禁止

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。

故障の原因になります。



禁止

地震など災害が発生した場合はこの機器に近づかない。

この機器が転倒または落下して、けがの原因になります。



必ず実行

この機器を移動する前に、必ず電源スイッチを切り、接続ケーブルをすべて外す。

ケーブルを傷めたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

聴覚障害



禁止

大きな音量で長時間ヘッドホン/スピーカーを使用しない。

聴覚障害の原因になります。異常を感じた場合は、医師にご相談ください。



必ず実行

- ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。
- 電源を入れたり切ったりする前に、必ずこの機器の音量(ボリューム)を最小にする。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。



必ず実行

オーディオシステムの電源を入れるときは、この機器をいつも最後に入れる。電源を切るときは、この機器を最初に切る。

聴覚障害やスピーカーの損傷の原因になることがあります。

お手入れ



必ず実行

お手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になることがあります。

取り扱い



禁止

この機器のパネルのすき間に手や指を入れない。

けがの原因になります。



禁止

この機器のパネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

火災、感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

- この機器の上ののったり重いものをのせたりしない。
- ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

けがをしたり、この機器が破損したりする原因になります。



禁止

接続されたケーブルを引っ張らない。
接続されたケーブルを引っ張ると、機器が転倒して破損したり、けがをしたりする原因になります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液漏れにより、火災やけがの原因になります。

乾電池



禁止

乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。

乾電池は一度に全部を交換してください。新しいものと古いものを一緒に使用すると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



禁止

指定以外の電池を使用しない。また、種類の異なる乾電池を一緒に使用しない。

アルカリとマンガンと一緒に使用したり、メーカーまたは品番の異なる電池と一緒に使用したりすると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



禁止

乾電池は乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。



必ず実行

乾電池はすべて+/-の極性表示どおりに正しく入れる。

正しく入れていない場合、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



必ず実行

長時間使用しない場合や乾電池を使い切った場合は、乾電池をリモコンから抜いておく。

乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、炎症やリモコンの損傷の原因になります。



必ず実行

乾電池を保管する場合および廃棄する場合には、テープなどで端子部を絶縁する。

他の電池や金属製のものと混ぜると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。

注記とお知らせ

注記について

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、また環境保護のため、お守りいただく内容です。

注記

■ 電源コード

- この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。⓪（電源）キーでスタンバイ状態にしても微電流が流れています。

■ 設置

- テレビやラジオ、AV 機器、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 他の電気製品とはできるだけ離して設置してください。この機器はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

- 無線ネットワークや Bluetooth を使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線機器の近くへの設置を避けてください。遮蔽物があると通信可能距離が短くなる場合があります。

■ 接続

- 外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。
- 業務用機器とは接続しないでください。デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

■ 取り扱い

- この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色/変質する原因になります。
- 機器の周囲温度が極端に変化して（機器の移動時や急激な冷暖房下など）、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。

■ お手入れ

- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になります。

■ 電池

- 使用済みの乾電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

お知らせについて

本製品に関するお知らせです。

お知らせ

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- この製品は、日本国内専用です。
- この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

本機の無線方式について

(Wi-Fi)

2.4 DS/OF 4

「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「DS/OF」：変調方式は DS-SS および OFDM 方式

「4」：想定干渉距離が 40 m 以内

■■■■ ■■■■ ■■■■：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

(Bluetooth)

2.4 FH 1

「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「FH」：変調方式は周波数ホッピング（FH-SS 方式）

「1」：想定干渉距離が 10 m 以内

■■■■ ■■■■ ■■■■：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

本機は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を搭載しています。

付属品を確認する

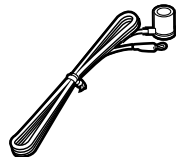
付属品を確認する

付属品がすべて揃っていることをお確かめください。

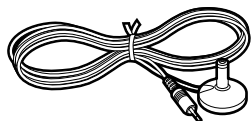
□ AM アンテナ



□ FM アンテナ



□ YPAO 用マイク



□ リモコン

□ 単 4 乾電池 (2 本)

□ 取扱説明書

□ スタートアップガイド

本説明書について

本説明書について

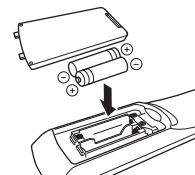
本説明書をお読みになる時は、以下にご注意ください。

- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本説明書では、付属のリモコンによる操作を主として説明しています。
- 本説明書では、iPhone、iPad、iPod touch を総称して「iPhone」と表記します。説明文に限定する記載がない場合、「iPhone」という表記は iPhone、iPad および iPod touch を意味します。
- 本説明書内で使用されているマーク
 - 「 **警告**」は、死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される情報が記載されています。
 - 「 **注意**」は、傷害を負う可能性が想定される情報が記載されています。
 - 「**注記**」は、製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐための情報が記載されています。
 - 「**NOTE**」は、知っておくと便利な補足情報が記載されています。

リモコンで操作するには

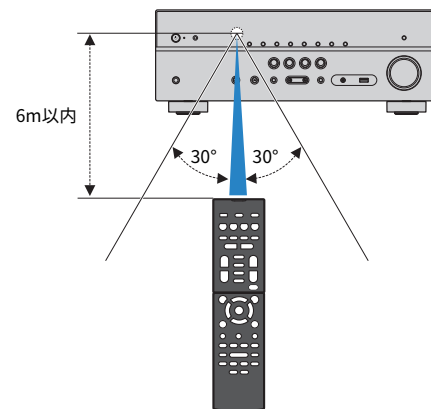
リモコンに電池を入れる

付属の乾電池を、正しい向き（+と-）でリモコンに入れてください。



リモコンの操作範囲

リモコンを本体のリモコン信号受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



本機の特長

本機でできること

2～7.1 チャンネルのスピーカーシステムに対応

使用するスピーカーの本数に応じてさまざまなスタイルでお好みの音響空間を満喫できます。

- 部屋に合わせてスピーカー設定を簡単に自動調整 (YPAO)
詳しくは「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(42 ページ) をご覧ください。
- ステレオ音声やマルチチャンネル音声を映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場で再現 (シネマ DSP)
詳しくは「立体的な音場効果で再生する (シネマ DSP 3D)」(53 ページ) をご覧ください。
- 圧縮オーディオをダイナミックに再生 (ミュージックエンハンサー)
詳しくは「圧縮フォーマット (MP3 など) を厚みのある音で再生する (ミュージックエンハンサー)」(57 ページ) をご覧ください。
- ゾーン機能を使用して本機を設置した部屋 (ゾーン A) と別の部屋 (ゾーン B) で再生
詳しくは「複数の部屋で音楽を再生する (ゾーン機能)」(70 ページ) をご覧ください。

入力と設定をワンタッチで切り替え (シーン機能)

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容 (音場プログラム、ミュージックエンハンサーの有効/無効など) をワンタッチで切り替えられます。

詳しくは「入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について (SCENE キー)」(73 ページ) をご覧ください。

4K Ultra HD 信号および HDCP2.2 に対応

本機は著作権保護技術 HDCP2.2 に対応し、4K 映像などプレミアムコンテンツの再生を楽しめます。

詳しくは「HDMI 4K 信号のフォーマットを設定する (4K MODE)」(107 ページ) をご覧ください。

ネットワーク経由でさまざまなコンテンツに対応

本機を有線または無線でネットワークに接続すると、ネットワーク経由で幅広いコンテンツを楽しめます。

- 有線接続と無線接続に対応
詳しくは「ネットワークケーブルを接続する」(39 ページ) または「ネットワーク接続の方法を選ぶ」(46 ページ) をご覧ください。
- メディアサーバー (パソコン/NAS)
詳しくは「メディアサーバー (パソコン/NAS) の曲を再生する」(66 ページ) をご覧ください。
- インターネットラジオ
詳しくは「インターネットラジオ局を選ぶ」(68 ページ) をご覧ください。
- AirPlay
詳しくは「AirPlay で iTunes/iPhone の音楽を再生する」(63 ページ) をご覧ください。
- Spotify
詳しくは「Spotify サービスを利用する」(69 ページ) をご覧ください。

さまざまな外部機器を接続

本機は、複数の HDMI 端子に加え、各種の入力/出力端子を装備しています。BD/DVD レコーダーなどのビデオ機器や、CD プレーヤーなどのオーディオ機器、ゲーム機や携帯音楽プレーヤーなどさまざまな外部機器を、本機に接続できます。詳しくは以下をご覧ください。

- ・「BD/DVD レコーダーなどを HDMI 接続する」
(36 ページ)
- ・「BD/DVD レコーダーなどをビデオ（コンポジット）接続する」(36 ページ)
- ・「CD プレーヤーなどを接続する」
(37 ページ)
- ・「本体前面の端子に AV 機器を接続する」
(37 ページ)

HDMI ケーブル 1 本でテレビ音声もサラウンド再生（オーディオリターンチャンネル：ARC）

ARC 対応のテレビをお使いの場合は、本機からテレビへの映像出力と、テレビからの音声入力、HDMI コントロール信号の伝送が、HDMI ケーブル 1 本ですべて可能です。

詳しくは「テレビを HDMI 接続する」
(35 ページ) をご覧ください。

テレビ、AV レシーバー、BD/DVD レコーダーを連動操作（HDMI コントロール）

HDMI ケーブルで本機とテレビや BD/DVD レコーダーなどを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機（電源や音量など）や BD/DVD レコーダーを操作できます。

詳しくは「HDMI コントロールと連動機能」
(136 ページ) をご覧ください。

Bluetooth®機器に対応

Bluetooth 機器に保存した音楽ファイルを本機で再生できます。

詳しくは「Bluetooth®機器の音声を本機で再生する」
(61 ページ) をご覧ください。

USB 機器に対応

USB 機器に保存した音楽ファイルを本機で再生できます。

詳しくは「USB 機器の曲を再生する」
(65 ページ) をご覧ください。

前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生

サラウンドスピーカーを前方に設置しても、サラウンド再生を楽しめます。

詳しくは「前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ（バーチャルシネマフロント）」
(55 ページ) をご覧ください。

原音に忠実な音質で再生

ダイレクト再生を使えば、本機は入力音声を最小限の回路だけで出力します。原音の音質を存分に堪能できます。

詳しくは「原音に忠実な音質で再生する（ダイレクト再生）」
(56 ページ) をご覧ください。

エコ機能で消費電力を低減

エコモード（省電力モード）に設定すると、本機の消費電力を低減できます。

詳しくは「エコモードを設定する」
(98 ページ) をご覧ください。

低音を増強して再生

エクストラベースにより、フロントスピーカーの大きさやサブウーファースの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

詳しくは「低音を増強する（エクストラベース）」
(57 ページ) をご覧ください。

FM/AM ラジオを聴く

本機は FM/AM チューナーを内蔵しています。最大 40 局のラジオ局をプリセット登録して呼び出せます。

詳しくは「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」
(58 ページ) をご覧ください。

テレビ画面を見ながら簡単操作

USB 機器の曲やインターネットラジオ局の選択、オプションメニューや設定メニューの設定などは、テレビ画面の表示を見ながら簡単に操作できます。

HDMI 接続機器に応じて自動的に名称生成

本体前面ディスプレイに表示する入力名称を、自動名称変更機能で生成された名称から選択できます。

詳しくは「前面ディスプレイに表示する入力名を自動設定する」(99 ページ)をご覧ください。

AV SETUP GUIDE



「AV SETUP GUIDE」は、AV レシーバーとプレーヤーなどの再生機器とのケーブル接続や、AV レシーバーの設定を簡単に行えるアプリです。スピーカー接続やテレビ・再生機器の接続、パワーアンプアサインなどのさまざまな設定をガイドしながら進めます。

NOTE

本アプリはタブレット専用です。

主な機能

- 接続ガイド機能
 - スピーカー接続
 - テレビ/再生機器接続
- 設定ガイド機能
 - ネットワーク機能による自動本体設定（HDMI やパワーアンプアサインなど）
 - 図・イラストによる各種設定サポート
 - YPAO の測定ガイド
- 取扱説明書の参照機能

詳しくは App Store または Google Play™で「AV SETUP GUIDE」を検索してください。

AV CONTROLLER



「AV CONTROLLER」は、AV レシーバーの電源の ON/OFF、ボリューム調節などの基本操作をはじめ、入力ソースの切り替え、曲の再生・ストップなど、さまざまな操作が行えるアプリです。

主な機能

- 電源の ON/OFF やボリューム調節、ミュートなどの操作
- 入力ソースの切り替え
- 端末内の音楽再生
- 再生している曲のタイトル名、アルバム名、アーティスト名を表示
- DSP モードの切り替え
- SCENE の切り替え
- デモモード

詳しくは App Store または Google Play™で「AV CONTROLLER」を検索してください。

MusicCast CONTROLLER



「MusicCast CONTROLLER」は、MusicCast 対応機器を操作するアプリです。別々の部屋に設置した複数の MusicCast 対応機器で音楽を共有することができます。

スマートフォンなどのモバイル機器をリモコンとして、MusicCast 対応機器の選曲や設定が簡単にできます。

主な機能

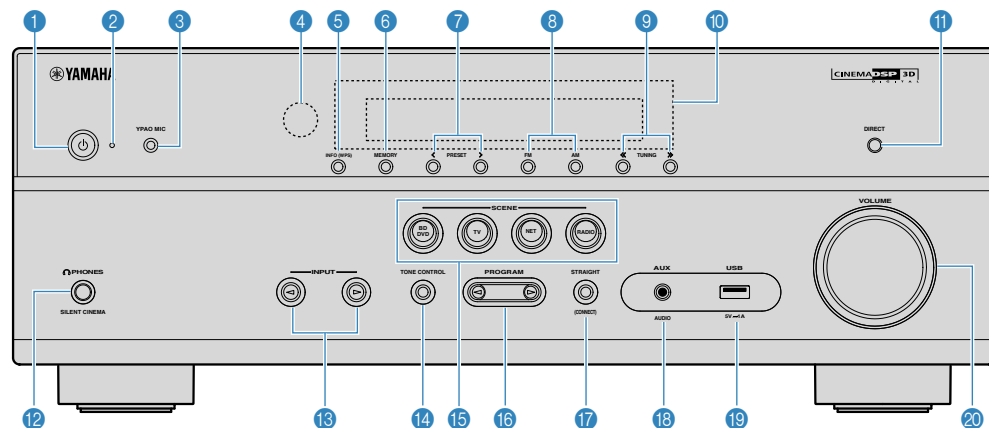
- さまざまなコンテンツの選曲（選局）/再生
 - モバイル機器の音楽を再生
 - インターネットラジオの放送局を選ぶ
 - メディアサーバー（パソコン/NAS）の音楽を再生
 - USB 機器内の音楽を再生
- 本機の操作/設定
 - 入力ソース選択、音量調節、ミュート
 - 各種音声処理

詳しくは App Store または Google Play™で「MusicCast CONTROLLER」を検索してください。

各部の名称

本体前面の名称と機能

本体前面の名称と機能について説明します。



① 〇（電源）キー

本機の電源を入/切（スタンバイ）します。

② スタンバイ表示

本機がスタンバイ時、以下のいずれかの状態で点灯します。

- ・ HDMI コントロールが有効（92 ページ）
- ・ スタンバイスルーが有効（92 ページ）
- ・ ネットワークスタンバイが有効（103 ページ）

③ YPAO MIC（YPAO マイク）端子

付属の YPAO 用マイクを接続します（42 ページ）。

④ リモコン信号受光部

リモコンの信号を受信します（15 ページ）。

⑤ INFO（WPS）（インフォ [WPS]）キー

前面ディスプレイの表示を切り替えます（50 ページ）。

3 秒間押し続けると、無線 LAN ルーターの WPS ボタンを使って無線ネットワーク接続の設定ができます（47 ページ）。

⑥ MEMORY（メモリー）キー

FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します（60 ページ）。

⑦ PRESET（プリセット）キー

プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます（59 ページ）。

⑧ FM/AM キー

FM/AM を切り替えます（58 ページ）。

⑨ TUNING（チューニング）キー

ラジオ周波数を切り替えます（58 ページ）。

⑩ 前面ディスプレイ

各種情報が表示されます（22 ページ）。

⑪ DIRECT（ダイレクト）キー

ダイレクト再生を有効/無効にします（56 ページ）。

⑫ PHONES（フォーンズ）端子

ヘッドホンを接続します。

⑬ INPUT（インプット）キー

入力を切り替えます。

⑭ TONE CONTROL（トーンコントロール）キー

出力される音声の高音域と低音域音量を、それぞれ調節します（77 ページ）。

15 SCENE (シーン) キー

登録した入力、音場プログラムにワンタッチで切り替えます (73 ページ)。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

16 PROGRAM (プログラム) キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーを選びます (52 ページ)。

17 STRAIGHT (CONNECT) (ストレート [コネクト]) キー

ストレートデコードを有効/無効にします (55 ページ)。

5 秒間押し続けると、MusicCast CONTROLLER を使って、ネットワークの設定ができます (48 ページ)。

18 AUX 端子

携帯音楽プレーヤーなどの機器を接続します (37 ページ)。

19 USB 端子

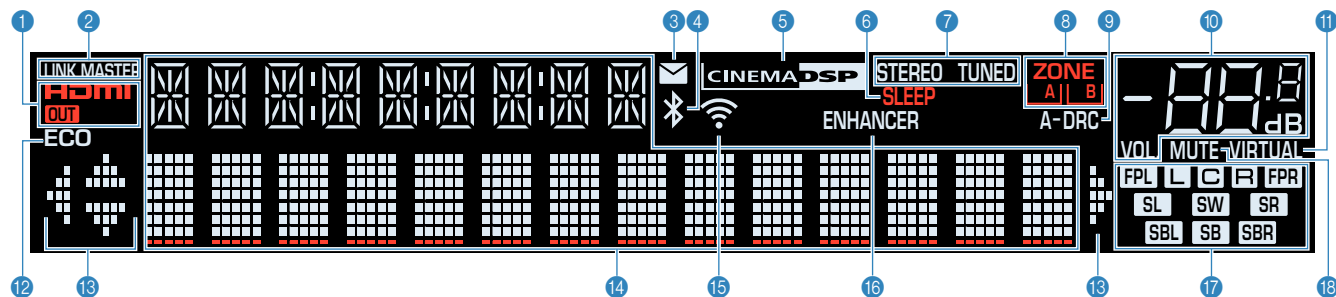
USB 機器を接続します (65 ページ)。

20 VOLUME (ボリューム) つまみ

音量を調節します。

本体前面ディスプレイ（インジケーター）の名称と機能

本体前面のディスプレイの名称と機能について説明します。



① HDMI

HDMI 信号入力/出力時に点灯します。

OUT (アウト)

HDMI 信号出力時に点灯します。

② LINK MASTER (リンクマスター)

MusicCast ネットワークの親機として動作しているときに点灯します。

③ ファームウェア更新表示

ファームウェアの更新 (109 ページ) があるときに点灯します。

④ BLUETOOTH (ブルートゥース)

Bluetooth 接続時 (61 ページ) に点灯します。

⑤ CINEMA DSP (シネマ DSP)

シネマ DSP (53 ページ) またはシネマ DSP 3D (53 ページ) が機能しているときに点灯します。

⑥ SLEEP (スリープ)

スリープタイマー設定時に点灯します。

⑦ STEREO (ステレオ)

ステレオ放送受信時に点灯します。

TUNED (チューンド)

FM/AM ラジオ受信時に点灯します。

⑧ ゾーン表示

音声を出力しているゾーン (70 ページ) を表示します。

⑨ A-DRC (アダプティブ DRC)

アダプティブ DRC (78 ページ) が機能しているときに点灯します。

⑩ 音量表示

音量を表示します。

⑪ VIRTUAL (バーチャル)

バーチャル処理をしているときに点灯します。

⑫ ECO (エコ)

エコモード (98 ページ) が有効になっているときに点灯します。

⑬ カーソル表示

操作可能なリモコンのカーソルキーを表示します。

⑭ 情報ディスプレイ

選択中の入力や音場プログラムなど、ステータス情報を表示します。INFO キーで、表示する情報を選べます (50 ページ)。

⑮ 信号強度表示

無線接続時 (46 ページ) に無線信号の強度を表示します。

NOTE

本機を MusicCast ネットワークに登録すると点灯する場合があります (48 ページ)。

⑯ ENHANCER (エンハンサー)

ミュージックエンハンサー (57 ページ) が機能しているときに点灯します。

17 スピーカー表示

音声を出力しているスピーカー端子を表示します。

L フロントスピーカー（左）

R フロントスピーカー（右）

C センタースピーカー

SL サラウンドスピーカー（左）

SR サラウンドスピーカー（右）

SBL サラウンドバックスピーカー（左）

SBR サラウンドバックスピーカー（右）

SB サラウンドバックスピーカー

FPL プレゼンススピーカー（左）

FPR プレゼンススピーカー（右）

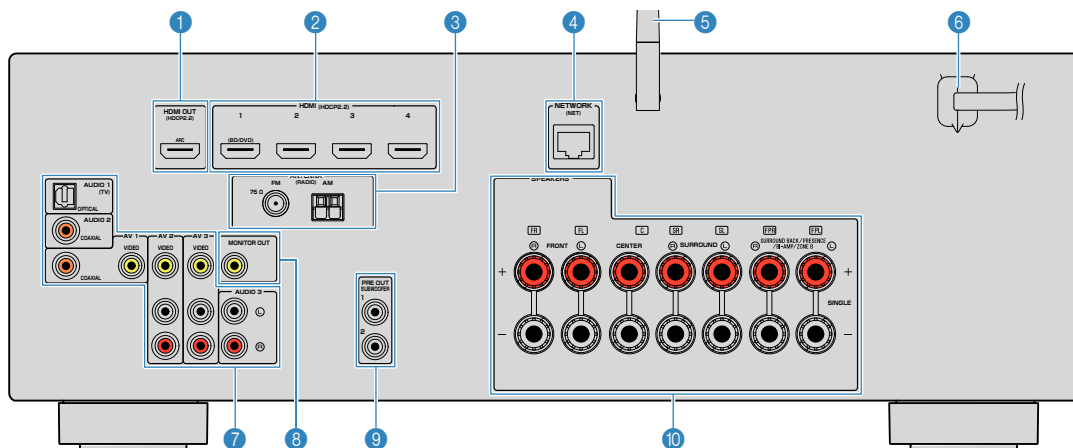
SW サブウーファー

18 MUTE（ミュート）

ミュートが機能しているときに点滅します。

本体背面の名称と機能

本体背面の名称と機能について説明します。



- 実際の製品では、誤接続を防ぐために映像/音声出力端子の周辺が白色で塗られています。

① HDMI OUT (HDMI アウト) 端子

HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像/音声を出します (35 ページ)。ARC 使用時は、HDMI OUT 端子でテレビ音声の入力も可能です。

② HDMI1~4 端子

HDMI 出力対応の再生機器を接続し、映像/音声を入力します (36 ページ)。

③ ANTENNA (アンテナ) 端子

FM アンテナと AM アンテナを接続します (38 ページ)。

④ NETWORK (ネットワーク) 端子

本機をネットワークに有線接続する場合に、ネットワークケーブルを接続します (39 ページ)。

⑤ ワイヤレスアンテナ

本機をネットワークに無線 (Wi-Fi) 接続する場合に使用します (46 ページ)。Bluetooth 接続にも使用します (61 ページ)。

⑥ 電源コード

電源コードのプラグをコンセントに接続します (40 ページ)。

⑦ AUDIO1~3 端子、AV1~3 端子

映像/音声出力を持つ再生機器を接続し、映像/音声を入力します (36 ページ)。

⑧ MONITOR OUT (モニターアウト) 端子

テレビを接続し、映像を出します (35 ページ)。

⑨ SUBWOOFER PRE OUT (サブウーファープリアウト) 端子

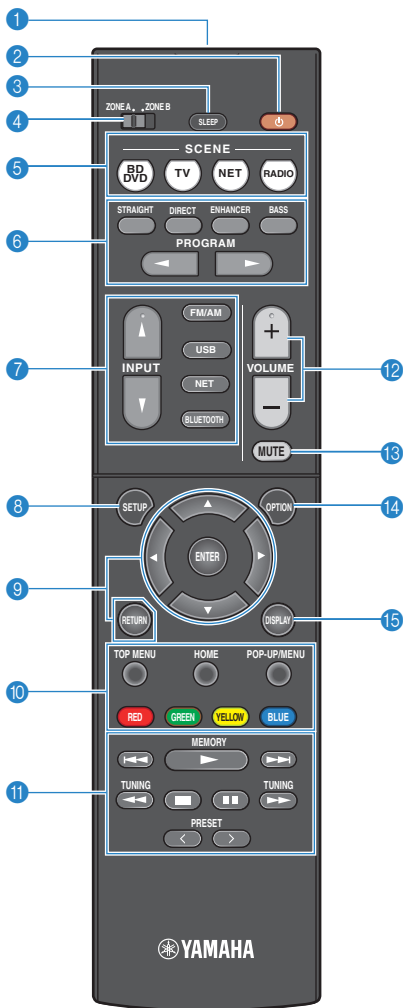
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します (28 ページ)。

⑩ SPEAKERS (スピーカー) 端子

スピーカーを接続します (26 ページ)。

リモコンの名称と機能

リモコンの名称と機能について説明します。



① リモコン信号送信部

赤外線を送信します。

② 〇 (レシーバー電源) キー

本機の電源を入/切 (スタンバイ) します。

③ SLEEP (スリープ) キー

繰り返し押してスリープタイマーの時間 (120 分、90 分、60 分、30 分、切) を設定します。スリープタイマー設定中は、前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。指定した時間が経過すると、本機がスタンバイになります。

④ ZONE A/ZONE B (ゾーン A/ゾーン B) スイッチ

リモコンで操作するゾーン (ゾーン A、ゾーン B) を切り替えます (71 ページ)。

⑤ SCENE (シーン) キー

登録した入力、音場プログラムにワンタッチで切り替えます (73 ページ)。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

⑥ サウンド選択キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーなどを選びます (52 ページ)。

⑦ 入力選択キー

再生する入力を選びます。

以下のキーを押すと、それぞれの入力を直接選択できます。

FM/AM キー FM/AM ラジオ

USB キー USB 機器

NET キー ネットワーク入力 (繰り返し押して「Spotify」、「AirPlay」、「MusicCast Link」、「SERVER」、「NET RADIO」を切り替えます)

BLUETOOTH キー Bluetooth 機器

⑧ SETUP (セットアップ) キー

設定メニューを表示します (82 ページ)。

⑨ メニュー操作キー

カーソルキー メニューや設定値を選びます。

ENTER キー 選択項目を決定します。

RETURN キー メニュー操作中に、1 つ前の表示に戻します。

⑩ ⑪ 外部機器操作キー

HDMI コントロールに対応している再生機器の再生操作を行います。また、USB 機器やメディアサーバー (パソコン/NAS) などの再生操作を行います。

NOTE

- HDMI コントロールに対応している再生機器が対象です。ただし、すべての HDMI コントロール対応機器の動作を保証するものではありません。
- RED、GREEN、YELLOW、BLUE の各キーには、本機の機能を割り当てることができます (100 ページ)。

⑪ ラジオキー

入力が「TUNER」のときに FM/AM ラジオを操作します (58 ページ)。

MEMORY キー FM/AM ラジオ局をプリセット (登録) します。

PRESET キー プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます。

TUNING キー ラジオ周波数を切り替えます。

⑫ VOLUME (ボリューム) キー

音量を調節します。

⑬ MUTE (ミュート) キー

消音します。

⑭ OPTION (オプション) キー

オプションメニューを表示します (76 ページ)。

⑮ DISPLAY (ディスプレイ) キー

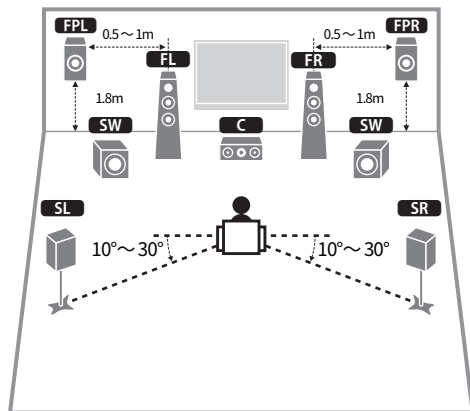
テレビに再生画面、ブラウズ画面などを表示します。

準備する

1 スピーカーを接続する

スピーカーの名称と機能

本機に接続する各スピーカーの名称と機能について説明します。



NOTE

- サブウーファー（アンプ内蔵）を2台まで接続できます。各サブウーファーからは同じ音声が出力されます。
- サブウーファーを1台のみ接続する場合は、左右どちらに設置してもかまいません。

スピーカーの種類	略称	機能
フロント左/右	FL / FR	フロント左/右チャンネルの音声（ステレオ音声）を出力します。
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ/ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
サラウンド左/右	SL / SR	サラウンド左/右チャンネルの音声を出力します。 サラウンドバック左/右を使用していない場合は、サラウンドバックチャンネルの音声も出力します。
サラウンドバック左/右	SBL / SBR	サラウンドバック左/右チャンネルの音声を出力します。
サラウンドバック	SB	サラウンドバック左/右チャンネルをミックスした音声を出力します。
プレゼンス左/右	FPL / FPR	シネマ DSP の効果音や、Dolby Atmos および DTS:X コンテンツの上方チャンネルの音声を出力します。
サブウーファー	SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。 サブウーファーのチャンネル数は「0.1」と表します。

スピーカーの準備

本機に接続するスピーカーとサブウーファーは、以下の条件に合うものを準備してください。

- スピーカーはインピーダンスが 6Ω 以上のもの
- サブウーファーはアンプ内蔵のもの

NOTE

- スピーカーは使用するシステムに応じた数を準備してください。
- フロントスピーカー（左/右）は必ず接続してください。

スピーカーケーブルの準備

本機とスピーカーを接続するために、以下のケーブル（市販品）を準備してください。

- スピーカーケーブル（スピーカー接続用）



- モノラルピンケーブル（サブウーファー接続用）



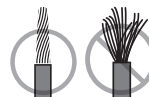
スピーカーケーブルの加工・接続時のご注意

スピーカーケーブルを加工・接続するときは、以下の内容に注意してください。

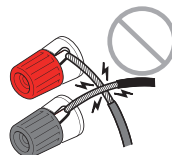
注記

- スピーカーケーブルを加工するときは、本機から離れた場所で行ってください。スピーカーケーブルの芯線が機内部に入りショートするなど、故障の原因となります。
- 誤った方法でスピーカーケーブルを接続すると、スピーカーケーブルがショートし、本機やスピーカーが故障する原因となります。

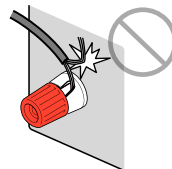
- 芯線の先端をしっかりとよじる



- 芯線どうしを接触させないでください。



- 芯線の本機の金属部（背面パネル、ネジなど）に接触させないでください。



NOTE

電源を入れて前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示された場合は、電源を切り、スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください。

スピーカーの接続のしかた

■ スピーカーを接続する

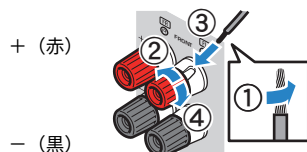
本機とスピーカーの－（マイナス）端子どうし、＋（プラス）端子どうしを接続してください。

通常スピーカーケーブルは2芯（＋と－）で1本になっています。色で区別されている場合、黒を－（マイナス）側、もう一方を＋（プラス）側と決めておく間違わずに接続できます。

NOTE

- 接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。
- フロントスピーカー（左/右）は必ず接続してください。

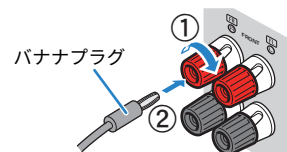
- 1** スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約 10mm はがし、芯線をしっかりとよじる。
- 2** スピーカー端子をゆるめる。
- 3** 端子側面のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。
- 4** 端子を締め付ける。



これでスピーカーの接続は完了です。

NOTE

- 電源を入れて前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示された場合は、電源を切り、スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください。
- バナナプラグを使用する場合は、スピーカー端子をゆるめず端子に差し込んでください。

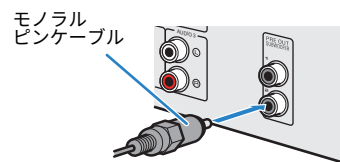


■ サブウーファーを接続する

本機とサブウーファーをモノラルピンケーブルで接続します。

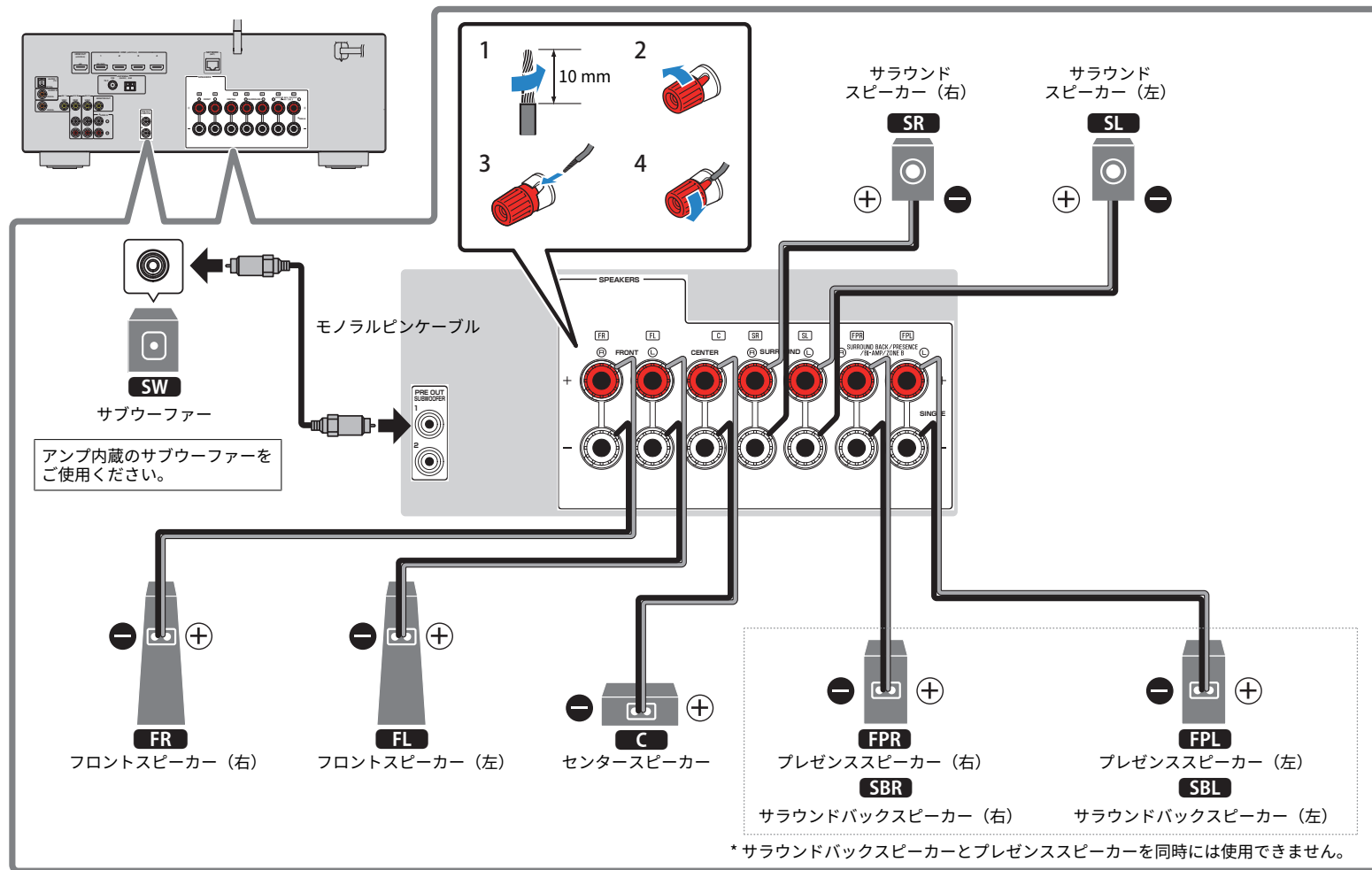
NOTE

接続する前に、本機とサブウーファーの電源プラグをコンセントから外してください。



■ スピーカーの接続例

本機にスピーカーおよびサブウーファーを接続します。



NOTE

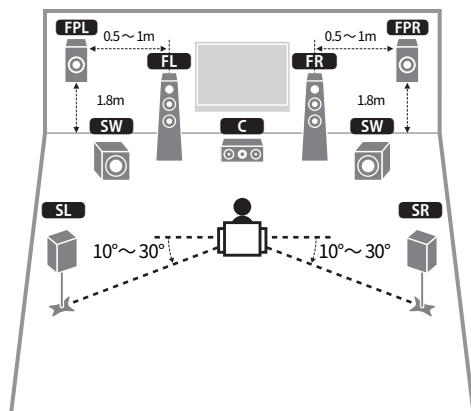
- サブウーファー（アンプ内蔵）を2台まで接続できます。各サブウーファーからは同じ音声出力されます。
- サブウーファーを1台のみ接続する場合は、左右どちらに設置してもかまいません。

5.1.2 システム

フロントプレゼンススピーカーを使って、自然で立体的な視聴空間を実現します。またサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカーを創り出し（VSBS）、後方奥行き感ある視聴空間を実現します。5.1チャンネルのコンテンツだけでなく、7.1チャンネルのコンテンツを楽しむにも適したシステムです。

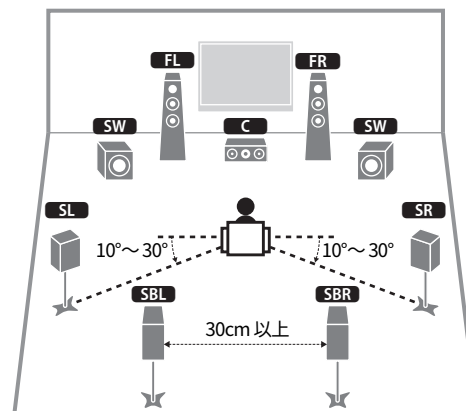
NOTE

- （チャンネル数の表記について）例えば、「5.1.2」は従来の5.1チャンネルに加え、上方のスピーカー用チャンネルが2チャンネル分存在することを表します。
- プレゼンススピーカーを天井に配置する場合や、ドルビーイネーブルドスピーカーをプレゼンススピーカーとして使用する場合は、設定メニューの「配置」を環境にあわせて設定してください。詳しくは「プレゼンススピーカーの配置を設定する」（89ページ）をご覧ください。



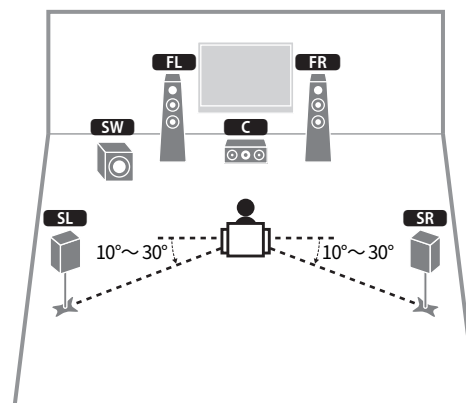
7.1 システム

フロント、センター、サラウンドスピーカーを使って前方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し（VPS）、立体的な視聴空間を実現します。また、サラウンドバックスピーカーを使った拡張サラウンドもお楽しみいただけます。



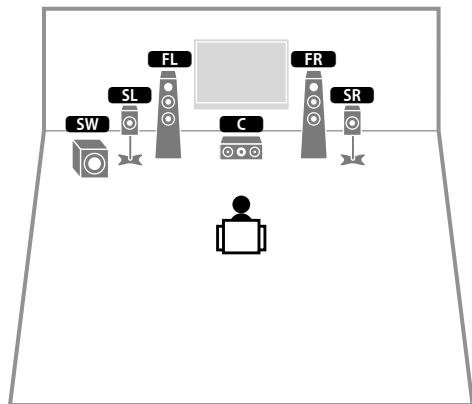
5.1 システム

サラウンド再生を楽しむ基本的な配置です。



5.1 システム（バーチャルシネマフロント）

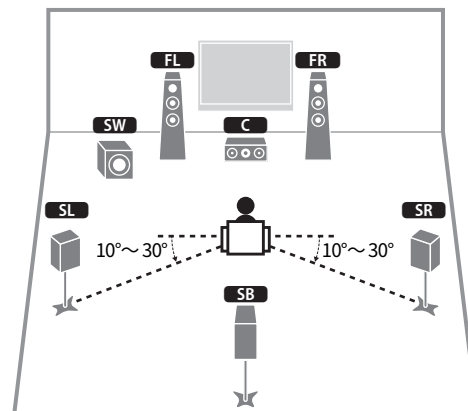
部屋の後方にスピーカーを配置できない場合におすすめのスピーカーシステムです。このスピーカーシステムを有効にするには、設定メニューの「バーチャルシネマフロント」を「オン」に設定してください。詳しくは「バーチャルシネマフロントを設定する」（90 ページ）をご覧ください。



その他のシステム

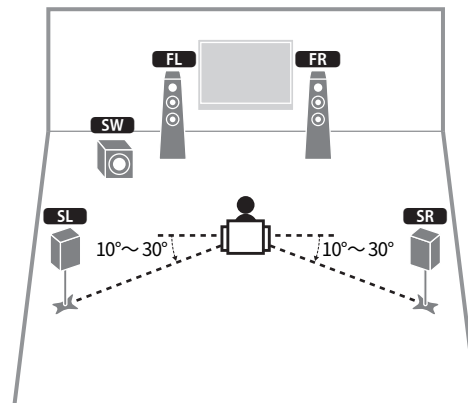
本機は以下のスピーカーシステムも接続できます。

6.1 システム

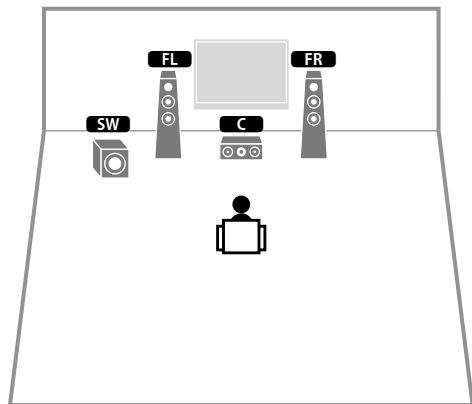


* サラウンドバックスピーカーは、SURROUND BACK/PRESENCE/BI-AMP/ZONE B 端子の SINGLE 側（L 側）に接続してください。

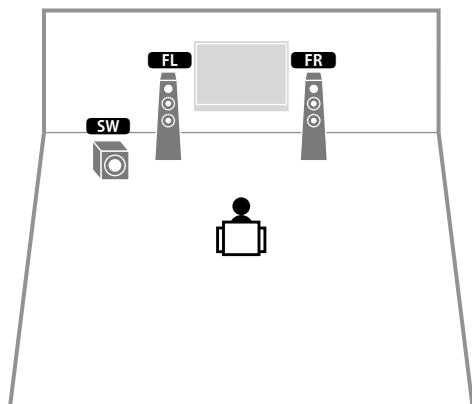
4.1 システム



3.1 システム



2.1 システム



NOTE

ゾーン B スピーカーを接続するには、「ゾーン B スピーカーを接続する」(70 ページ)をご覧ください。

プレゼンスピーカーについて

■ プレゼンスピーカーの配置の選択

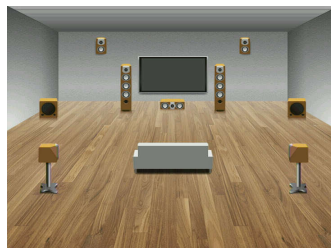
プレゼンスピーカーの配置方法は 3 種類あります（フロントハイト、オーバーヘッド、ドルビーイネーブルド SP）。視聴環境に合わせていずれかを選んでください。

NOTE

- どの配置方法でも Dolby Atmos、DTS:X およびシネマ DSP3D をお楽しみいただけます。
- 天井にプレゼンスピーカーを設置する場合、またはドルビーイネーブルドスピーカーをプレゼンスピーカーとして使用する場合は、スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）前に、設定メニューの「配置」で該当するスピーカー選択をしてください。詳しくは「プレゼンスピーカーの配置を設定する」（89 ページ）をご覧ください。

■ プレゼンスピーカーをフロントハイトに配置する

プレゼンスピーカーを部屋の前方の壁に設置します。上下左右の空間のつながり感と広がり感を効果的に再現します。

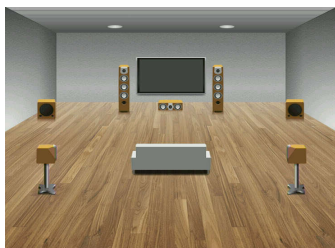


■ プレゼンスピーカーをオーバーヘッドに配置する

プレゼンスピーカーを視聴位置上部の天井に設置します。上部からのリアルな効果音や前後のつながりを効果的に再現します。

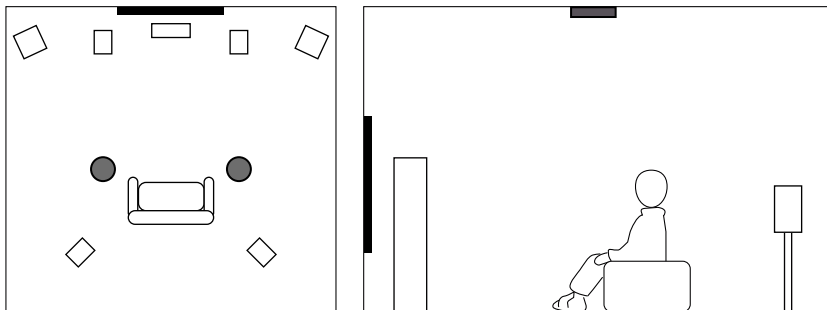
⚠ 注意

- 必ず天井への取り付けに対応したスピーカーを使用し、落下防止措置を講じてください。スピーカーが落下し、故障やけがの原因となります。また、取り付けはご購入店または専門業者に依頼してください。



NOTE

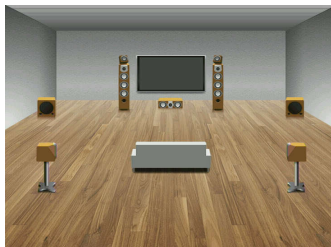
プレゼンスピーカーを天井に取り付ける場合は、視聴位置の上部、または視聴位置とフロントスピーカーの間の天井に設置します。



■ プレゼンスピーカーにドルビーイネーブルド SP を使用する

プレゼンスピーカーとしてドルビーイネーブルドスピーカー (Dolby Enabled Speaker) を使用します。天井の反射を利用し、床置きスピーカーのみで上方スピーカーを再現できます。

詳しくは、ドルビーイネーブルドスピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。



NOTE

- ドルビーイネーブルドスピーカーはフロントスピーカーの上部またはすぐそばに配置してください。
- 1本のスピーカーにドルビーイネーブルドスピーカーが組み込まれている場合があります。

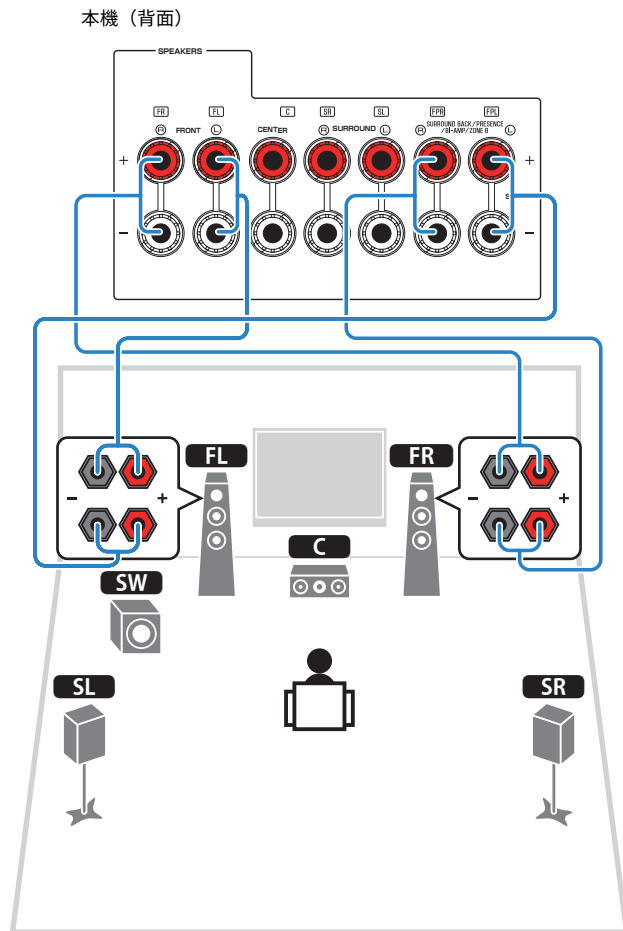
バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを接続する

バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続します。

バイアンプ機能を有効にするには、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」を「バイアンプ」に設定してください。詳しくは「スピーカーシステムの構成を設定する」(86 ページ) をご覧ください。

注記

- バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具（またはケーブル）を取り外してください。バイアンプ接続をしない場合は、必ず金具（またはケーブル）を取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。



NOTE

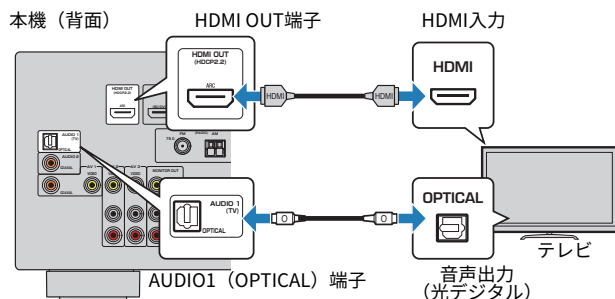
以下の接続は同時に使用できません。

- プレゼンススピーカー
- サラウンドバックスピーカー
- ゾーン B スピーカー
- バイアンプ接続

2 テレビを接続する

テレビを HDMI 接続する

HDMI ケーブルを使って、本機にテレビを接続します。テレビが ARC に対応している場合、本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力できます。



オーディオリターンチャンネル (ARC) とは

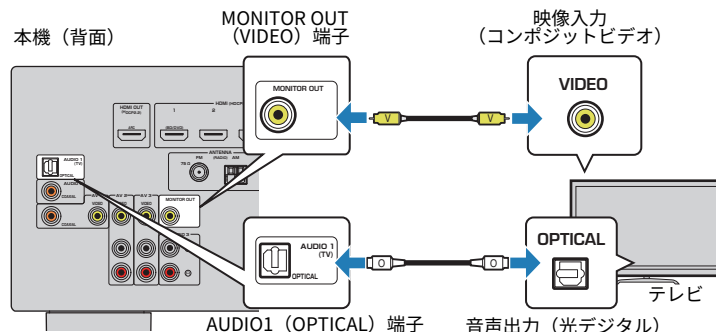
1本の HDMI ケーブルで双方向の音声信号伝送が可能になります。ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルで本機とテレビを接続してください。

NOTE

- テレビが HDMI コントロールに対応している場合、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。
- HDMI コントロールや ARC を使うには、あらかじめ設定が必要です。詳しくは「HDMI コントロールと連動機能」(136 ページ) および「オーディオリターンチャンネル (ARC)」(138 ページ) をご覧ください。
- 光デジタルケーブルはテレビの音声を本機で再生するために接続します。以下のような場合には、光デジタルケーブルを接続する必要はありません。
 - お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル (ARC) に対応している場合
 - テレビを衛星チューナーなどで視聴する場合 (テレビ内蔵のチューナーを使用しない)

テレビをビデオ (コンポジット) 接続する

映像用ピンケーブル (コンポジットケーブル) を使って、本機にテレビを接続します。



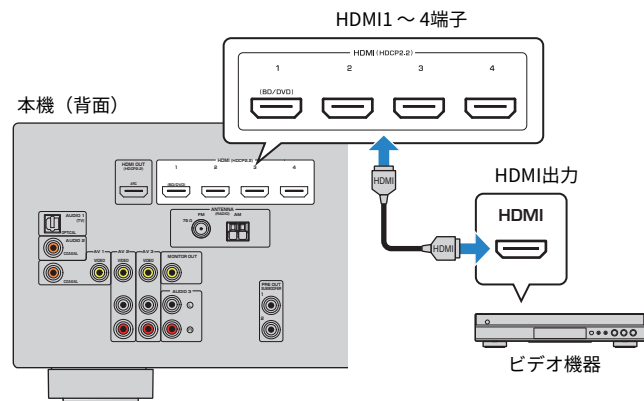
NOTE

- HDMI で接続したビデオ機器の映像は、コンポジットビデオ接続したテレビには出力できません。詳しくは「映像信号の流れ」(136 ページ) をご覧ください。
- コンポジットビデオ接続したテレビには、本機の各種機能の設定画面、USB 機器の選曲画面などは出力できません。
- 光デジタルケーブルはテレビの音声を本機で再生するために接続します。以下のような場合には、光デジタルケーブルを接続する必要はありません。
 - テレビを衛星チューナーなどで視聴する場合 (テレビ内蔵のチューナーを使用しない)

3 AV 機器を接続する

BD/DVD レコーダーなどを HDMI 接続する

HDMI ケーブルを使って、本機に AV 機器を接続します。



NOTE

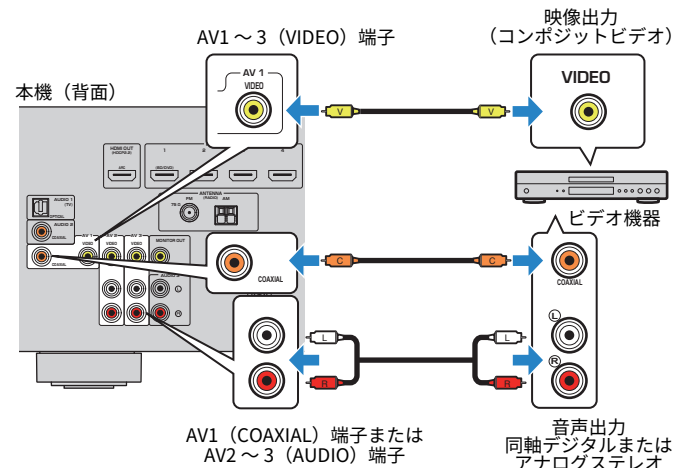
HDMI 接続した AV 機器の映像をテレビで見するには、テレビを本機の HDMI OUT 端子に接続する必要があります。接続方法については、「テレビを HDMI 接続する」(35 ページ)をご覧ください。

AV 機器を HDMI 以外で接続する

■ BD/DVD レコーダーなどをビデオ (コンポジット) 接続する

映像用ピンケーブルと音声ケーブル (同軸デジタルまたはステレオピンケーブル) を使って、本機に BD/DVD レコーダーや衛星チューナーなどの AV 機器を接続します。AV 機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子が異なります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポジットビデオ	同軸デジタル	AV1
	アナログステレオ	AV2~3
	光デジタル	入力端子 (映像/音声) の組み合わせを変更して接続します。



NOTE

- 本機とビデオ (コンポジット) 接続した AV 機器の映像をテレビで見するには、テレビを本機の MONITOR OUT (VIDEO) 端子に接続する必要があります。接続方法については、「テレビをビデオ (コンポジット) 接続する」(35 ページ)をご覧ください。
- 本機の入力端子 (映像/音声) の組み合わせが AV 機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、AV 機器の出力端子にあわせて変更します。変更方法については、「映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を選択する (Audio In)」(80 ページ)をご覧ください。

■ CD プレーヤーなどを接続する

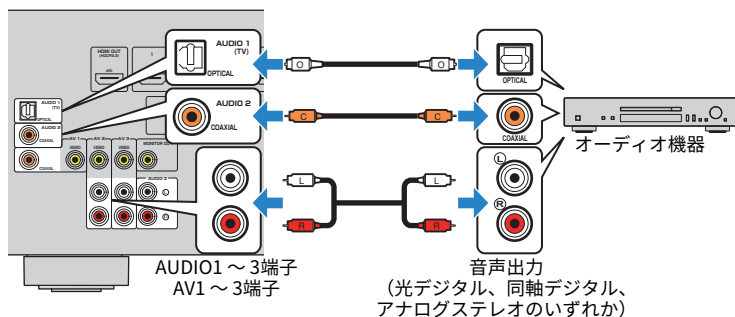
本機に CD プレーヤー、MD プレーヤーなどの AV 機器を接続します。
接続する AV 機器の音声出力端子により、接続方法を選んでください。

NOTE

本機にレコードプレーヤーを接続する場合は、フォノイコライザーアンプ（市販品）が必要です。
フォノイコライザーアンプの出力を本機に接続してください。

オーディオ機器の音声出力端子	本機の音声入力端子
光デジタル	AUDIO1
同軸デジタル	AUDIO2、AV1
アナログステレオ	AUDIO3、AV2～3

本機（背面）



■ 本体前面の端子に AV 機器を接続する

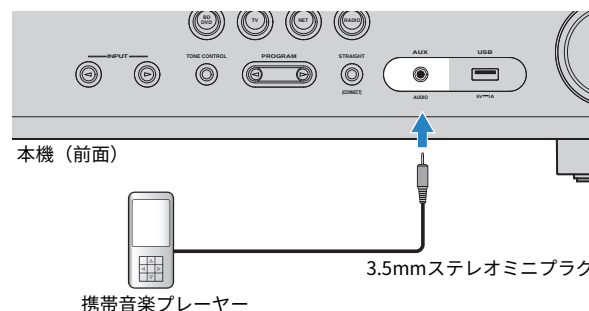
携帯音楽プレーヤーなどの AV 機器を一時的に本機へ接続する場合は、前面の AUX 端子を利用すると便利です。

注意

- 接続する前に、AV 機器を停止して、本機の音量を十分に下げてください。突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

NOTE

AV 機器の音声出力端子に応じて、適切なケーブルをご用意ください。



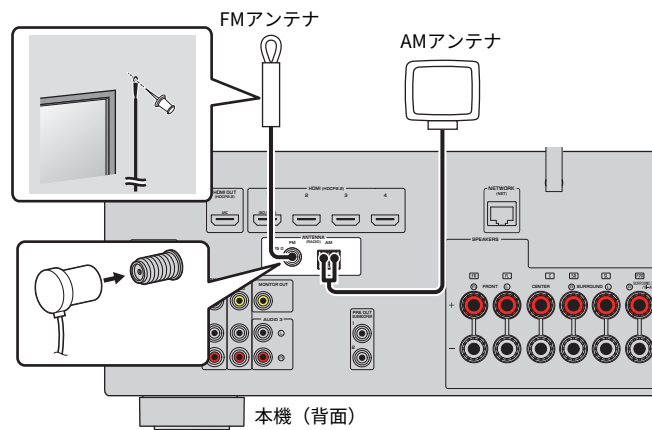
INPUT キーを繰り返し押して入力を「AUX」に切り替えると、接続した機器の音声の本機から出力されます。

4 FM/AM アンテナを接続する

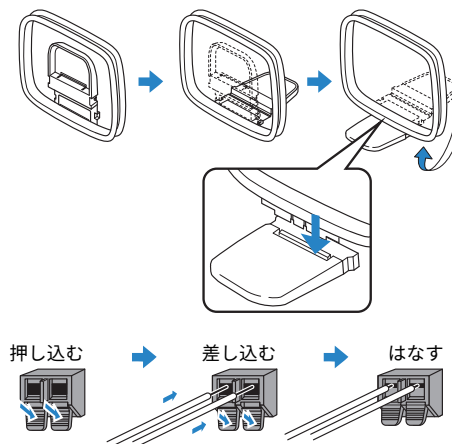
FM/AM アンテナを接続する

本機に付属の FM アンテナと AM アンテナを接続します。

接続後、FM アンテナは壁に固定し、AM アンテナは水平な場所に置いてください。



AM アンテナの組立と接続



NOTE

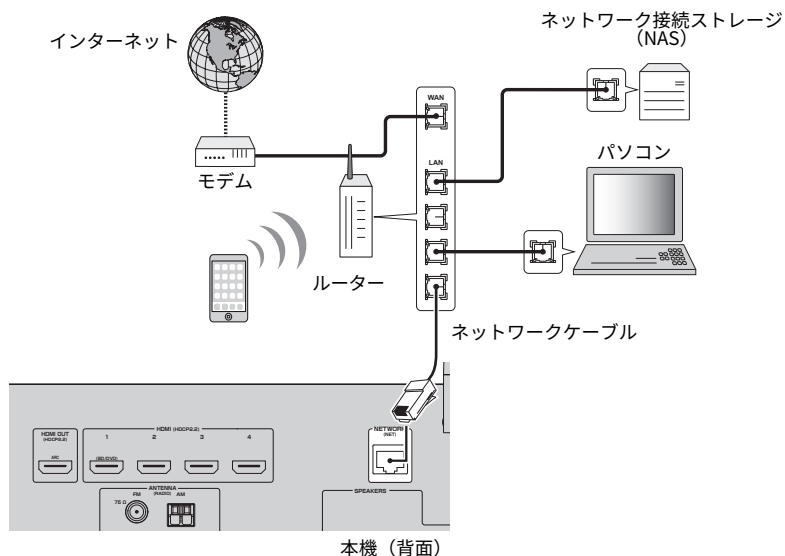
- AM アンテナのコードは、配線に必要な分だけをアンテナ本体からほどいてお使いください。
- AM アンテナのコードに極性はありません。

5 ネットワークケーブルの接続や無線アンテナの準備をする

ネットワークケーブルを接続する

市販の STP ネットワークケーブル（CAT-5 以上のストレートケーブル）を使って、本機をルーターに接続します。

ネットワークに接続することで、インターネットラジオやパソコン、ネットワーク接続ストレージ（NAS）などのメディアサーバーに保存されている音楽ファイルを本機で再生できます。



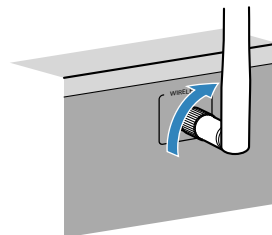
NOTE

- DHCP サーバー対応のルーターをお使いの場合は、本機でネットワーク設定を行う必要はありません。ネットワーク情報（IP アドレスなど）が自動で割り当てられます。ルーターが DHCP サーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、ネットワーク設定が必要になります。必要な設定については、「ネットワーク設定」（101 ページ）をご覧ください。
- 設定メニューの「ネットワーク情報」で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。設定メニューの「ネットワーク情報」については、「ネットワーク情報を確認する」（101 ページ）をご覧ください。

無線アンテナを準備する

無線接続を使用する場合は、無線アンテナを立ててご使用ください。

ネットワークへの無線接続方法については、「ネットワーク接続の方法を選ぶ」（46 ページ）をご覧ください。



注記

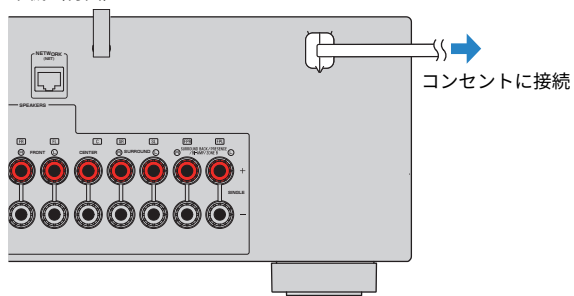
- 無線アンテナに極端な力を加えたりしないでください。破損するおそれがあります。

6 電源コードを接続する

電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、本機の電源プラグをコンセントに差し込みます。

本機（背面）



7 スピーカー設定を行う

スピーカー構成を設定する

以下のスピーカーシステムを使用する場合は、あらかじめスピーカー設定を変更する必要があります。

- ・ サラウンドバックスピーカーを使ったシステム
詳しくは「7.1 システム」(30 ページ) をご覧ください。
- ・ バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを使ったシステム
詳しくは「バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを接続する」(34 ページ) をご覧ください。
- ・ ゾーン B スピーカーを使ったシステム
詳しくは「複数の部屋で音楽を再生する (ゾーン機能)」(70 ページ) をご覧ください。
- ・ サラウンドスピーカーを使ったフロント 5.1 チャンネルシステム (バーチャルシネマフロント)
詳しくは「5.1 システム (バーチャルシネマフロント)」(31 ページ) をご覧ください。
- ・ プレゼンススピーカーを使って Dolby Atmos/DTS:X コンテンツを再生するシステム
詳しくは「プレゼンススピーカーの配置の選択」(32 ページ) をご覧ください。

1 **⏻ (レシーバー電源) キーで本機の電源を入れる。**

2 **テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替える。**

NOTE

- ・ テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。
- ・ 本機の電源を初めて入れると、ネットワーク設定に関するメッセージが表示されます。ここでは RETURN キーを押し、手順 3 に進んでください。

3 **SETUP キーを押す。**

4 **カーソルキーで「スピーカー設定」を選び、ENTER キーを押す。**

5 **カーソルキーで「構成」を選び、ENTER キーを押す。**

6 **必要なスピーカー設定を変更する。**

- ・ サラウンドバックスピーカー、バイアンプ接続、ゾーン B スピーカーを使用する場合は、「パワーアンプ割り当て」で該当するスピーカーシステムを選ぶ。設定メニューの「パワーアンプ割り当て」については、「スピーカーシステムの構成を設定する」(86 ページ) をご覧ください。
- ・ サラウンドスピーカーを使ったフロント 5.1 チャンネルシステム (バーチャルシネマフロント) を使用する場合は、「バーチャルシネマフロント」で「オン」を選ぶ。設定メニューの「バーチャルシネマフロント」については、「バーチャルシネマフロントを設定する」(90 ページ) をご覧ください。
- ・ プレゼンススピーカーを使って Dolby Atmos/DTS:X コンテンツを再生するシステムを使用する場合は、「配置」で該当するスピーカー配置を選ぶ。設定メニューの「配置」については、「プレゼンススピーカーの配置を設定する」(89 ページ) をご覧ください。

7 **SETUP キーを押す。**

これでスピーカー構成の設定は完了です。

スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します (YPAO: Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)。

NOTE

- テレビやスピーカーの接続が終わってから YPAO を実行してください。
- YPAO の実行前に、スピーカー構成の設定をしてください。設定方法については、「スピーカー構成を設定する」(41 ページ) をご覧ください。
- 測定中は大きな音を出力します。音量は調節できません。
- 測定中は部屋の後方の隅にとどまり、大きな音を出さないでください。スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮ったり、大きな音を出したりすると正しく測定することができません。
- ヘッドホンは接続しないでください。

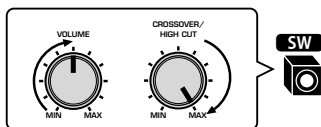
1 ㊦ (レシーバー電源) キーで本機の電源を入れる。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替える。

NOTE

テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。それ以外の方法で接続している場合は、前面ディスプレイを見ながら操作してください。

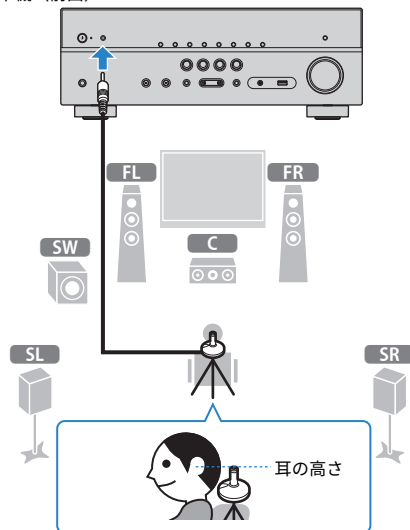
3 サブウーファーの電源を入れ、音量を半分に調節する。
クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。



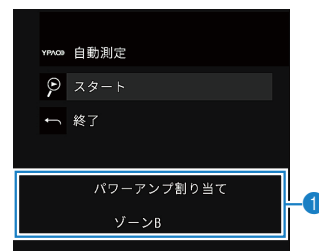
4 付属の YPAO 用マイクを視聴位置 (耳の高さ) に置き、前面の YPAO MIC 端子に接続する。

三脚などをマイクスタンドとして使用し、YPAO 用マイクを視聴位置 (耳の高さ) に置いてください。三脚のネジを使ってマイクを固定できます。

本機 (前面)



テレビに次の画面が表示されます。



1 「パワーアンプ割り当て」設定

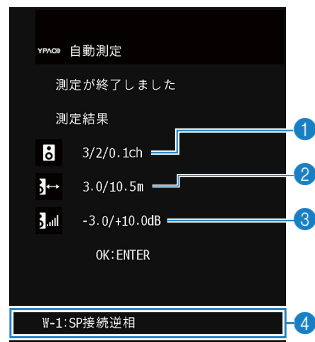
NOTE

「パワーアンプ割り当て」については、「スピーカーシステムの構成を設定する」(86 ページ) をご覧ください。

5 測定を始めるには、カーソルキーで「スタート」を選び、ENTER キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、ENTER キーを押します。所要時間は約 3 分です。

測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



- ① スピーカーの本数（前方スピーカー/後方スピーカー/サブウーファー）
- ② スピーカーの距離（最も近いスピーカー/最も遠いスピーカー）
- ③ スピーカーの音量補正範囲
- ④ 警告メッセージ（発生時のみ）

NOTE

- 測定を一時中断するには、RETURN キーを押します。
- エラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-1 など）が表示された場合は「YPAO のエラーメッセージ一覧」（44 ページ）または「YPAO の警告メッセージ一覧」（45 ページ）をご覧ください。
- 警告メッセージの対象になっているスピーカーは、前面ディスプレイのスピーカー表示が点滅します。
- （前面ディスプレイでの操作時）複数の警告メッセージが生じた場合は、カーソルキー（△/▽）で表示を切り替えて確認してください。

6 測定結果を確認し、ENTER キーを押す。

7 測定結果を保存するには、カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。

補正されたスピーカー設定が反映されます。

NOTE

測定結果を保存せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。

8 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

注記

- YPAO 用マイクは熱に弱いので、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

YPAO のエラーメッセージ一覧

YPAO の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、以下の表をもとに原因を解決してください。

NOTE

カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

エラーメッセージ	原因	対策
E-1:フロント SP 無し (E-1:NO FRNT SP)	フロントスピーカーを検出できない。	
E-2:サラウンド SP 無し (E-2:NO SUR SP)	サラウンドスピーカーの片側を検出できない。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。
E-3:プレゼンス SP 無し (E-3:NO FPR SP)	プレゼンススピーカーの片側を検出できない。	
E-4:SBR→SBL (E-4:SBR→SBL)	サラウンドバックスピーカーが R 端子だけに接続されている。	サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ接続する場合は、SINGLE 端子 (L 側) に接続します。画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーを接続し直してください。
E-5:暗騒音大 (E-5:NOISY)	雑音が大きいため測定できない。	部屋が静かになってから再測定してください。「続行」を選んだ場合は、雑音を検出しても無視する条件で再測定します。
E-6:サラウンド確認 (E-6:CHECK SUR)	サラウンドスピーカーが未接続なのに、サラウンドバックスピーカーが接続されている。	サラウンドバックスピーカーを使うには、サラウンドスピーカーが接続されている必要があります。画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーを接続し直してください。
E-7:マイク未接続 (E-7:NO MIC)	測定中に YPAO 用マイクが外れた。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。

エラーメッセージ	原因	対策
E-8:信号入力無し (E-8:NO SIGNAL)	YPAO 用マイクがテストトーンを検出できない。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
E-9:測定キャンセル (E-9:CANCEL)	測定が中断された。	目的に応じて、再測定するか YPAO を終了してください。
E-10:内部エラー (E-10:INTERNAL)	内部エラーが発生した。	YPAO を終了してから、本機の電源を入れ直してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

YPAO のエラーメッセージ表示後の操作

YPAO の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、原因を解決してから以下の操作をしてください。

- 1 エラーメッセージの内容を確認し、ENTER キーを押す。**
- 2 カーソルキー (◀/▶) で目的の項目を選ぶ。**
測定を終了する場合：
 - 1 「終了」を選び、ENTER キーを押す。**
 - 2 カーソルキー (△/▽) で「終了」を選び、ENTER キーを押す。**
 - 3 YPAO 用マイクを本機から取り外す。**
 再測定する場合：
 「再測定」を選び、ENTER キーを押す。
 現在の測定を続ける場合 (E-5、E-9 のみ選択可)：
 「続行」を選び、ENTER キーを押す。

YPAO の警告メッセージ一覧

YPAO の測定後に警告メッセージ表示された場合は、以下の表をもとに原因を解決してください。

NOTE

カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

警告メッセージ	原因	対策
W-1:SP 接続逆相 (W-1:PHASE)	スピーカーの極性（＋と－）が逆に接続されている可能性がある。	該当スピーカーのケーブル接続（＋と－）を確認してください。 間違って接続されている場合： YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーケーブルを接続し直してください。 正しく接続されている場合： スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されていてもこのメッセージが表示されることがあります。設定を保存し、そのままお使いください。 （お客様への確認を促すメッセージであり、そのままお使いいただいても本機の再生に影響はありません。）
W-2:距離補正限界 (W-2:DISTANCE)	スピーカーと視聴位置の距離が 24m を超えているため、正確に補正できない。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーを視聴位置から 24m 以内に設置してください。
W-3:音量補正限界 (W-3:LEVEL)	スピーカー間の音量差が大きすぎるため、正確に補正できない。	各スピーカー間の使用環境やケーブル接続（＋と－）、サブウーファースの音量が適切かどうか確認してください。問題がある場合は、YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーの接続や配置を直してください。なるべく同じスピーカー、または性能が似ているスピーカーをお使いください。

YPAO の警告メッセージ表示後の操作

YPAO の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、原因を解決してから以下の操作をしてください。

警告メッセージが表示されていても測定結果を保存できますが、最適なスピーカー設定で使用するには、原因を解決してから再度実行することをおすすめします。

1 警告メッセージの内容を確認し、ENTER キーを押す。

2 カーソルキー（◀/▶）で目的の項目を選ぶ。

測定結果を保存する場合：

「保存」を選び、ENTER キーを押す。

測定結果を保存しない場合：

「キャンセル」を選び、ENTER キーを押す。

8 ネットワークに接続する

ネットワーク接続の方法を選ぶ

本機は有線接続と無線接続に対応しています。

お使いのネットワーク環境に合わせて、接続方法を選んでください。

有線接続する場合は、ルーターが DHCP サーバー対応のとき、本機でネットワーク設定を行う必要はありません。

NOTE

ルーターが DHCP サーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、ネットワーク設定が必要になります。必要な設定については、「ネットワーク設定」(101 ページ) をご覧ください。

無線接続する場合は、以下から無線接続設定の方法を選んでください。

● MusicCast から設定する

本機を MusicCast ネットワークに登録するときに、ネットワーク設定も行えます。MusicCast を利用する場合は、この方法をおすすめします。詳しくは「MusicCast ネットワークに登録する」(48 ページ) をご覧ください。

● iOS デバイスの接続設定を利用して設定する

お手持ちの iOS デバイス (iPhone/iPad/iPod touch) のネットワーク設定を本機に適用して、簡単にネットワーク設定ができます。詳しくは「iOS デバイスを使って無線設定する」(46 ページ) をご覧ください。

● WPS ボタンで設定する

無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の WPS ボタンを押すだけで、簡単にネットワーク設定ができます。詳しくは「WPS ボタンを使って無線設定する」(47 ページ) をご覧ください。

● その他の接続方法

詳しくは以下をご覧ください。

- 「アクセスポイントの一覧から無線接続する」(111 ページ)
- 「手動で無線接続する」(112 ページ)
- 「PIN コード式の WPS で無線接続する」(114 ページ)
- 「本機をアクセスポイントにする (ワイヤレスダイレクト)」(114 ページ)

iOS デバイスを使って無線設定する

お手持ちの iOS デバイス (iPhone/iPad/iPod touch) のネットワーク設定を本機に適用して、簡単にネットワーク接続ができます。

設定を始める前に、お使いの iOS デバイスが無線 LAN ルーター (アクセスポイント) に接続されていることを確認してください。

NOTE

- 以下の設定内容が初期化されます。
 - ネットワーク設定
 - Bluetooth 設定
 - ショートカットに登録したコンテンツ (メディアサーバー/Bluetooth 機器/USB 機器の曲など)
 - お気に入りに登録したインターネットラジオ局
 - 各ミュージックサービスのアカウント情報
- iOS7 以降を搭載した iOS デバイスが必要です。
- 暗号化方式として WEP を使用している無線 LAN ルーター (アクセスポイント) には接続できません。この場合は、別の接続方法をお試しください。

1 ㊦ (レシーバー電源) キーで本機の電源を入れる。

- 2** テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。

NOTE

テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

- 3** **SETUP キーを押す。**

- 4** カーソルキー（△/▽）で「ネットワーク設定」を選び、ENTER キーを押す。

- 5** カーソルキー（△/▽）で「ネットワーク接続」を選び、ENTER キーを押す。

- 6** カーソルキー（◀/▶）で「無線（Wi-Fi）」を選び、ENTER キーを押す。

- 7** カーソルキー（△/▽）で「WAC（iOS）」を選び、ENTER キーを押す。

- 8** 画面上の説明を読み、ENTER キーを押す。

NOTE

有線ネットワーク接続している場合は、警告メッセージが表示されます。ネットワークケーブルを本機から取り外し、ENTER キーを押してください。

- 9** **iOS デバイスの Wi-Fi 画面で、本機を AirPlay スピーカーに設定する。**

iOS 10（日本語での表示例）



本機の機器名称

- 10** **設定を本機と共有する無線ネットワーク（アクセスポイント）を選ぶ。**

共有操作が完了すると、本機は自動的に選択した無線ネットワーク（アクセスポイント）に接続します。

- 11** **SETUP キーを押す。**

これでネットワーク設定は完了です。

WPS ボタンを使って無線設定する

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押すだけで、簡単にネットワーク接続ができます。

NOTE

暗号化方式として WEP を使用している無線 LAN ルーター（アクセスポイント）には接続できません。この場合は、別の接続方法をお試しください。

- 1** ①（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。

- 2** 本体前面の INFO（WPS）キーを 3 秒間押し続ける。

前面ディスプレイに「Press WPS button on Access Point」と表示されます。

- 3** 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押す。

接続が完了すると、前面ディスプレイに「Completed」と表示されます。「Not connected」と表示された場合は、手順 1 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

これでネットワーク設定は完了です。

WPS とは

WPS（Wi-Fi Protected Setup）とは、Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。WPS により、無線ネットワークを簡単に設定できます。

9 MusicCast を設定する

MusicCast について

MusicCast を使えば、複数の部屋に設置した MusicCast 対応機器で、音楽を共有できます。専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」により、簡単な操作で家庭内のどこにいても、スマートフォンやメディアサーバー（パソコン/NAS）、インターネットラジオ（ストリーミングサービス）の音楽を楽しめます。MusicCast の詳細と対応機器については、次のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.yamaha.com/musiccast/>

- 専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」を使用して、すべての MusicCast 対応機器を操作
- 別々の部屋に設置した複数の MusicCast 対応機器をリンクし、音楽を同時再生
- インターネットラジオ（ストリーミングサービス）の音楽再生に対応
- MusicCast 対応機器のネットワーク設定

NOTE

MusicCast については、Yamaha Download サイトから MusicCast セットアップガイドをダウンロードしてください。

<http://download.yamaha.com/>

MusicCast CONTROLLER について

MusicCast 対応機器でネットワーク機能を使うためには、モバイル機器用の専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」が必要です。App Store または Google Play で「MusicCast CONTROLLER」（無料）を検索し、インストールしてください。

MusicCast ネットワークに登録する

本機を MusicCast ネットワークに登録します。同時に本機のネットワークの接続設定も行えます。

NOTE

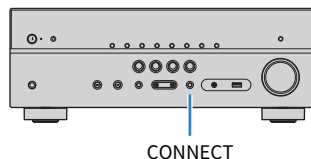
ネットワークに無線接続する場合は、使用する無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の SSID とセキュリティキーを準備してください。

- 1 モバイル機器で「MusicCast CONTROLLER」を起動し、「設定する」をタップする。

NOTE

2 台目以降の MusicCast 対応機器を設定する場合は、アプリの「設定」の「新しい機器を登録する」をタップしてください。

- 2 モバイル機器の画面に表示される案内にしたがって「MusicCast CONTROLLER」を操作し、本機の前面パネルにある CONNECT ボタンを 5 秒間押す。



- 3 モバイル機器の画面に表示される案内にしたがって「MusicCast CONTROLLER」を操作し、ネットワークを設定する。

これで MusicCast ネットワークへの登録とネットワーク設定は完了です。

「MusicCast CONTROLLER」を操作して、音楽を再生してください。

NOTE

- AirPlay および DSD の音声は送信できません。
- ダイレクト再生時には、ネットワーク、USB 以外の入力とは再生できません。
- 本機を MusicCast ネットワークに登録すると、有線接続を使用している場合でも、前面ディスプレイの信号強度表示が点灯します。
- 設定メニューの「MusicCast Link 電源連動」で、本機（親機）と MusicCast ネットワークの機器（子機）との電源を連動できます。設定メニューの「MusicCast Link 電源連動」については、「本機と MusicCast 対応機器の電源連動を設定する」（103 ページ）をご覧ください。

再生する

基本操作

再生の基本操作

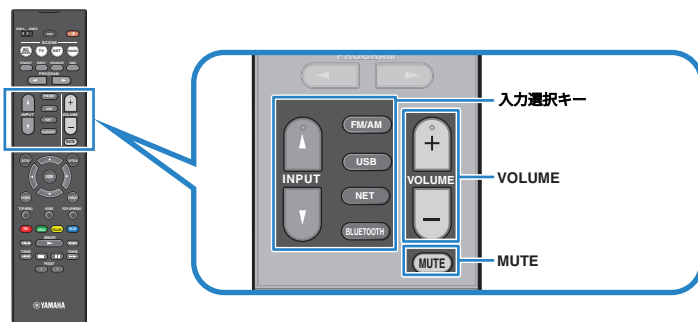
映像や音楽を再生する場合の基本的な操作方法を説明します。

NOTE

ここでは、本体前面ディスプレイの表示を使った操作方法を中心に説明します。

1 本機に接続した外部機器の電源を入れる。

2 入力選択キーで入力を選ぶ。



3 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

4 VOLUME キーで音量を調節する。

NOTE

- MUTE キーで消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- オプションメニューの「トーンコントロール」(Tone Control) または本体前面の TONE CONTROL キーで、高音域と低音域のバランスを調整できます。調整方法については、「出力される音声のトーンを調整する (Tone Control)」(77 ページ) をご覧ください。
- 外部機器の操作については、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

前面ディスプレイの表示を切り替える

本体前面の INFO キーを繰り返し押して、本機の前面ディスプレイの表示を切り替えられます。サラウンドデコーダーなどの情報を表示できます。



項目名

約 3 秒後に該当する情報が表示されます。



情報

入力グループ	項目
HDMI	
AV	Input (入力名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio
AUX	Decoder (デコーダー名*)
AUDIO	
Bluetooth	Song (曲名)、Artist (アーティスト)、Album (アルバム名)、
USB	DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デ
	コーダー名*)
SERVER	Song (曲名)、Artist (アーティスト)、Album (アルバム名)、
AirPlay	DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デ
	コーダー名*)、IP Address、Ethernet MAC、Wi-Fi MAC
NET RADIO	Song (曲名)、Album (アルバム名)、Station (放送局名)、DSP
	Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコー
	ダー名*)、IP Address、Ethernet MAC、Wi-Fi MAC
Spotify	Track (トラック名)、Artist (アーティスト名)、Album (アルバ
	ム名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder
	(デコーダー名*)、IP Address、Ethernet MAC、Wi-Fi MAC
MusicCast Link	DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デ
	コーダー名*)、IP Address、Ethernet MAC、Wi-Fi MAC
TUNER	Frequency (周波数)、DSP Program (音場プログラム名など)、
	Audio Decoder (デコーダー名*)

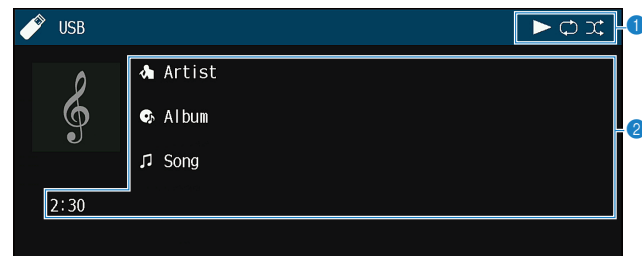
* 現在動作しているオーディオデコーダー名が表示されます。動作していない場合は「Decoder Off」と表示されます。

NOTE

- 入力により選択可能な項目が異なります。また表示項目は入力グループごとに記憶されます。
- 曲名やアーティスト名などの日本語は表示されません。「_」で表示されます。

再生画面の名称と機能

本機と HDMI 接続したテレビに再生時表示される再生画面の名称と機能について説明します。



① 再生表示

再生 (再生/一時停止)、リピート再生、シャッフル再生の再生状態が表示されます。

② 再生情報

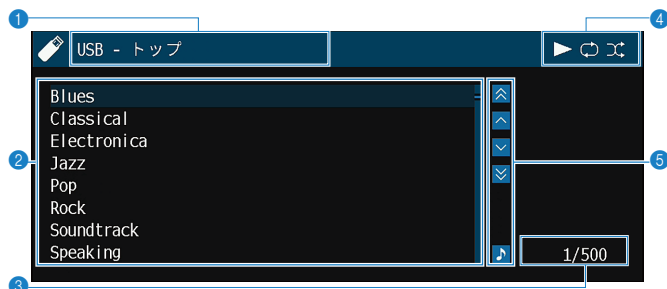
アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間/曲の長さなどが表示されます。

NOTE

- 再生内容によって表示が異なります。
- リモコンの外部機器操作キー (▶、■、■、◀◀、▶▶) で再生操作ができます (外部機器によっては一部の機能を操作できない場合があります)。

ブラウザ画面の名称と機能

本機と HDMI 接続したテレビに表示されるブラウザ画面の名称と機能について説明します。ブラウザ画面は、入力を「USB」、「SERVER」、「NET RADIO」に選択したとき表示されます。



① リスト名

② コンテンツリスト

コンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押します。

③ コンテンツ番号/総数

④ ステータス表示

リピート再生/シャッフル再生の設定、および再生状態（再生/一時停止など）が表示されます。

⑤ 操作メニュー

カーソルキー（▷）を押してから、カーソルキー（△/▽）でアイコンを選び、ENTER キーを押します。

アイコン	説明
⏮	10 ページ上のリストを表示します。
⏪	1 ページ上のリストを表示します。
⏩	1 ページ下のリストを表示します。
⏭	10 ページ下のリストを表示します。
🎵	再生画面を表示します。

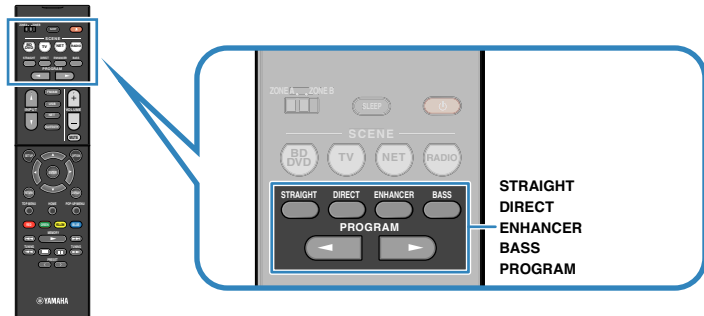
NOTE

- 再生内容によって表示が異なります。
- 本体前面ディスプレイにはカーソルで選択中のコンテンツ名が表示されます。

お好みのサウンドを選ぶ

お好みのサウンドを選ぶ

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。



- 映画、テレビ番組、ゲームなどを楽しみたい場合
「映像コンテンツに適した音場プログラムを選ぶ (MOVIE)」
(53 ページ) で音場プログラムを選択します。
- 音楽鑑賞やステレオ再生を楽しみたい場合
「音楽鑑賞に適した音場プログラムを選ぶ (MUSIC)」(54 ページ) または「ステレオ再生に適した音場プログラムを選ぶ (STEREO)」
(55 ページ) で音場プログラムやステレオ再生を選択します。
- 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しみたい場合
「拡張マルチチャンネルで再生する (サラウンドデコーダー)」
(56 ページ) でサラウンドデコーダーを選びます。
- 音場効果をかけずに、オリジナルの音声を楽しみたい場合
「オリジナルチャンネルで再生する (ストレートデコード)」
(55 ページ) でストレートデコードに切り替えます。

- 原音により忠実な音声を楽しみたい場合
「原音に忠実な音質で再生する (ダイレクト再生)」(56 ページ) でダイレクト再生に切り替えます。他の回路からのノイズを低減することで、原音により忠実な音声をお楽しみいただけます。
- より豊かな低音を楽しみたい場合
「低音を増強する (エクストラベース)」(57 ページ) でエクストラベースを有効にします。
- Bluetooth 機器や USB 機器などの圧縮音源を楽しみたい場合
「圧縮フォーマット (MP3 など) を厚みのある音で再生する (ミュージックエンハンサー)」(57 ページ) でミュージックエンハンサーを有効にします。圧縮音源に音の深みと広がりを加え、ダイナミックな再生音をお楽しみいただけます。

NOTE

- 音場プログラムは入力ごとに記憶されます。
- 音声出力中のスピーカー端子は、本体前面ディスプレイのスピーカー表示で確認できます。
- 設定メニューの「リモコンカラーキー」で、リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE の各キーにサウンド選択の機能を割り当てることができます。設定メニューの「リモコンカラーキー」については、「リモコンのカラーキーの機能を変更する」(100 ページ) をご覧ください。

Dolby Atmos®について

- 以下の場合は、Dolby Atmos コンテンツであっても Dolby TrueHD または Dolby Digital Plus のフォーマットで再生されます（Dolby Atmos PCM フォーマットの場合は、常に Dolby Atmos で再生されます）。
 - シネマ DSP の音場プログラムを選択
 - サラウンドバックスピーカー、プレゼンススピーカーのいずれも不使用
 - ヘッドホンを接続（2チャンネル再生になります）
- Dolby Atmos デコーダーが動作している場合は、「バーチャルシネマフロントを設定する」（90 ページ）などのバーチャル処理や、「セリフの音量を調整する」（95 ページ）のセリフ音量調整、「低音を増強する（エクストラベース）」（57 ページ）のエクストラベース、「圧縮フォーマット（MP3 など）を厚みのある音で再生する（ミュージックエンハンサー）」（57 ページ）のミュージックエンハンサー、「アダプティブ DRC を設定する（A.DRC）」（78 ページ）のアダプティブ DRC などの機能は動作しません。

DTS:X™ について

- シネマ DSP の音場プログラムを選択している場合は、DTS:X コンテンツであっても DTS-HD フォーマットで再生されます。
- DTS:X デコーダーが動作している場合は、「バーチャルシネマフロントを設定する」（90 ページ）などのバーチャル処理や、「セリフの音量を調整する」（95 ページ）のセリフ音量調整、「低音を増強する（エクストラベース）」（57 ページ）のエクストラベース、「圧縮フォーマット（MP3 など）を厚みのある音で再生する（ミュージックエンハンサー）」（57 ページ）のミュージックエンハンサー、「アダプティブ DRC を設定する（A.DRC）」（78 ページ）のアダプティブ DRC などの機能は動作しません。
- DTS:X コンテンツ再生時は、設定メニューの「DTS ダイアログコントロール」で中央に定位する音（セリフなど）の音量を調整できます。設定メニューの「DTS ダイアログコントロール」については、「DTS:X 再生時にセリフの音量を調整する」（95 ページ）をご覧ください。

音場効果をかけて再生する

■ 立体的な音場効果で再生する（シネマ DSP 3D）

本機には、ヤマハ独自の音場技術（シネマ DSP 3D）を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現し、自然で立体的な視聴空間をお楽しみいただけます。

CINEMA DSP 3D

音場プログラムの種類



NOTE

- オプションメニューの「エフェクト量の加減」（DSP Level）で、音場プログラムのエフェクト量（音場効果のかかり具合）を調整できます。オプションメニューの「エフェクト量の加減」（DSP Level）については、「音場プログラムの効果量を調節する（DSP Level）」（78 ページ）をご覧ください。
- 通常のシネマ DSP を使用する場合は、設定メニューの「シネマ DSP 3D モード」を「オフ」に設定してください。設定メニューの「シネマ DSP 3D モード」については、「シネマ DSP 3D モードを設定する」（94 ページ）をご覧ください。
- 音場プログラムは入力ごとに記憶されます。

■ 映像コンテンツに適した音場プログラムを選ぶ（MOVIE）

PROGRAM キーを繰り返し押して、映像コンテンツに適した音場プログラムを選択します。シネマ DSP 3D を使った音場プログラムの中の「MOVIE」には、映画、テレビ番組、ゲームなど、映像コンテンツに適した音場プログラムが含まれています。

Standard (スタンダード)	Dolby Digital、DTS、AAC などのマルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle (スペクタクル)	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間と微細な効果音から迫力の高音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi (サイファイ)	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各空間を鮮やかに再現します。
Adventure (アドベンチャー)	アクション&アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の広がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama (ドラマ)	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きの特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM を柔らかな響きで立体的に再現します。長時間聴いても疲れません。
Mono Movie (モノムービー)	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気を楽しめます。広がり適度な残響が付加され、奥行がある心地よい空間が再現されます。
Sports (スポーツ)	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に広がり臨場感を体感できます。
Action Game (アクションゲーム)	カーレースや格闘ゲーム、シューティングゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたりアリティにより、ゲームの中にいるような感覚が体感できます。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。
Roleplaying Game (ロールプレイングゲーム)	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。BGM や効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。

Music Video (ミュージックビデオ)	ポップス・ロック・ジャズなどのライブ映像をコンサート会場のイメージで楽しめます。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。
------------------------------------	--

■ 音楽鑑賞に適した音場プログラムを選ぶ (MUSIC)

PROGRAM キーを繰り返し押して、音楽鑑賞に適した音場プログラムを選択します。シネマ DSP 3D を使った音場プログラムの中の「MUSIC」には、音楽鑑賞に適した音場プログラムが含まれています。

Hall in Munich (ミュンヘン)	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに広がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna (ウィーン)	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きの特長です。
Chamber (チェンバー)	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。
Cellar Club (セラークラブ)	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きの特長です。
The Roxy Theatre (ロキシーシアター)	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最大で 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。
The Bottom Line (ボトムライン)	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きの特長です。

■ ステレオ再生に適した音場プログラムを選ぶ (STEREO)

PROGRAM キーを繰り返し押して、ステレオ再生を選択します。

2ch Stereo (2ch ステレオ)	ステレオ前方からのステレオ音声を楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、2チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから出力されます (シネマ DSP は使用しません)。
7ch Stereo (7ch ステレオ)	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。最大 7 つのスピーカーから音が出力され、ホームパーティーの BGM に最適です。

■ サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ (バーチャルシネマ DSP)

バーチャルシネマ DSP により、サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しめます。サラウンドスピーカーが接続されていない状態で音場プログラム (「2ch Stereo」, 「7ch Stereo」以外) を選択すると、本機は前方のスピーカーだけで仮想スピーカーを構築し、自動的に後方の音場を創り出します。

■ 前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ (バーチャルシネマフロント)

バーチャルシネマフロントを使うと、前方に設置した 5 本のスピーカーでマルチチャンネルサラウンド再生を楽しめます。サラウンドスピーカーを前方に設置して、設定メニューの「バーチャルシネマフロント」(V.C.FRONT) を「オン」(On) に設定すると、仮想サラウンドスピーカーを後方に構築します。

NOTE

設定メニューの「バーチャルシネマフロント」については、「バーチャルシネマフロントを設定する」(90 ページ) をご覧ください。

■ ヘッドホンでサラウンド再生を楽しむ (サイレントシネマ)

PHONES 端子にヘッドホンを接続して、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選択すると、ステレオヘッドホンでもマルチチャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド感や音場効果を楽しめます。

SILENT™
CINEMA

音場効果をかけずに再生する

■ オリジナルチャンネルで再生する (ストレートデコード)

STRAIGHT キーを押してストレートデコードを有効にすると、CD などの 2 チャンネルソースを、音場効果をかけずにフロントスピーカーからステレオ音声で再生できます。マルチチャンネルソースの場合は、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。



ストレートデコードは、STRAIGHT キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

■ 拡張マルチチャンネルで再生する（サラウンドデコーダー）

PROGRAM キーを繰り返し押して、サラウンドデコーダーを選択します。前回選択していたサラウンドデコーダーが選択されます。サラウンドデコーダーを使うと、音場効果をかけずに 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで再生します。また、マルチチャンネルソースの場合は、ストレートデコードと同様に機能します。

「SUR. DECODE」と表示



Auto	入力ソースに合わせて自動的にサラウンドデコーダーが選択されます。入力ソースが DTS 信号の場合は DTS Neural:X デコーダー、それ以外の信号では Dolby Surround デコーダーが選択されます。
 Dsur	Dolby Surround デコーダーです。設置されているスピーカー配置に最適な拡張を行います。特に、オブジェクトベースの音声信号（Dolby Atmos コンテンツなど）を再生すると、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を体感できます。
Neural:X	DTS Neural:X デコーダーです。設置されているスピーカー配置に最適な拡張を行います。特に、オブジェクトベースの音声信号（DTS:X コンテンツなど）を再生すると、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を体感できます。
Neo:6 Cinema	DTS Neo:6 デコーダー（または DTS-ES Matrix デコーダー）です。映画鑑賞に適しています。サラウンドスピーカー/サラウンドバックスピーカーからも音出力されます。
Neo:6 Music	DTS Neo:6 デコーダー（または DTS-ES Matrix デコーダー）です。音楽鑑賞に適しています。サラウンドスピーカー/サラウンドバックスピーカーからも音出力されます。

NOTE

- サラウンドデコーダーの種類は、オプションメニューの「サラウンドデコード」（SrDec）で切り替えられます。
- 各サラウンドデコーダーについては、「音声デコードフォーマットに関する用語」（131 ページ）をご覧ください。

- 各サラウンドデコーダーに関する設定は、設定メニューの「DSP パラメーター」で変更できます。設定メニューの「DSP パラメーター」については、「センタースプレッドを設定する」（94 ページ）や「センター定位の強さ（広がり感）を調節する」（94 ページ）をご覧ください。
- 一部の入力ソースでは、選択したサラウンドデコーダーが機能しない場合があります。
- サラウンドバックスピーカーが 1 本のシステムで、Dolby Surround デコーダーを選択した場合、サラウンドバックスピーカーから音声出力されません（Dolby Atmos コンテンツ、DTS:X コンテンツ再生時を除く）。
- Dolby Surround デコーダーまたは Neural:X デコーダー選択時は、「バーチャルシネマフロントを設定する」（90 ページ）などのバーチャル処理や、「セリフの音量を調整する」（95 ページ）のセリフ音量調整、「エクストラベースを設定する」（90 ページ）のエクストラベース、「圧縮フォーマット（MP3 など）を厚みのある音で再生する（ミュージックエンハンサー）」（57 ページ）のミュージックエンハンサー、「アダプティブ DRC を設定する（A.DRC）」（78 ページ）のアダプティブ DRC などの機能は動作しません。

■ 原音に忠実な音質で再生する（ダイレクト再生）

DIRECT キーを押して、ダイレクト再生を有効にすると、音場効果をかけずに最低限必要な回路のみで再生できます。これによりノイズの混入を防ぎ、原音により忠実な音質を再現できます。



ダイレクト再生は、DIRECT キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

NOTE

- ダイレクト再生時、以下の機能は使用できません。
 - 音場プログラムの選択
 - トーンコントロールの調整
 - オプションメニュー、設定メニューの操作
 - 本体前面ディスプレイの表示（操作がない場合）
- ダイレクト再生時は、本体前面ディスプレイの表示が暗くなります。

低音を増強する

■ 低音を増強する（エクストラベース）

BASS キーを押して、エクストラベースを有効にすると、フロントスピーカーの大きさやサブウーファーの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。エクストラベースは、BASS キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

NOTE

設定メニューの「エクストラベース」でも、エクストラベースを有効/無効にできます。設定メニューの「エクストラベース」については、「エクストラベースを設定する」（90 ページ）をご覧ください。

圧縮フォーマット（MP3 など）を厚みのある音で再生する

■ 圧縮フォーマット（MP3 など）を厚みのある音で再生する（ミュージックエンハンサー）

ENHANCER キーを押して、ミュージックエンハンサーを有効にすると、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。この機能は音場プログラムと併用できます。

compressed music

ENHANCER

「ENHANCER」が点灯



ミュージックエンハンサーは、ENHANCER キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

NOTE

- ミュージックエンハンサーは、以下の音源には機能しません。
 - サンプル周波数が 48kHz を超える音声
 - DSD の音声
- オプションメニューの「エンハンサー」（Enhancer）でも、ミュージックエンハンサーを有効/無効にできます。オプションメニューの「エンハンサー」（Enhancer）については、「ミュージックエンハンサーを設定する（Enhancer）」（78 ページ）をご覧ください。

FM/AM ラジオを聴く

周波数を指定してラジオ局を選ぶ

周波数を指定して FM/AM ラジオを選局します。

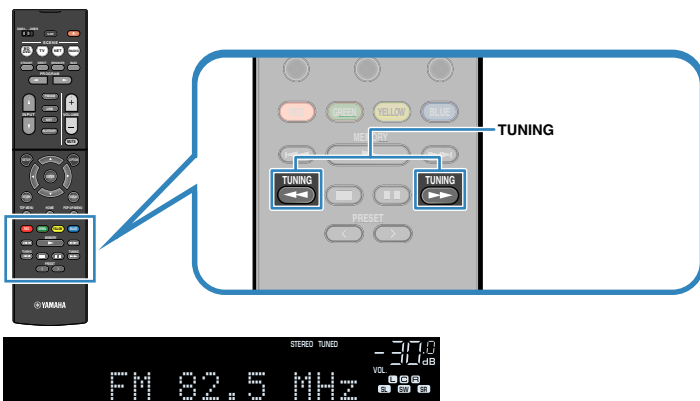
1 FM/AM キーを押し、FM/AM を切り替える。

入力が「TUNER」に切り替わり、次に選択中の周波数が表示されます。



2 TUNING キーを押し、周波数を切り替える。

約 1 秒押し続けると、自動で選局します。



ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

NOTE

- 本機は FM 補完放送（ワイド FM）に対応しています。
- ラジオの受信感度が悪いときは、アンテナの向きを調節してください。
- FM ラジオをモノラルで受信するには、オプションメニューの「FM モード」（FM Mode）を「モノ」（Mono）に設定してください。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル放送を選択すると改善される場合があります。オプションメニューの「FM モード」（FM Mode）については、「FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する（FM Mode）」（81 ページ）をご覧ください。
- ラジオを聴きながら、外部機器の映像を楽しめます。映像を楽しむには、オプションメニューの「映像選択」（Video Out）で外部機器を接続している入力端子を選択してください。オプションメニューの「映像選択」（Video Out）については、「音声と同時に出力する映像を選択する（Video Out）」（80 ページ）をご覧ください。

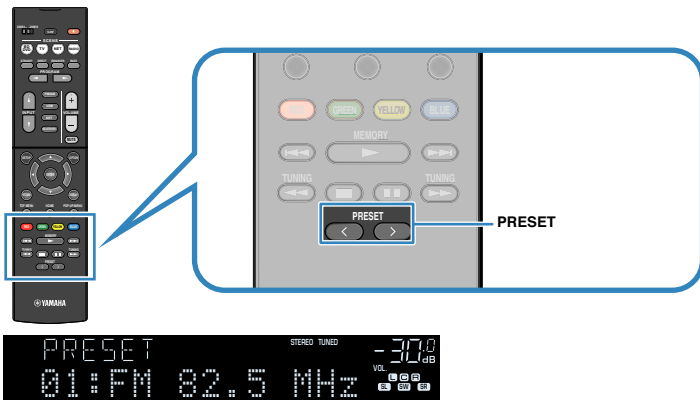
プリセット登録したラジオ局を呼び出す

プリセット番号に登録されている最大 40 局のラジオ局（プリセット局）の中から、聴きたいラジオ局を選択します。

1 FM/AM キーを押し、FM/AM を切り替える。

入力が「TUNER」に切り替わり、次に選択中の周波数が表示されます。

2 PRESET キーを繰り返し押して、プリセット局を選ぶ。



NOTE

ラジオ局が 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。

ラジオ局を自動でプリセット登録する（オートプリセット）

信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。最大 40 局のラジオ局をプリセット登録できます。

NOTE

AM ラジオ局は手動で登録してください。詳しくは、「ラジオ局を手動でプリセット登録する」（60 ページ）をご覧ください。

1 FM/AM キーを押し、FM/AM を切り替える。

入力が「TUNER」に切り替わり、次に選択中の周波数が表示されます。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキー（△/▽）で「Preset」を選び、ENTER キーを押す。



「AUTO」と表示され、登録するプリセット番号が表示されます。



最初に登録するプリセット番号

NOTE

登録を開始するプリセット番号を指定する場合は、PRESET キーまたはカーソルキー（△/▽）でプリセット番号を選択します。

4 ENTER キーを押す。

オートプリセットが開始され、オートプリセット中は「SEARCH」と表示されます。

NOTE

オートプリセットを中止するには、RETURN キーを押します。

オートプリセットが終わると「FINISH」と表示され、オプションメニューが自動的に終了します。



ラジオ局を手動でプリセット登録する

ラジオ局を手動で選局し、プリセット番号に登録します。最大 40 局のラジオ局をプリセット登録できます。

1 FM/AM キーを押し、FM/AM を切り替える。

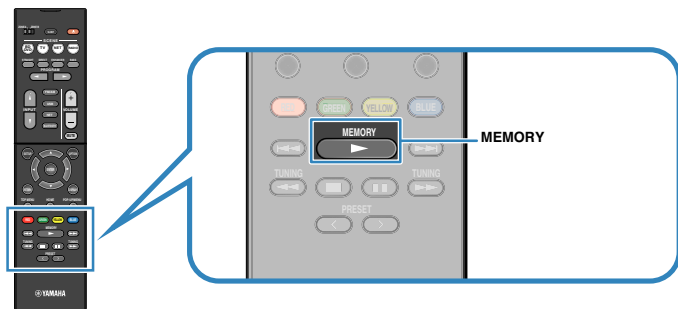
入力が「TUNER」に切り替わり、次に選択中の周波数が表示されます。

2 TUNING キーを押し、周波数を切り替える。

約 1 秒押し続けると、自動で選局します。

3 MEMORY キーを数秒間押し続ける。

初回はプリセット番号「01」に、2 回目以降は前回登録したプリセット番号の次の空き番号にラジオ局が登録されます。



登録先のプリセット番号

NOTE

登録先のプリセット番号を指定するには、登録したいラジオ局を受信中に MEMORY キーを一度押します。PRESET キーを押してプリセット番号を選択し、もう一度 MEMORY キーを押します。



「Empty」（空き）または現在登録されている周波数

これで登録は完了です。

ラジオ局のプリセット登録を解除する（クリアプリセット）

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。

1 FM/AM キーを押し、FM/AM を切り替える。

入力が「TUNER」に切り替わり、次に選択中の周波数が表示されます。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキー（△/▽）で「Preset」を選び、ENTER キーを押す。



4 カーソルキー（△/▽）で「CLEAR」を選ぶ。

5 カーソルキー（◀/▶）で登録を解除するプリセット番号を選び、ENTER キーを押す。



登録を解除するプリセット番号

登録が解除されると「Cleared」と表示され、次に登録されているプリセット番号が表示されます。



6 別のプリセット番号の登録を解除するには、手順 5 を繰り返す。

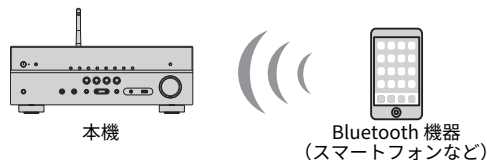
7 OPTION キーを押す。

これでプリセット登録の解除が完了です。

Bluetooth®接続で再生する

Bluetooth®機器の音声を本機で再生する

Bluetooth 機器（スマートフォンなど）に保存した音楽ファイルなどを本機で再生できます。以下の手順に従って、Bluetooth 機器と本機をペアリングし、Bluetooth 機器の音声を再生します。



NOTE

- Bluetooth 接続を使用する場合は、無線アンテナを立ててご使用ください。詳しくは「無線アンテナを準備する」(39 ページ) をご覧ください。
- Bluetooth 機能を利用するには、Bluetooth 機器の Bluetooth 機能がオンになっている必要があります。
- Bluetooth 機能を利用するには、設定メニューの「Bluetooth」が「オン」である必要があります。設定メニューの「Bluetooth」については、「Bluetooth を設定する」(104 ページ) をご覧ください。
- Bluetooth 機器（スマートフォンなど）と Bluetooth スピーカー/ヘッドホンを同時には使用できません。
- 対応している Bluetooth 機器については、「対応している Bluetooth 機器」(135 ページ) をご覧ください。

1 BLUETOOTH キーを押し、入力を「Bluetooth」に切り替える。

2 Bluetooth 機器を操作し、使用可能なデバイスのリストから本機（本機のネットワーク名称）を選ぶ。

Bluetooth 機器と本機の接続が完了します。

パスキーの入力が必要な場合は、数字で「0000」を入力してください。

3 Bluetooth 機器を操作して音声を再生する。

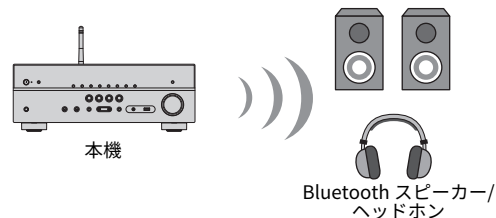
本機と HDMI で接続したテレビを使用している場合は、テレビに再生画面が表示されます。

NOTE

- 接続済みの Bluetooth 機器を検出した場合は、手順 1 のあと自動的にその Bluetooth 機器に接続されます。別の Bluetooth 機器と接続するには、まず現在の Bluetooth 接続を切断します。
- Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作をします。
 - Bluetooth 機器で切断操作をする。
 - 本機の入力を「Bluetooth」以外に切り替える。
 - 設定メニューの「デバイス切断」で ENTER キーを押す。

本機の音声を Bluetooth®対応スピーカー/ヘッドホンで再生する

本機で再生している音声を Bluetooth スピーカー/ヘッドホンに出力できます。以下の手順に従って、Bluetooth スピーカー/ヘッドホンと本機を接続し、再生する音声を出力します。



NOTE

- 本機に接続したスピーカーからも再生音が出ます。
- AirPlay および DSD の音声は送信できません。
- Bluetooth スピーカー/ヘッドホンと Bluetooth 機器（スマートフォンなど）を同時には使用できません。

- 1** リモコンの入力選択キーで再生したい入力を選ぶ。
「Bluetooth」以外を選択してください。
- 2** **SETUP** キーを押す。
- 3** カーソルキー（△/▽）で「Bluetooth」を選び、ENTER キーを押す。
- 4** カーソルキー（△/▽）で「Transmit」を選ぶ。
- 5** カーソルキー（◀/▶）で「On」を選ぶ。
- 6** カーソルキー（△/▽）で「Device Search」を選び、ENTER キーを押す。
Bluetooth 機器の一覧が表示されます。
- 7** **本機と接続したい Bluetooth スピーカー/ヘッドホン**をカーソルキー（△/▽）で**選び、ENTER キーを押す。**
接続が完了すると Bluetooth スピーカー/ヘッドホンから音声が出力されます。

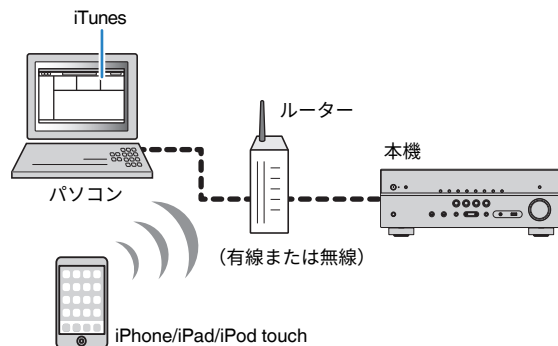
NOTE

- 接続したい Bluetooth 機器が一覧に表示されない場合は、Bluetooth 機器をペアリング状態にしてから、再度「Device Search」を実行してください。
- Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作をします。
 - Bluetooth 機器で切断操作をする。
 - 設定メニューの「音声送信機能」を「オフ」に設定する。

AirPlay で音楽を聴く

AirPlay で iTunes/iPhone の音楽を再生する

AirPlay 機能を使って、iTunes や iPhone の音楽ファイルを本機で再生します。



NOTE

- この機能を使用するには、本機とパソコンや iPhone が同じルーターに接続されている必要があります。ネットワーク情報 (IP アドレス) が正しく取得されているか、設定メニューの「ネットワーク情報」でご確認ください。詳しくは、「ネットワーク情報を確認する」(101 ページ) をご覧ください。
- iPhone から本機を認識できない場合は、「ネットワークケーブルの接続や無線アンテナの準備をする」(39 ページ) でネットワーク環境 (ルーターなど) をご確認ください。
- 対応している iPhone については、「対応している AirPlay 機器」(135 ページ) をご覧ください。

1 本機の電源を入れ、iTunes を起動する、または iPhone の音楽再生画面を表示する。

iTunes/iPhone が本機を認識すると AirPlay アイコンが表示されます。

iOS 10 (表示例)



iTunes (表示例)



NOTE

アイコンが表示されない場合は、本機とパソコンや iPhone が正しくルーターに接続されているか確認してください。

2 iTunes/iPhone で AirPlay アイコンをクリック (タップ) し、音声の出力先として本機 (ネットワーク名) を選ぶ。

3 iTunes/iPhone を操作して曲を再生する。

本機の入力自動的に「AirPlay」に切り替わり、再生が始まります。

本機と HDMI で接続したテレビを使用している場合は、テレビに再生画面が表示されます。

⚠ 注意

- iTunes/iPhone で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、聴覚障害や機器の損傷の原因になる場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに iTunes/iPhone の再生を停止してください。あらかじめ、オプションメニューの「音量連動」(Vol. Interlock) で iTunes/iPhone からの音量変化を制限しておくことをおすすめします。

NOTE

- 設定メニューの「ネットワークスタンバイ」を「オン」に設定時は、iTunes/iPhone で再生を始めると本機の電源が自動的に入ります。設定メニューの「ネットワークスタンバイ」については、「ネットワークスタンバイを設定する」(103 ページ) をご覧ください。
- iTunes/iPhone に表示される本機のネットワーク名は、設定メニューの「ネットワーク名」で変更できます。設定メニューの「ネットワーク名」については、「本機のネットワーク名を設定する」(103 ページ) をご覧ください。
- 再生中は iTunes/iPhone から本機の音量を操作できます。操作を無効にするには、オプションメニューの「音量連動」(Vol. Interlock) を「オフ」(Off) に設定します。オプションメニューの「音量連動」(Vol. Interlock) については、「AirPlay で再生する機器を本機の音量と連動させるか設定する (Vol. Interlock)」(81 ページ) をご覧ください。

USB 機器の曲を再生する

USB 機器の曲を再生する

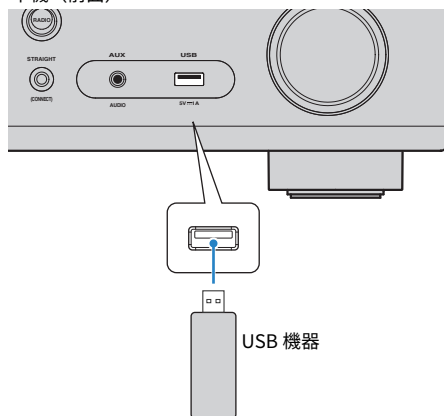
USB 機器に保存されている音楽ファイルなどを本機で再生します。USB 機器の曲の選択や再生は、テレビ画面を見ながら操作できます。

NOTE

- 対応している USB 機器については、「対応している USB 機器」(135 ページ)をご覧ください。
- 再生できるファイルフォーマットについては「対応しているファイルフォーマット」(135 ページ)をご覧ください。
- テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

1 USB 機器を USB 端子に接続する。

本機 (前面)



NOTE

- ファイル数が多いと読み込みに時間がかかる場合があります。この場合、本体前面ディスプレイに「Loading...」と表示されます。
- USB 機器は再生を停止させてから取り外してください。
- USB 機器は直接本機の USB 端子に接続してください。延長ケーブルなどは使わないでください。
- 本機がスタンバイ中は、USB 機器の充電はできません。

2 USB キーを押し、入力を「USB」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

NOTE

USB 機器側で再生状態が続いている場合は、再生画面が表示されます。

3 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押す。

選択したコンテンツの再生が始まり、テレビに再生画面が表示されます。

NOTE

- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- RETURN キーを長押しすると、トップの画面に戻ります。
- ブラウズ画面/再生画面/画面オフを切り替えるには、DISPLAY キーを押します。

NOTE

入力に「USB」が選択されている状態で、オプションメニューの「シャッフル」(Shuffle) または「リピート」(Repeat) を設定すると、曲のシャッフル再生/リピート再生ができます。オプションメニューの「シャッフル」(Shuffle) については「シャッフル再生を設定する (Shuffle)」(81 ページ) を、「リピート」(Repeat) については「リピート再生を設定する (Repeat)」(81 ページ) をご覧ください。

メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を再生する

Windows Media Player でメディアの共有設定を行う

メディアサーバー（パソコン/NAS）に保存されている音楽ファイルを本機で再生するために、各機器で本機とのメディア共有を有効にします。

共有の設定は、お使いのパソコンや Windows Media Player のバージョンにより手順が異なる場合があります。ここでは例として、Windows Media Player 12 の設定手順を説明します。

- 1 パソコンで Windows Media Player 12 を起動する。
- 2 メニューバーの「ストリーム」から、「メディアストリーミングを有効にする」を選ぶ。
- 3 開いたウィンドウで、「メディアストリーミングを有効にする」をクリックする。
- 4 機種名の右側にあるドロップダウン・リストで「許可」を選ぶ。
- 5 「OK」をクリックする。

これで設定は終了です。

NOTE

共有設定について詳しくは、Windows Media Player のヘルプをご覧ください。

Windows Media Player 以外でメディアの共有設定を行う

メディアサーバー（パソコン/NAS）に保存されている音楽ファイルを本機で再生するために、各機器で本機とのメディア共有を有効にします。

Windows Media Player 以外の DLNA サーバースoftwareの場合は、各機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照してメディアの共有設定を行ってください。

メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を再生する

メディアサーバー（パソコン/NAS）に保存されている音楽ファイルを選択し、本機で再生します。メディアサーバーの曲の選択や再生は、テレビ画面を見ながら操作できます。

NOTE

- 事前に、各機器で本機とのメディア共有を有効にする必要があります。メディアの共有設定については、「Windows Media Player でメディアの共有設定を行う」（66 ページ）または「Windows Media Player 以外でメディアの共有設定を行う」（66 ページ）をご覧ください。
- メディアサーバーの曲を再生するには、本機とメディアサーバー（パソコン/NAS）が同じルーターに接続されている必要があります。設定メニューの「ネットワーク情報」で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。設定メニューの「ネットワーク情報」については、「ネットワーク情報を確認する」（101 ページ）をご覧ください。
- 無線ネットワーク接続時に音声途切れる場合は、有線でネットワークに接続してください。
- 再生できるファイルフォーマットについては「対応しているファイルフォーマット」（135 ページ）をご覧ください。
- テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

- 1 NET キーを繰り返し押して、入力を「SERVER」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

NOTE

メディアサーバー（パソコン/NAS）の再生が続いている場合は、再生画面が表示されます。

- 2 カーソルキー（△/▽）でメディアサーバー（パソコン/NAS）を選び、ENTER キーを押す。

3 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押す。

曲を選択すると再生が始まり、再生画面が表示されます。

NOTE

- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- RETURN キーを長押しすると、トップの画面に戻ります。
- ブラウズ画面/再生画面/画面オフを切り替えるには、DISPLAY キーを押します。

NOTE

- 入力に「SERVER」が選択されている状態で、オプションメニューの「シャッフル」(Shuffle) または「リピート」(Repeat) を設定すると、曲のシャッフル再生/リピート再生ができます。オプションメニューの「シャッフル」(Shuffle) については「シャッフル再生を設定する (Shuffle)」(81 ページ) を、「リピート」(Repeat) については「リピート再生を設定する (Repeat)」(81 ページ) をご覧ください。
- DLNA 対応のデジタルメディアコントローラー (DMC) から再生を操作できます。デジタルメディアコントローラーについては、「デジタルメディアコントローラーからの操作を設定する」(103 ページ) をご覧ください。

インターネットラジオを聴く

インターネットラジオ局を選ぶ

インターネットラジオ局を選択して受信し、再生を始めます。インターネットラジオ局の選択は、テレビ画面を見ながら操作できます。

NOTE

- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります。設定メニューの「ネットワーク情報」で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。設定メニューの「ネットワーク情報」については、「ネットワーク情報を確認する」（101 ページ）をご覧ください。
- インターネットラジオ局や時間帯によっては、受信できないことがあります。
- この機能は、airable.Radio ラジオ局データベースサービスを利用します。
- 本サービスは事前の通知なく中止される場合があります。
- テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。それ以外の方法で接続している場合は、前面ディスプレイを見ながら操作してください。

1 NET キーを繰り返し押して、入力を「NET RADIO」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押す。

インターネットラジオ局を選択すると再生が始まり、再生画面が表示されます。

NOTE

- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- RETURN キーを長押しすると、トップの画面に戻ります。
- ブラウズ画面/再生画面/画面オフを切り替えるには、DISPLAY キーを押します。

インターネットラジオ局をお気に入りに登録する

お気に入りのインターネットラジオ局を登録します。

1 インターネットラジオの再生中に、OPTION キーを押す。

2 カーソルキー（△/▽）で「お気に入りに追加」（Add to Fav.）を選び、ENTER キーを押す。

再生画面では、再生中のラジオ局が Favorites（お気に入り）フォルダーに登録されます。

ブラウズ画面では、コンテンツ一覧で選択しているラジオ局が Favorites（お気に入り）フォルダーに登録されます。

3 OPTION キーを押す。

これで登録は完了です。

NOTE

- お気に入りに登録されたラジオ局には★が表示されます。
- お気に入りからラジオ局を削除するには、削除したいラジオ局にカーソルを移動させ、OPTION キーを押します。オプションメニューの「お気に入りから削除」（RemovefromFav.）を選び、ENTER キーを押して削除します。

Spotify サービスを利用する

Spotify サービスを利用する

Spotify は世界中の音楽をスピーディで快適に利用できる音楽ストリーミングサービスです。Spotify アプリをモバイル機器などにインストールすることで、Spotify アプリで再生する音楽を本機で楽しめます。

詳しくは以下のウェブサイトにアクセスしてください。

www.spotify.com/connect

NOTE

- この機能を使用するには、本機とモバイル機器またはタブレットが同じ無線 LAN ルーターに接続されている必要があります。ネットワーク情報 (IP アドレス) が正しく取得されているか、設定メニューの「ネットワーク情報」でご確認ください。詳しくは、「ネットワーク情報を確認する」(101 ページ) をご覧ください。
- アプリ画面の表示はお使いのモバイル機器やタブレット、アプリのバージョンによって異なることがあります。また、サービスの内容は予告なく変更されることがあります。

1 App Store または Google Play で「Spotify」を検索し、アプリをモバイル機器またはタブレットにインストールする。

2 アプリ内で Spotify Premium アカウント (有料) に登録する。

Premium アカウントに登録すると、30 日間は無料でトライアル利用できます。

3 Spotify アプリを開き、曲を再生する。

4 再生バーをタップする。



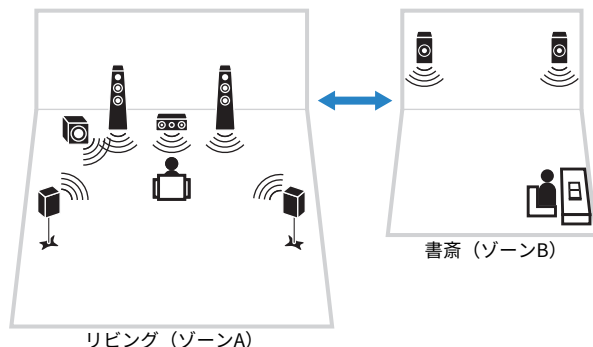
5 「接続可能なデバイス」から本機 (ネットワーク名) を選択する。

本機と HDMI で接続したテレビを使用している場合は、テレビに再生画面が表示されます。

複数の部屋で音楽を楽しむ

複数の部屋で音楽を再生する（ゾーン機能）

ゾーン機能を使えば、本機を設置した部屋（ゾーン A）と別の部屋（ゾーン B）で再生が行えます。たとえばリビングにいたときはゾーン A で再生し、書斎にいたときはゾーン B で再生するなど、お好みに合わせて使用できます。ゾーン A/B は個別に有効/無効を設定できます。両方のゾーンを有効にすれば同じ入力の手を、両方の部屋で楽しめます。



NOTE

- 2 チャンネル以上の音をゾーン B から出力する場合、2 チャンネルにダウンミックスされます。
- 入力はゾーン A/B 共通です。
- 初期状態では、ゾーン B の音量はゾーン A に連動します。ゾーン A/B に音量差がある場合は、音量差を補正できます。詳しくは「ゾーン A/B の音量差を補正する」(72 ページ) をご覧ください。また、ゾーン B の音量は個別に調節できます。「ゾーン B の音量を個別に調節する」(72 ページ) をご覧ください。
- ゾーン A/B の有効/無効は SCENE キーに登録できます。SCENE キーへの登録については、「SCENE キーの登録内容を変更する」(74 ページ) をご覧ください。

ゾーン B スピーカーを接続する

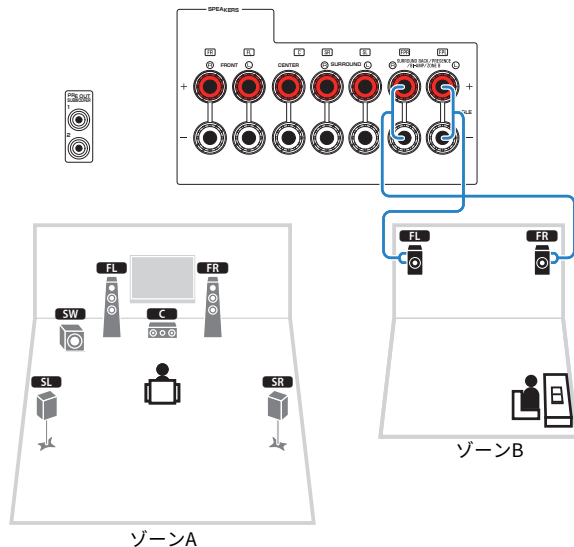
ゾーン B で使用するスピーカーを本機に接続します。

注記

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れると、本体前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示されます。

スピーカーケーブルを使って、ゾーン B に設置したスピーカーを本機の SURROUND BACK/PRESENCE/BI-AMP/ZONE B 端子に接続します。SURROUND BACK/PRESENCE/BI-AMP/ZONE B 端子をゾーン B 用として使用するには、電源コードを接続後、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」(Assign) を「ゾーン B」(Zone B) に設定してください。設定メニューの「パワーアンプ割り当て」(Assign) については、「スピーカーシステムの構成を設定する」(86 ページ) をご覧ください。

本機（背面）



NOTE

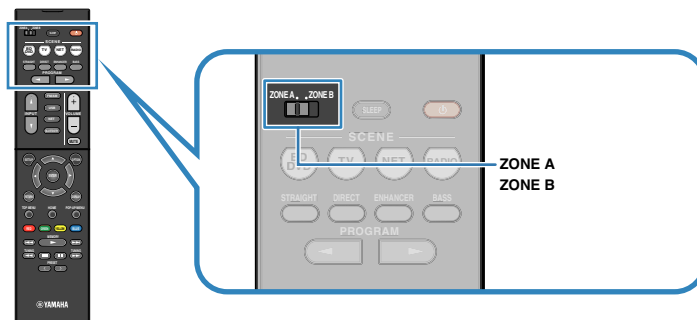
以下の接続は同時に使用できません。

- プレゼンススピーカー
- サラウンドバックスピーカー
- ゾーンBスピーカー
- バイアンプ接続

ゾーンBの再生を操作する

ゾーンBで音楽を再生する場合の基本的な操作方法を説明します。

- 1 リモコンの ZONE スイッチを「ZONE B」に切り替える。



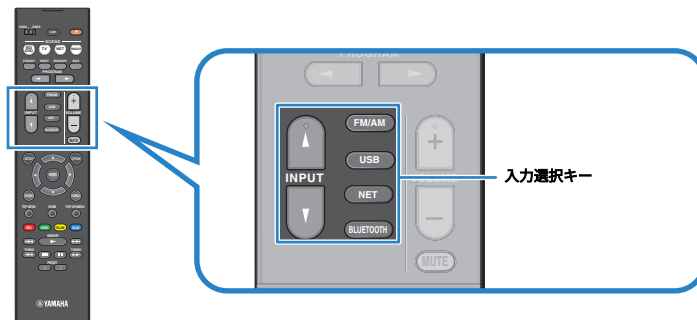
- 2 ㊦（レシーバー電源）キーを押す。

キーを押すたびに、ゾーンBの音声出力を入/切できます。

ZONE B が点灯



- 3 入力選択キーで入力を選ぶ。



- 4 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

ゾーン A/B の音量差を補正する

ゾーン A/B の音量差が大きい場合、以下の手順でゾーン B の音量を調節できます。

NOTE

オプションメニューを操作する場合は、リモコンの ZONE スイッチを「ZONE A」に切り替えてください。

1 OPTION キーを押す。

2 カーソルキー（△/▽）で「Volume Trim」を選び、ENTER キーを押す。

NOTE

1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

3 カーソルキー（△/▽）で「ZB.Trim」を選び、カーソルキー（◀/▶）で音量を調節する。

設定値

-10.0dB～+10.0dB（0.5dB 単位）

4 OPTION キーを押す。

これで設定は完了です。

NOTE

設定メニューの「ゾーン B 音量」を「非同期」に設定時は、調節した音量設定は無効になります。設定メニューの「ゾーン B 音量」については、「ゾーン A とゾーン B の音量を連動させる」（97 ページ）をご覧ください。

ゾーン B の音量を個別に調節する

初期状態ではゾーン B の音量はゾーン A に連動しますが、以下の手順でゾーン B の音量を個別に調節できます。

NOTE

- 事前に、設定メニューの「ゾーン B 音量」を「非同期」に設定してください。設定メニューの「ゾーン B 音量」については、「ゾーン A とゾーン B の音量を連動させる」（97 ページ）をご覧ください。
- 設定メニューを操作する場合は、リモコンの ZONE スイッチを「ZONE A」に切り替えてください。

1 ZONE スイッチを「ZONE B」に切り替える。

2 VOLUME キーでゾーン B の音量を調節する。

NOTE

MUTE キーで消音します。もう一度押すと消音を解除します。

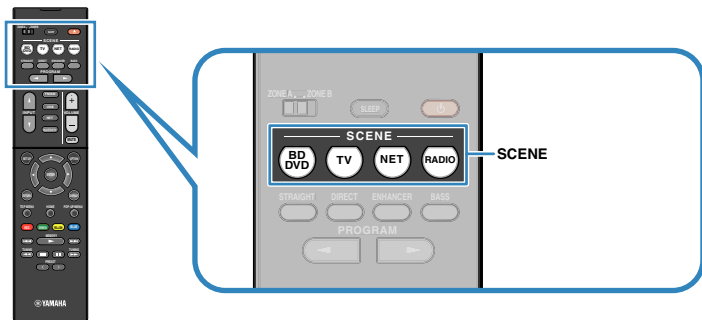
便利な再生機能

入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について（SCENE キー）

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した音場プログラム、ミュージックエンハンサーのオン/オフ、音声出力するゾーンなどをワンタッチで切り替えられます。シーン機能はリモコンの SCENE キー（4 種類）に登録しており、登録内容は変更もできます。

SCENE キーに登録したシーンを呼び出す

SCENE キーを押して、登録しているシーンをワンタッチで呼び出します。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。



各 SCENE キーの登録内容（初期値）は以下のとおりです。

SCENE キー				
入力	HDMI1	AUDIO1	NET RADIO	TUNER
音場プログラム	Sci-Fi	STRAIGHT	7ch Stereo	7ch Stereo
ミュージックエンハンサー	オフ	オン	オン	オン
シーン連動	オン	オン	オフ	オフ
ゾーン出力	ゾーン A	ゾーン A	ゾーン A	ゾーン A

NOTE

シーン連動を使うと、シーン選択時に HDMI で本機に接続したテレビの電源を入れたり、外部機器の再生を開始したりできます。シーン連動を有効にするには、設定メニューの「シーン連動」で該当シーンを「オン」に設定してください。設定メニューの「シーン連動」については、「シーン連動を設定する」（93 ページ）をご覧ください。

SCENE キーの登録内容を変更する

各 SCENE キーの登録内容を初期値から変更できます。

NOTE

登録したい入力の映像や音声を視聴しながら、登録することをおすすめします。

1 本機を SCENE キーに登録したい状態にする。

- 登録したい入力を選ぶ。
- 登録したい音場プログラムを選ぶ。または、音場効果をかけずに再生する。
- ミュージックエンハンサーを設定する。
- 音声を出力するゾーンを選ぶ。
- シーン連動を設定する。

2 本体前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先とする SCENE キーを押し続ける。



これで登録は完了です。

NOTE

シーン連動を設定するには、「シーン連動を設定する」(93 ページ)をご覧ください。

お好みのコンテンツをショートカットに登録する

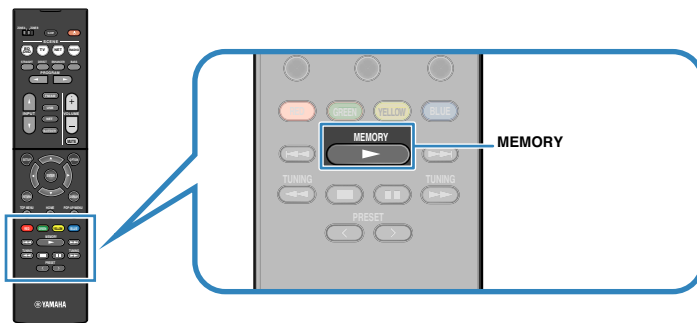
お好みのコンテンツ（メディアサーバー/Bluetooth 機器/USB 機器の曲、インターネットラジオ局）をショートカット番号に登録します。最大 40 種類のコンテンツを登録できます。

NOTE

- インターネットラジオ局の登録は、「インターネットラジオ局をお気に入りに登録する」(68 ページ)のお気に入りもご利用いただけます。
- Bluetooth と AirPlay は入力ソースとして記憶します。再生曲を個別には登録できません。

1 登録したい曲やインターネットラジオ局を再生する。

2 MEMORY キーを 3 秒押す。



登録先のショートカット番号（点滅）

「MEMORY」が表示され、登録するショートカット番号が点滅表示されます。

NOTE

登録先のショートカット番号を指定する場合は、PRESET キーを押してショートカット番号を選択します。



Empty（空き）または現在登録されているコンテンツの入力名

3 MEMORY キーを押す。

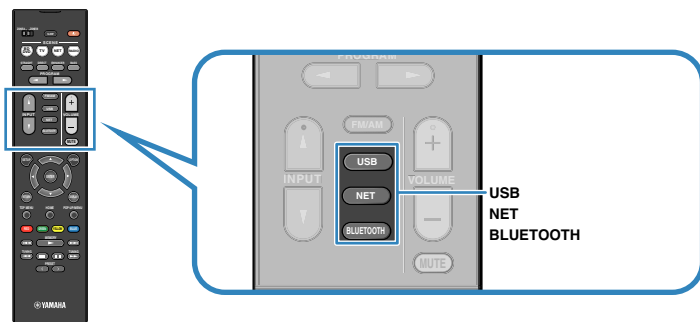
登録したショートカット番号と「Memorized」が表示されます。

これで登録は完了です。

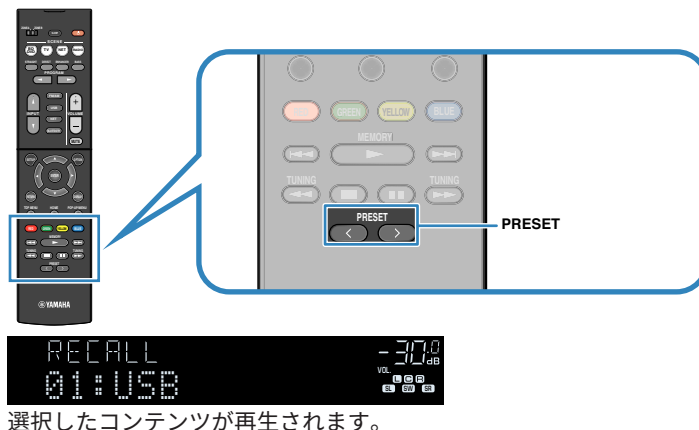
ショートカットに登録したコンテンツを呼び出す

ショートカット番号に登録されているコンテンツ（メディアサーバー/Bluetooth 機器/USB 機器の曲、インターネットラジオ局）の中から、聴きたいコンテンツを選択します。

1 BLUETOOTH キー、NET キー、または USB キーを押す。



2 PRESET キーを押し、聴きたいコンテンツを選ぶ。



選択したコンテンツが再生されます。

NOTE

- ショートカットが1つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。
- 以下の場合は、ショートカット番号を選択してもコンテンツを再生できません。
 - 登録時と異なる USB 機器を接続している。
 - メディアサーバー（パソコン/NAS）の電源が入っていない。またはネットワークに接続されていない。
 - 登録したインターネットラジオ局に一時的に接続できない。またはサービスが終了している。
 - 登録したコンテンツ（ファイル）が別のフォルダーに移動された。
 - Bluetooth 接続ができない。
- USB 機器またはメディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を登録した場合、本機は音楽ファイルのフォルダー内における相対的な位置を記憶します。そのため、フォルダー内の音楽ファイルを追加/削除すると、登録したコンテンツが呼び出されない場合があります。その場合は、コンテンツを登録し直してください。
- MusicCast CONTROLLER を使うと、登録したコンテンツ（曲名、ラジオ局名）を一覧で表示したり呼び出したりできます。MusicCast CONTROLLER については、「MusicCast CONTROLLER について」（48 ページ）をご覧ください。

再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）

再生機能を変更する（オプションメニュー）

オプションメニューの基本的な操作方法を説明します。オプションメニューでは、再生中のソースにあわせて、本機の再生関連の機能を設定します。オプションメニューは本体前面ディスプレイでもテレビ画面でも操作できます。前面ディスプレイを使えば、必要なときに簡単に設定を変更できます。

NOTE

テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

1 リモコンの OPTION キーを押す。



前面ディスプレイ



テレビ画面

2 カーソルキー（△/▽）で設定項目を選び、ENTER キーを押す。

NOTE

1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

3 カーソルキー（</>）で設定値を選ぶ。

4 OPTION キーを押す。

これで設定は完了です。

NOTE

各メニューの初期値は「オプションメニュー初期値一覧」（145 ページ）をご覧ください。

オプションメニュー一覧

NOTE

- 選択中の入力に適用可能な項目のみが表示されます。
- カッコ内の表記は、本体前面ディスプレイの表示です。

項目	説明	ページ
入力切替 (Input Select)	入力を切り替えます。	77
トーンコントロール (Tone Control)	音声の高音域と低音域音量を、それぞれ調整します。	77
DSP/サラウンド (DSP/Surround)	プログラム (PRG)	音場プログラムやステレオ再生を選択します。53
	サラウンドデコード (SrDec)	プログラムで「サラウンドデコード」を選択時に、使用するデコーダーを選択します。56
	エフェクト量の加減 (DSP Level)	音場プログラムのエフェクト量を調節します。78

項目		説明	ページ
DSP/サラウンド (DSP/Surround)	アダプティブ DRC (A.DRC)	音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するか設定します。	78
	多重モノラル音声 (Dual Mono)	多重音声入力時の出力音声を設定します。	78
	エンハンサー (Enhancer)	ミュージックエンハンサーを有効/無効にします。	78
再生レベル補正 (Volume Trim)	入力レベル補正 (In.Trim)	入力間の音量差を補正します。	79
	サブウーファーレ ベル補正 (SW.Trim)	再生中にサブウーファーの音量を微調整します。	79
	ゾーン B レベル補 正 (ZB.Trim)	ゾーン A/B の音量差を調整します。	72
リップシンク設定 (Lipsync)		設定メニューの「リップシンク」で設定した補正值を有効/無効にします。	79
信号情報 (Signal Info.)		映像/音声信号に関する情報を表示します。	79
音声入力 (Audio In)		選択した入力の映像とほかの端子の音声を組み合わせます。	80
映像選択 (Video Out)		選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。	80
FM モード (FM Mode)		FM ラジオの受信方法(ステレオ/モノラル)を選択します。	81
プリセット (Preset)	オートプリセット	信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。	59
	クリアプリセット	プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。	60
シャッフル (Shuffle)		曲のシャッフル再生を設定します。	81
リピート (Repeat)		曲のリピート再生を設定します。	81
音量連動 (Vol.Interlock)		AirPlay 入力選択時に、本機と iTunes/ iPhone の音量を連動させるかどうかを設定します。	81

項目	説明	ページ
お気に入り追加 (Add to Fav.)	お気に入りのインターネットラジオ局を Favorites (お気に入り) フォルダーに登録します。または Favorites (お気に入り) フォルダーから削除します。	68
お気に入りから削除 (Remove from Fav.)		

入力を切り替える (Input Select)

入力を切り替えます。カーソルキーで選択し、ENTER キーを押すと選択中の入力に切り替わります。

オプションメニュー

「入力切替」(Input Select)

出力される音声のトーンを調整する (Tone Control)

出力される音声の高音域 (Treble) と低音域 (Bass) の音量を、それぞれ調整します。

オプションメニュー

「トーンコントロール」(Tone Control)

選択項目

高音 (Treble)、低音 (Bass)

設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

NOTE

- 「高音」(Treble) と「低音」(Bass) の両方が 0.0dB の場合は、「バイパス」(Bypass) と表示されます。
- 本体前面のキーでも調整できます。TONE CONTROL キーで「Treble」または「Bass」を選び、PROGRAM キーで調整してください。
- 極端な設定にすると、音のつながりが悪くなる場合があります。

DSP/サラウンドの設定を変更する (DSP/Surround)

■ 音場プログラムの効果量を調節する (DSP Level)

音場プログラムのエフェクト量（音場効果のかかり具合）を調整します。

オプションメニュー

「DSP/サラウンド」(DSP/Surround) > 「エフェクト量の加減」(DSP Level)

設定値

-6dB～+3dB (1dB 単位)

■ アダプティブ DRC を設定する (A.DRC)

音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節する場合に設定します。「オン」(On) にすると、音量が小さいときはダイナミックレンジが狭まり、大きいときは広がります。夜間に再生するときなど小音量でも聴きやすくなります。

オプションメニュー

「DSP/サラウンド」(DSP/Surround) > 「アダプティブ DRC」(A.DRC)

設定値

オン (On)	ダイナミックレンジを自動的に調節する。
オフ (Off)	ダイナミックレンジを自動的に調節しない。

■ モノラル多重音声入力時の出力音声を設定する (Dual Mono)

地上デジタル/BS デジタル放送など、モノラル多重音声入力時の出力音声を設定します。

オプションメニュー

「DSP/サラウンド」(DSP/Surround) > 「多重モノラル音声」(Dual Mono)

設定値

すべて (All)	主音声と副音声をフロントスピーカーから同時に出力する。 PCM 信号の左右振り分けは、デジタル放送チューナーの設定により異なります。
主音声 (Main)	主音声をフロントスピーカーから出力する。
副音声 (Sub)	副音声をフロントスピーカーから出力する。

■ ミュージックエンハンサーを設定する (Enhancer)

ミュージックエンハンサーを使用する場合に設定します。

オプションメニュー

「DSP/サラウンド」(DSP/Surround) > 「エンハンサー」(Enhancer)

設定値

オフ (Off)	ミュージックエンハンサーを無効にする。
オン (On)	ミュージックエンハンサーを有効にする。

NOTE

- 入力ごとに個別に設定できます。
- ミュージックエンハンサーはリモコンの ENHANCER キーでも設定できます。操作については、「圧縮フォーマット (MP3 など) を厚みのある音で再生する」(57 ページ)をご覧ください。

再生時の音量差を調整する (Volume Trim)

■ 入力間の音量差を調整する (In.Trim)

入力間の音量差を補正します。入力切り替え時に音量の増減が気になる場合は、この設定を使って微調整してください。

オプションメニュー

「再生レベル補正」(Volume Trim) > 「入力レベル補正」(In.Trim)

設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

NOTE

入力ごとに個別に設定できます。

■ サブウーファースの音量を調整する (SW.Trim)

サブウーファースの音量を微調整します。

オプションメニュー

「再生レベル補正」(Volume Trim) > 「サブウーファースレベル補正」(SW.Trim)

設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

リップシンク補正を使用するか設定する (Lipsync)

設定メニューの「リップシンク」で設定した補正值を使用するか設定します。

NOTE

設定メニューの「リップシンク」については、「リップシンクの調整方法を設定する」(95 ページ) をご覧ください。

オプションメニュー

「リップシンク設定」(Lipsync)

設定値

オフ (Off)	リップシンクによる補正を無効にする。
オン (On)	リップシンクによる補正を有効にする。

NOTE

入力ごとに個別に設定できます。

映像/音声信号情報を確認する (Signal Info.)

映像/音声信号に関する情報を表示します。

オプションメニュー

「信号情報」(Signal Info.)

選択項目

信号方式 (FORMAT)	入力信号の音声フォーマット
チャンネル (CHANNEL)	入力信号のチャンネル数 (フロント/サラウンド/LFE) 「3/2/0.1」と表示されている場合、フロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE 0.1ch
サンプリング (SAMPLING)	入力デジタル信号の 1 秒あたりのサンプル数
映像入力 (VIDEO IN)	入力中のデジタル映像信号の種類と解像度
映像出力 (VIDEO OUT)	出力中のデジタル映像信号の種類と解像度

NOTE

本体前面ディスプレイの表示項目を切り替えるには、カーソルキー (△/▽) を繰り返し押します。

映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を選択する (Audio In)

映像入力端子と音声入力端子の組み合わせを変更します。選択した入力の映像と他の端子の音声を組み合わせて再生できます。以下の場合にご利用ください。

- 映像は HDMI、音声は HDMI 以外で出力する再生機器を本機に接続する。

オプションメニュー

「音声入力」(Audio In)

設定可能な映像入力

HDMI1～4、AV1～3

設定値

AV1～3、AUDIO1～3

本機の映像/音声入力端子

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子	
映像	音声	映像	音声
HDMI	光デジタル	HDMI1～4	AUDIO1
	同軸デジタル	HDMI1～4	AUDIO2、AV1
	アナログステレオ	HDMI1～4	AUDIO3、AV2～3
コンポジットビデオ	光デジタル	AV1～3	AUDIO1

設定例

例として、映像は AV2 (VIDEO)、音声は AUDIO1 (OPTICAL) 端子に接続した場合の設定手順を説明します。

- 1 INPUT キーで入力を「AV2」（映像を入力する端子）に切り替える。
- 2 OPTION キーを押す。

- 3 カーソルキー（△/▽）で「Audio In」を選び、ENTER キーを押す。



- 4 カーソルキー（◀/▶）で「AUDIO1」（音声を入力する端子）を選ぶ。



- 5 OPTION キーを押す。

これで設定は完了です。

音声と同時に出力する映像を選択する (Video Out)

選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。この設定を使うと、たとえば、ラジオを聴きながら他の入力の映像を表示できます。

オプションメニュー

「映像選択」(Video Out)

設定可能な音声入力

AUX、AUDIO1～3、TUNER、Spotify、AirPlay、MusicCast Link、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB

設定値

オフ (Off)	映像を表示しない。
HDMI1～4、AV1～3	選択した入力の映像を表示する。

FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する（FM Mode）

FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を選択します。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル放送に切り替えると改善される場合があります。

オプションメニュー

「FM モード」(FM Mode)

設定値

ステレオ (Stereo)	FM ラジオをステレオで受信する。
モノ (Mono)	FM ラジオをモノラルで受信する。

シャッフル再生を設定する（Shuffle）

シャッフル再生を設定します。

オプションメニュー

「シャッフル」(Shuffle)

設定値

オフ (Off)	シャッフル再生を無効にする。
オン (On)	アルバム（フォルダー）内の曲をランダムに再生する。

リピート再生を設定する（Repeat）

リピート再生を設定します。

オプションメニュー

「リピート」(Repeat)

設定値

オフ (Off)	リピート再生を無効にする。
1 曲 (One)	現在の曲を繰り返し再生する。
すべて (All)	アルバム（フォルダー）内の曲を繰り返し再生する。

AirPlay で再生する機器を本機の音量と連動させるか設定する（Vol. Interlock）

AirPlay 入力選択時に、本機と iTunes/iPhone の音量を連動させるか設定します。「オフ」(Off) 以外に設定すると、iTunes/iPhone で本機の音量を調節できます。

オプションメニュー

「音量連動」(Vol. Interlock)

設定値

オフ (Off)	iTunes/iPhone からの音量操作を無効にする。
制限あり (Ltd)	Mute および -80dB ~ -20dB の範囲で iTunes/iPhone からの音量操作を有効にする。
制限なし (Full)	Mute および -80dB ~ +16.5dB の範囲で iTunes/iPhone からの音量操作を有効にする。

設定する

機能設定を変更する（設定メニュー）

機能設定を変更する（設定メニュー）

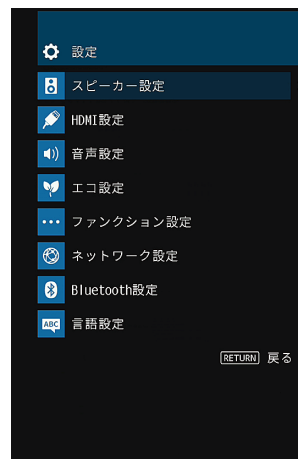
テレビ画面を使った設定メニューの基本的な操作方法を説明します。設定メニューでは、本機の詳細機能を設定します。

NOTE

- 設定メニューをテレビ画面に表示するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。
- 新しいファームウェアが利用可能な場合は、メッセージ画面が表示されます。詳しくは「ネットワーク経由で直接ファームウェアを更新する」（109 ページ）をご覧ください。
- ネットワーク上に新しいファームウェアがある場合は、テレビ画面に封筒（✉）アイコンが表示されます。ファームウェアの更新方法については、「ネットワーク経由で直接ファームウェアを更新する」（109 ページ）をご覧ください。

1 リモコンの SETUP キーを押す。

2 カーソルキーでメニューを選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。

NOTE

メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

4 カーソルキー（</>）で設定値を選び、ENTER キーを押す。

5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

NOTE

各メニューの初期値は「設定メニュー初期値一覧」（145 ページ）をご覧ください。

設定メニュー一覧

NOTE

カッコ内の表記は、本機前面ディスプレイの表示です。

メニュー	項目	説明	ページ	
スピーカー設定 (Speaker Setup)	構成 (Config)	パワーアンプ割り当て (Assign)	使用するスピーカーシステムを選択します。	86
		サブウーファー (Subwoofer)	サブウーファーの有無を設定します。	86
		フロント (Front)	フロントスピーカーのサイズを選択します。	86
		センター (Center)	センタースピーカーの有無やサイズを選択します。	87
		サラウンド (Sur. LR)	サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。	87
		サラウンドバック (Sur. B)	サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを選択します。	88
		プレゼンス (PRNS)	プレゼンススピーカーの有無やサイズを選択します。	88
		配置 (Layout)	プレゼンススピーカーの配置を選択します。	89
		低音クロスオーバー (Crossover)	「小」 に設定したスピーカーが出力可能な低音域成分の下限周波数を設定します。	89
		サブウーファー位相 (SWFR Phase)	サブウーファーの位相を設定します。	90
	エクストラベース (Extra Bass)	エクストラベースを有効/無効にします。	90	
	バーチャルシネマフロント (V.C.FRONT)	バーチャルシネマフロントを使うかどうかを設定します。	90	
	距離 (Distance)	スピーカーの距離を個別に設定します。	90	
	音量 (Level)	スピーカーの音量を個別に設定します。	91	
イコライザー (Equalizer)	イコライザーを使って音色を調節します。	91		
テストトーン (Test Tone)	テストトーン出力を有効/無効にします。	91		

メニュー	項目	説明	ページ	
HDMI 設定 (HDMI Setup)	HDMI コントロール (Control)	HDMI コントロールを有効/無効にします。	92	
	音声出力 (Audio Out)	音声を TV スピーカーから出力するかどうかを設定します。	92	
	スタンバイスルー (Through)	本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された映像/音声をテレビに出力するかどうかを設定します。	92	
	4K アップスケーリング (4K Upscale)	HDMI 端子へ入力された映像信号を 4K アップスケーリングするかどうかを設定します。	92	
	TV 音声入力 (TVAudio)	テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。	93	
	スタンバイ連動 (Sync)	HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。	93	
	ARC (ARC)	ARC を有効/無効にします。	93	
	シーン連動 (SCENE)	シーン連動を有効/無効にします。	93	
音声設定 (Sound Setup)	DSP パラメーター (DSP Parameter)	シネマ DSP 3D モード (DSP 3D)	シネマ DSP 3D を有効/無効にします。	94
		センタースプレッド (C.Spread)	2 チャンネルソース再生時にセンターチャンネル音声を左右に振り分けるかどうかを設定します。	94
		センターイメージ (C.Image)	フロント音場のセンター定位の強さ (広がり感) を調節します。	94
	リップシンク (Lipsync)	自動/手動選択 (Select)	映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。	95
		調整 (Adjustment)	映像と音声のずれを手動で調整します。	95
	ダイアログ (Dialogue)	セリフ音量調整 (Level)	中央に定位する音 (セリフなど) の音量を調整します。	95
		DTS ダイアログコントロール (DTS Control)	DTS:X コンテンツ再生時に中央に定位する音 (セリフなど) の音量を調整します。	95
		セリフ位置調整 (Lift)	中央に定位する音 (セリフなど) の高さを調整します。	96
		音量表示 (Scale)	音量の表示方式を切り替えます。	96
	音量 (Volume)	ダイナミックレンジ (DRC)	Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。	96
		音量の上限 (MaxVol)	リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。	97
		音量の初期値 (IniVol)	電源を入れたときの音量を設定します。	97
		ゾーン B 音量 (ZoneB)	ゾーン A の音量と連動してゾーン B の音量を調節するかどうかを選択します。	97
	エコ設定 (ECO Setup)	自動スタンバイ (AutoPowerStdby)	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。	98
エコモード (ECO Mode)		エコモード (消費電力の節約) を有効/無効にします。	98	

メニュー	項目	説明	ページ	
ファンクション設定 (Func. Setup)	入力名変更 (Input Rename)	前面ディスプレイやテレビ画面に表示する、入力の名称を変更します。	99	
	入力スキップ (Input Skip)	INPUT キーを操作した時にスキップする入力を設定します。	100	
	明るさ (Dimmer)	前面ディスプレイの明るさを調節します。	100	
	設定保護 (Memory Guard)	設定を保護して、変更できないようにします。	100	
	リモコンカラーキー (Rem. ColorKey)	リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE のキーに本機の機能を設定します。	100	
ネットワーク設定 (Network Setup)	ネットワーク情報 (Information)	本機のネットワーク情報を表示します。	101	
	ネットワーク接続 (Connection)	ネットワークへの接続方法を設定します。	101	
	IP アドレス (IP Address)	ネットワーク情報 (IP アドレスなど) を設定します。	101	
	MAC アドレスフィルター (MAC Filter)	MAC アドレスを指定して本機にアクセスできるようネットワーク機器を制限します。	102	
	DMC からの操作 (DMC Control)	デジタルメディアコントローラー (DMC) からの操作を有効/無効にします。	103	
	ネットワークスタンバイ (NET Standby)	ネットワーク機器から本機の電源を入れる機能 (ネットワークスタンバイ) を有効/無効にします。	103	
	ネットワーク名 (Network Name)	ネットワークに表示される本機の名称を設定します。	103	
	MusicCast Link 電源連動 (MCLinkPWRInt.)	本機と MusicCast 対応機器の電源連動を設定します。	103	
	ネットワークアップデート (Update)	本機のファームウェアをネットワーク経由で更新します。また、現在のファームウェアバージョンやシステム ID を確認できます。	104	
Bluetooth 設定 (Bluetooth)	Bluetooth (Bluetooth)	Bluetooth 機能を有効／無効にします。	104	
	音声受信	デバイス切断 (Disconnect)	Bluetooth 機器 (スマートフォンなど) と本機との Bluetooth 接続を切断します。	61
		Bluetooth スタンバイ (Standby)	Bluetooth 機器から本機の電源を入れる機能 (Bluetooth スタンバイ) を有効にするかどうかを選択します。	104
	音声送信	音声送信機能 (Transmit)	Bluetooth の音声送信機能を有効／無効にします。	61
		デバイス検索 (Device Search)	本機の Bluetooth 音声送信機能が有効の場合、接続できる Bluetooth 機器 (スピーカー／ヘッドフォンなど) を検索します。	61
言語設定 (OSD Language)		テレビ画面の表示言語を設定します。	105	

スピーカー設定

スピーカーシステムの構成を設定する

接続したスピーカーシステムに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「パワーアンプ割り当て」

設定値

プレゼンス	5.1.2 チャンネルシステムとしてプレゼンススピーカーを使う場合に選択する。
サラウンドバック	7.1 チャンネルのスピーカーシステムを使う場合（プレゼンススピーカー、ゾーンBスピーカー、バイアンプ接続を使わない場合）に選択する。
バイアンプ	フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合に選択する。
ゾーンB	メインゾーン内のスピーカーシステムに加えて、ゾーンBスピーカーを使う場合に選択する。
5.1ch	5.1 チャンネルのスピーカーシステムを使う場合（SURROUND BACK/PRESENCE/BI-AMP/ZONE B 端子を使わない場合）に選択する。

NOTE

- フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合は、「バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを接続する」（34 ページ）をご覧ください。
- ゾーンBスピーカーを使う場合は、「ゾーンBスピーカーを接続する」（70 ページ）をご覧ください。

サブウーファースの有無を設定する

サブウーファースの接続状況に合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サブウーファース」

設定値

使用する	サブウーファースを接続している場合に選択する。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声サブウーファースから出力されます。
使用しない	サブウーファースを接続しない場合に選択する。 低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。

フロントスピーカーのサイズを設定する

接続したフロントスピーカーのサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「フロント」

設定値

小	フロントスピーカーが小さい場合に選択する。 フロントチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファースから出力されます。
大	フロントスピーカーが大きい場合に選択する。 フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。

NOTE

- 使用するスピーカーのウーファース部口径が16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」を目安に設定してください。
- 設定メニューの「サブウーファース」が「使用しない」の場合は、自動的に「大」が選択されます。設定メニューの「サブウーファース」については、「サブウーファースの有無を設定する」（86 ページ）をご覧ください。

センタースピーカーの有無やサイズを設定する

センタースピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「センター」

設定値

小	センタースピーカーが小さい場合に選択する。 センターチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	センタースピーカーが大きい場合に選択する。 センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
無	センタースピーカーを接続しない場合に選択する。 センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

NOTE

サイズ選択では、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」を目安にしてください。

サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する

サラウンドスピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サラウンド」

設定値

小	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
無	サラウンドスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力され、音場プログラムがバーチャルシネマ DSP に切り替わります。

NOTE

サイズ選択では、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」を目安にしてください。

サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを設定する

設定メニューの「パワーアンプ割り当て」で「サラウンドバック」を選択した場合に、サラウンドバックスピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

NOTE

設定メニューの「パワーアンプ割り当て」については、「スピーカーシステムの構成を設定する」(86 ページ)をご覧ください。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サラウンドバック」

設定値

小 1 台	小さいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合 に選択する。 サラウンドバックチャンネルの低音域は、サブウーファーまたは フロントスピーカーから出力されます。
小 2 台	小さいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合 に選択する。 サラウンドバックチャンネルの低音域は、サブウーファーまたは フロントスピーカーから出力されます。
大 1 台	大きいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合 に選択する。
大 2 台	大きいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合 に選択する。
無	サラウンドバックスピーカーを接続しない場合を選択する。 サラウンドバックチャンネルの音声は、サラウンドスピーカー およびサブウーファーまたはフロントスピーカーから出力され ます。

NOTE

- サイズ選択では、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」を目安にしてください。
- 設定メニューの「バーチャルシネマフロント」が「オン」の場合は設定できません。設定メニューの「バーチャルシネマフロント」については、「バーチャルシネマフロントを設定する」(90 ページ)をご覧ください。

プレゼンススピーカーの有無やサイズを設定する

設定メニューの「パワーアンプ割り当て」で「プレゼンス」を選択した場合に、プレゼンススピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

NOTE

設定メニューの「パワーアンプ割り当て」については、「スピーカーシステムの構成を設定する」(86 ページ)をご覧ください。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「プレゼンス」

設定値

大	プレゼンススピーカーが大きい場合を選択する。
小	プレゼンススピーカーが小さい場合を選択する。
無	スピーカーを接続しない場合を選択する。

NOTE

サイズ選択では、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」を目安にしてください。

プレゼンスピーカーの配置を設定する

接続したプレゼンスピーカーの配置に合わせて設定値を選択します。この設定は、音場効果の最適化に使用されます。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「配置」

設定値

フロントハイト	プレゼンスピーカーが前方の壁に設置されている場合に選択する。
オーバーヘッド	プレゼンスピーカーが天井に設置されている場合に選択する。
ドルビーイネーブルド SP	ドルビーイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）をプレゼンスピーカーとして使用する場合に選択する。

NOTE

- 設定メニューの「プレゼンス」が「無」の場合は設定できません。設定メニューの「プレゼンス」については、「プレゼンスピーカーの有無やサイズを設定する」（88 ページ）をご覧ください。
- プレゼンスピーカー使用時の Dolby Atmos コンテンツの再生については、「プレゼンスピーカーの配置の選択」（32 ページ）をご覧ください。

低音クロスオーバーの周波数を設定する

スピーカーサイズを「小」に設定したスピーカーが出力できる低音域の周波数を、設定値から選択します。

設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「低音クロスオーバー」

設定値

40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

NOTE

サブウーファー側で音量やクロスオーバー周波数を調節できる場合は、音量を半分に、クロスオーバー周波数を最大にしてください。

サブウーファースの位相を設定する

接続したサブウーファースの位相に合わせて設定値を選択します。視聴位置で低音が弱く感じる時に、位相を変更すると改善される場合があります。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サブウーファース位相」

設定値

正相	サブウーファースの位相を反転しない。
逆相	サブウーファースの位相を反転する。

NOTE

設定メニューの「サブウーファース」が「使用しない」の場合は設定できません。設定メニューの「サブウーファース」については、「サブウーファースの有無を設定する」(86 ページ)をご覧ください。

エクストラベースを設定する

低音を増強する場合にエクストラベースを設定します。「オン」にすると、フロントスピーカーの大きさやサブウーファースの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「エクストラベース」

設定値

オフ	エクストラベースを無効にする。
オン	エクストラベースを有効にする。

NOTE

リモコンの BASS キーでも、エクストラベースを有効/無効にできます。

バーチャルシネマフロントを設定する

バーチャルシネマフロントを使用する場合に設定します。バーチャルシネマフロントについては、「5.1 システム (バーチャルシネマフロント)」(31 ページ) をご覧ください。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「バーチャルシネマフロント」

設定値

オフ	バーチャルシネマフロントを使用しない。
オン	バーチャルシネマフロントを使用する。

NOTE

設定メニューの「サラウンド」が「無」の場合は設定できません。設定メニューの「サラウンド」については、「サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する」(87 ページ) をご覧ください。

スピーカーの距離を個別に設定する

各スピーカーの音が視聴位置に同時に届くように設定値を調節します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「距離」

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、プレゼンス左、プレゼンス右、サブウーファース

設定値

0.30m～24.00m (1.0ft～80.0ft)、0.05m (0.2ft) 単位

NOTE

「単位」で「メートル」、「フィート」を切り替えられます。

スピーカーの音量を個別に調整する

各スピーカーの音が視聴位置で同じに聴こえるように設定値を調節します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「音量」

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、プレゼンス左、プレゼンス右、サブウーファ

設定値

-10.0dB〜+10.0dB (0.5dB 単位)

NOTE

テストトーンを出力して実際の効果を確認しながら調整できます。テストトーンについては、「テストトーンを出力する」(91 ページ)をご覧ください。

イコライザーを設定する

音色を調節する場合にイコライザーを設定します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「イコライザー」>「イコライザー選択」

設定値

PEQ	YPAO の自動測定で得たパラメトリックイコライザーの値を適用する。
GEQ	イコライザーの値を手動で調節する。
オフ	イコライザーを使用しない。

GEQ 設定時

- 1 カーソルキー (△/▽) で「チャンネル」を選び、カーソルキー (◀/▶) で調節するスピーカーチャンネルを選ぶ。

- 2 カーソルキー (△/▽) で周波数を選び、カーソルキー (◀/▶) でレベルの強さを調節する。

設定値

-6.0dB〜+6.0dB (0.5dB 単位)

- 3 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

NOTE

- テストトーンを出力して実際の効果を確認しながら調整できます。テストトーンについては、「テストトーンを出力する」(91 ページ)をご覧ください。
- 設定値「PEQ」は YPAO の自動測定を行った場合のみ選択できます。YPAO の自動測定については、「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(42 ページ)をご覧ください。

テストトーンを出力する

実際の効果を確認しながらスピーカーの音量やイコライザーを調節する場合に、テストトーンを出力します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「テストトーン」

設定値

オフ	テストトーンを出力しない。
オン	テストトーンを出力する。

HDMI 設定

HDMI コントロールを設定する

HDMI コントロール対応のテレビや再生機器を、本機と連動させる場合に HDMI コントロールを設定します。

設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「HDMI コントロール」

設定値

オフ	HDMI コントロールを無効にする。
オン	HDMI コントロールを有効にする。 「TV 音声入力」、「スタンバイ連動」、「ARC」、「シーン連動」の設定が適用されます。

NOTE

設定値を「オン」に設定しただけでは、HDMI コントロールは機能しません。HDMI コントロール対応のテレビや再生機器を本機に接続後、連動設定が必要になります (136 ページ)。

HDMI の音声を TV スピーカーから出力するか設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オフ」を選択した場合に、音声を HDMI OUT 端子に接続したテレビのスピーカーから出力するか設定します。

設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「音声出力」

設定値

オフ	テレビから出力しない。
オン	テレビから出力する。

HDMI スタンバイスルーを設定する

本機がスタンバイ時に、HDMI 端子へ入力された音声/映像を HDMI OUT 端子に接続したテレビから出力するか設定します。

NOTE

スタンバイスルー動作中は、音声/映像を入力する HDMI 端子 (HDMI1~4) をリモコンで切り替えられます。切り替え時は、本体前面のスタンバイ表示が点滅します。

設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「スタンバイスルー」

設定値

オフ	(「HDMI コントロール」が「オフ」の場合) テレビに出力しない。
オン	テレビに出力する。「オフ」または「自動」設定時よりも電力を消費します。
自動	接続している機器の状態により、出力するか自動的に設定する。

HDMI 映像信号の 4K アップスケーリングを設定する

HDMI 端子へ入力された映像信号を 4K アップスケーリングするか設定します。「オン」を選択すると、1080p コンテンツを 4K 解像度で表示します。

設定メニュー

「HDMI 設定」 > 「4K アップスケーリング」

設定値

オフ	4K アップスケーリングしない。
オン	4K アップスケーリングする。

テレビからの音声を入力する端子を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。テレビ側の入力設定を内蔵チューナー（テレビ）に切り替えると、本機の音声入力が自動的にテレビ音声に切り替わります。

設定メニュー

「HDMI 設定」>「TV 音声入力」

設定値

AV1～3、AUDIO1～3

NOTE

ARC 使用時は、ここで選択した入力テレビ音声入力用として使用されます。

本機とテレビのスタンバイ連動を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるか設定します。

設定メニュー

「HDMI 設定」>「スタンバイ連動」

設定値

オフ	テレビと本機の電源スタンバイを連動させない。
オン	テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。
自動	本機がテレビ音声入力中または HDMI 信号入力中のみ、テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。

ARC を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、テレビの音声を本機に接続したスピーカーから出力するか設定します。

設定メニュー

「HDMI 設定」>「ARC」

設定値

オフ	ARC を無効にする。
オン	ARC を有効にする。

NOTE

通常は設定値を「オン」（初期値）から変更する必要はありません。本機が非対応の音声信号がテレビから入力されてノイズが発生する場合のみ、「オフ」に設定してください。この場合は、テレビ側のスピーカーをお使いください。

シーン連動を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、SCENE キーのシーン連動を設定します。シーン連動を使うと、シーン選択時に本機に接続した HDMI コントロール対応の外部機器が次のように連動します。

- テレビの電源「入」、入力の切り替え
- 再生機器の再生開始

設定メニュー

「HDMI 設定」>「シーン連動」

選択項目（SCENE キー）

BD/DVD、TV、NET、RADIO

オフ	選択した SCENE キーのシーン連動を無効にする。
オン	選択した SCENE キーのシーン連動を有効にする。

NOTE

- 機器の相性などにより、シーン連動が正しく機能しない場合があります。
- HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

シネマ DSP 3D モードを設定する

シネマ DSP 3D を設定します。「オン」にすると、選択している音場プログラム（2ch Stereo、7ch Stereo 以外）に応じてシネマ DSP 3D が機能します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「シネマ DSP 3D モード」

設定値

オフ	シネマ DSP 3D を無効にする。
オン	シネマ DSP 3D を有効にする。

センタースプレッドを設定する

サラウンドデコーダーで「**D**sur」を選択した場合に、2 チャンネルソース再生でセンターチャンネル音声を左右に振り分けるか設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「センタースプレッド」

設定値

オフ	センタースプレッドを無効にする。
オン	センタースプレッドを有効にする。 センターチャンネル音声は左右に振り分けられます。

NOTE

- センターからの音声を強く感じる場合は、「オン」に設定してください。
- サラウンドデコーダーについては、「拡張マルチチャンネルで再生する（サラウンドデコーダー）」（56 ページ）をご覧ください。

センター定位の強さ（広がり感）を調節する

サラウンドデコーダーで「Neo:6 Music」を選択した場合に、フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。値を大きくするとセンター定位が強まり広がり感が減少し、小さくするとセンター定位が弱まり広がり感が増加します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「センターイメージ」

設定値

0.0～1.0

NOTE

サラウンドデコーダーについては、「拡張マルチチャンネルで再生する（サラウンドデコーダー）」（56 ページ）をご覧ください。

リップシンクの調整方法を設定する

映像と音声の出力タイミングのずれを補正（リップシンク）する方法を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「リップシンク」>「自動/手動選択」

設定値

手動補正	映像と音声のずれを手動で調整する。 「調整」で入力した値が補正值として適用されます。
自動補正	映像と音声のずれを自動で調整する。（自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合のみ有効） 必要に応じて、「調整」で補正時間を微調整できます。

NOTE

オプションメニューの「リップシンク設定」(Lipsync) で、入力ごとに補正值を適応するか設定できます。オプションメニューの「リップシンク設定」(Lipsync) については、「リップシンク補正を使用するか設定する (Lipsync)」(79 ページ) をご覧ください。

リップシンクの補正值を調整する

映像と音声の出力タイミングのずれの補正值（リップシンク）を調整します。設定メニューの「自動/手動選択」で「自動補正」に設定したときは、自動補正された値をさらに微調整できます。

設定メニュー

「音声設定」>「リップシンク」>「調整」

設定値

0ms～500ms（1ms 単位）

セリフの音量を調整する

セリフが聴こえにくい場合に、中央に定位する音（セリフなど）の音量を調整します。

設定メニュー

「音声設定」>「ダイアログ」>「セリフ音量調整」

設定値

0～3（値が大きいほど強調）

NOTE

次の場合、設定は無効です。

- Dolby Atmos コンテンツ、DTS:X コンテンツを再生時
- Dolby Surround デコーダー、Neural:X デコーダーを選択時

DTS:X 再生時にセリフの音量を調整する

セリフが聴こえにくい場合に、中央に定位する音（セリフなど）の音量を調整します。

設定メニュー

「音声設定」>「ダイアログ」>「DTS ダイアログコントロール」

設定値

0～6（値が大きいほど強調）

NOTE

DTS ダイアログコントロール対応の DTS:X コンテンツを再生している場合のみ設定できます。

セリフの位置（高さ）を調整する

セリフの聴こえる位置（高さ）が不自然な場合に、中央に定位する音（セリフなど）の高さを調整します。

セリフがテレビ画面よりも低い位置から聴こえる場合は、設定値を大きくしてください。

NOTE

以下の、いずれかの場合のみ設定できます。

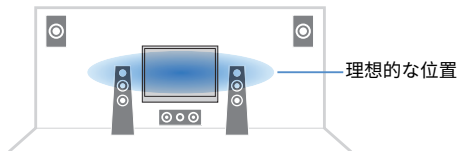
- プレゼンスピーカー使用時で、音場プログラム（2ch Stereo、7ch Stereo 以外）が選択されている。
- バーチャル・プレゼンス・スピーカー（VPS）が機能している。（この場合、視聴位置によってはサラウンドスピーカーからセリフが聴こえることがあります。）バーチャル・プレゼンス・スピーカーについては、「ヤマハテクノロジーに関する用語」（133 ページ）をご覧ください。

設定メニュー

「音声設定」>「ダイアログ」>「セリフ位置調整」

設定値

0～5（値が大きいほど高い）



音量表示の単位を設定する

音量表示の単位を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「音量」>「音量表示」

設定値

dB	dB（デシベル）単位で表示します。
0-97	数値（0.5～97.0）で表示します。

ダイナミックレンジの調節方法を設定する

Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「音量」>「ダイナミックレンジ」

設定値

最大	入力信号を補正せずに再生する。
標準	家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。
	夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジで再生する。
最小/自動	Dolby TrueHD 再生時は、入力信号の情報にもとづいて再生されます。

音量の上限を設定する

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。

設定メニュー

「音声設定」 > 「音量」 > 「音量の上限」

設定値

-30.0dB～+15.0dB (5.0dB 単位)、+16.5dB [50.0～95.0 (5.0 単位)、97.0]

電源を入れたときの音量を設定する

電源を入れたときの音量を設定します。

設定メニュー

「音声設定」 > 「音量」 > 「音量の初期値」

設定値

オフ	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
----	--------------------------

ミュート	消音を適用する。
------	----------

-80.0dB ～ +16.5dB

(0.5dB 単位) 指定した音量を適用する。

[0.5 ～ 97.0 (0.5 単位)] (「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効)

ゾーン A とゾーン B の音量を連動させる

ゾーン A の音量と連動してゾーン B の音量を調節するか設定します。

設定メニュー

「音声設定」 > 「音量」 > 「ゾーン B 音量」

設定値

同期	ゾーン A の音量と連動してゾーン B の音量を調節する。
----	-------------------------------

非同期	ゾーン A とゾーン B の音量を連動しない。
-----	-------------------------

NOTE

「非同期」を選択すると、ゾーン B の音量が一時的に-40dB に設定されます。必要に応じて、リモコンで音量を調節してください。ゾーン B の音量は個別に調節できます。詳しくは、「ゾーン B の音量を個別に調節する」(72 ページ)をご覧ください。

エコ設定

自動スタンバイまでの時間を設定する

本機の電源を自動的にスタンバイにするまでの時間を設定します。

設定メニュー

「エコ設定」＞「自動スタンバイ」

設定値

オフ	電源を自動的にスタンバイにしない。
20 分	本機を 20 分間操作しなかったとき、かつ本機が 20 分間入力信号を検知しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。
2 時間、4 時間、8 時間、12 時間	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。

NOTE

スタンバイになる直前、本体前面ディスプレイに「AutoPowerStdby」と、スタンバイに切り替わるまでの秒数が表示されます。

エコモードを設定する

消費電力を低減する場合にエコモードを設定します。「オン」に設定した場合は、ENTER キーを押して必ず本機を再起動してください。新しい設定は、再起動後に反映されます。

設定メニュー

「エコ設定」＞「エコモード」

設定値

オフ	エコモードを無効にする。
オン	エコモードを有効にする。

NOTE

- 「オン」に設定時は、本体前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。
- 大きな音量で再生する場合は「オフ」に設定してください。

ファンクション設定

前面ディスプレイに表示する入力名を自動設定する

本体前面ディスプレイに表示する入力の名称を自動名称変更機能で生成された名称から選択します。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「入力名変更」

対象の入力

HDMI1～4、AV1～3、AUDIO1～2

- 1 カーソルキー（△/▽）で名称を変更する入力を選ぶ。
- 2 カーソルキー（◀/▶）で「自動」を選ぶ。
接続機器に応じて、本機が自動的に名称を生成します。
- 3 別の入力の名称を変更するには、手順 1～2 を繰り返す。
- 4 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

NOTE

「自動」を選択時、機器の接続を外しても入力名は保持されます。初期値に戻すには、一度「手動」に切り替えてから「自動」に戻してください。

前面ディスプレイに表示する入力名を手動設定する

本体前面ディスプレイに表示する入力の名称を、手動で設定します。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「入力名変更」

対象の入力

HDMI1～4、AV1～3、AUX、AUDIO1～3、TUNER、MusicCast Link、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB

- 1 カーソルキー（△/▽）で名称を変更する入力を選ぶ。
- 2 カーソルキー（◀/▶）で「手動」を選び、ENTER キーを押す。
- 3 カーソルキーや ENTER キーを使って名称を編集し、「確定」を選び ENTER キーを押す。

NOTE

- 入力した内容を取り消すには、「取消」を選択します。
- 「リセット」を選択した場合は、入力の名称の初期値が表示されます。

- 4 別の入力の名称を変更するには、手順 1～3 を繰り返す。
- 5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

入力スキップを設定する

INPUT キーを操作したときにスキップする入力を設定します。使用しない入力をスキップすることで、目的の入力を素早く選べます。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「入力スキップ」

対象の入力

HDMI1～4、AV1～3、AUX、AUDIO1～3、TUNER、NET、Bluetooth、USB

設定値

オフ	スキップ設定しない。
オン	スキップ設定する。

前面ディスプレイの明るさを設定する

本体前面ディスプレイの明るさを調節します。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「明るさ」

設定値

-4～0（値が大きいほど明るい）

NOTE

本機をエコモードに設定すると、ここで設定した明るさよりも暗くなることがあります。エコモードについては、「エコモードを設定する」（98 ページ）をご覧ください。

設定を保護する

本機の設定を保護して、変更できないようにします。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「設定保護」

設定値

オフ	設定を保護しない。
オン	設定を保護する。「オフ」に戻すまで、設定変更が禁止されます。

NOTE

「オン」に設定時は、メニュー画面に設定保護（）アイコンが表示されます。

リモコンのカラーキーの機能を変更する

リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの機能を設定します。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「リモコンカラーキー」

設定値

初期値	HDMI で接続された再生機器の機能にしたがう。
入力	各キーに本機の入力を割り当てる。割り当てる入力は個別に設定できます。
	対象の入力 HDMI1～4、AV1～3、AUX、AUDIO1～3、TUNER、NET、Bluetooth、USB
プログラム	各キーにサウンド選択の機能を割り当てる。
	RED：MOVIE
	GREEN：MUSIC
	YELLOW：STEREO
	BLUE：SUR.DECODE

NOTE

たとえば RED キーを繰り返し押して、お好みの音場プログラムを MOVIE の中から選べます。詳しくは、「映像コンテンツに適した音場プログラムを選ぶ（MOVIE）」（53 ページ）をご覧ください。

ネットワーク設定

ネットワーク情報を確認する

本機のネットワーク情報を表示します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」 > 「ネットワーク情報」

ステータス	ネットワーク端子の接続状態
接続方法	ネットワークへの接続方法
SSID	本機が接続しているアクセスポイント
セキュリティ	ネットワークの暗号化方式
MusicCast ネットワーク	MusicCast ネットワークの準備状態
MAC アドレス (イーサネット)	本機の MAC アドレス
MAC アドレス (Wi-Fi)	
IP アドレス	本機の IP アドレス
サブネットマスク	サブネットマスク
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレス
DNS サーバー (P)	プライマリー DNS サーバーの IP アドレス
DNS サーバー (S)	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレス

ネットワークへの接続方法（有線/無線）を設定する

本機のネットワークへの接続方法を設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」 > 「ネットワーク接続」

設定値

有線	市販のネットワークケーブルを使って、本機をネットワークに接続する。
無線 (Wi-Fi)	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を経由して、本機をネットワークに接続する。
無線（携帯端末を直接接続）	モバイル機器を本機に直接接続する。

NOTE

- ネットワークへの接続方法については、「ネットワーク接続の方法を選ぶ」（46 ページ）をご覧ください。
- モバイル機器を本機に直接接続する場合は、「本機をアクセスポイントにする（ワイヤレスダイレクト）」（114 ページ）をご覧ください。

ネットワーク情報を自動設定する（DHCP 機能）

本機のネットワーク情報（IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなど）を、DHCP サーバーを使用して自動で設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」 > 「IP アドレス」 > 「DHCP」

設定値

オフ	DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する。
オン	DHCP サーバーを使用して、本機のネットワーク情報を自動で設定する。

ネットワーク情報を手動設定する

本機のネットワーク情報（IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなど）を手動で設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「IP アドレス」

- 1 「DHCP」で「オフ」を選ぶ。
- 2 カーソルキー（△/▽）で設定したい項目を選び、ENTER キーを押す。

IP アドレス	IP アドレスを設定する。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定する。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（P）	プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（S）	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。

- 3 カーソルキー（◀/▶）で変更したい位置を選び、カーソルキー（△/▽）で数値を変更する。
- 4 別の項目を設定するには、RETURN キーを押して、手順 2 と 3 を繰り返す。
- 5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

MAC アドレスフィルターを設定する

本機にアクセスできるネットワーク機器を、MAC アドレスにより制限する場合に MAC アドレスフィルターを設定します。

NOTE

- MAC アドレスフィルターを設定しても、AirPlay や DMC からの操作は制限されません。
- 本機へのアクセスを許可するネットワーク機器は最大 10 個まで指定できます。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「MAC アドレスフィルター」>「フィルター」

設定値

オフ	MAC アドレスフィルターを無効にする。
オン	MAC アドレスフィルターを有効にする。「MAC アドレス 1～10」で指定した MAC アドレスを持つネットワーク機器だけが本機にアクセスできるようになります。

オン設定時

- 1 カーソルキー（△/▽）で設定したい MAC アドレス番号（1～10）を選び、ENTER キーを押す。
- 2 カーソルキー（◀/▶）で変更したい位置を選び、カーソルキー（△/▽）で数値を変更する。
- 3 別の MAC アドレスを設定するには、RETURN キーを押して、手順 1 と 2 を繰り返す。

- 4 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

デジタルメディアコントローラーからの操作を設定する

Windows Media Player 12 などから本機を操作する場合に設定します。デジタルメディアコントローラー（DMC）とは、ネットワーク上で他の機器を制御できる機器のことです。この機能を有効にすると、本機と同じネットワーク上にある DMC から直接本機の再生を操作できます。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「DMC からの操作」

設定値

無効	DMC からの操作を無効にする。
有効	DMC からの操作を有効にする。

ネットワークスタンバイを設定する

ネットワーク機器から本機の電源を入れる場合に設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「ネットワークスタンバイ」

設定値

オフ	ネットワークスタンバイを無効にする。
オン	ネットワークスタンバイを有効にする。「オフ」に設定時よりも電力を消費します。
自動	ネットワークスタンバイを有効にする。（「ネットワーク接続」で「有線」が設定されている場合は、ネットワークケーブルが切断されると本機がパワーセーブモードに設定されます。）

NOTE

「オン」に設定時は、スタンバイ中でも USB 端子に給電されます。必要がない USB 機器は取り外してください。



本製品は、先進的な省電力設計によりネットワークスタンバイ時の消費電力 2W 以下を実現しています。

本機のネットワーク名を設定する

ネットワークに表示される本機の名称（ネットワーク名）を設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「ネットワーク名」

- 1 ENTER キーを押して編集画面を表示する。
- 2 カーソルキーと ENTER キーで名前を編集する。
- 3 カーソルキーで「確定」を選び、ENTER キーを押す。
- 4 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

本機と MusicCast 対応機器の電源連動を設定する

MusicCast を使用している場合、本機（親機）の電源を入れたときに MusicCast 対応機器（子機）も連動して電源を入れるか設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「MusicCast Link 電源連動」

設定値

オフ	本機と MusicCast 対応機器の電源を連動しない。
オン	本機と MusicCast 対応機器の電源を連動する。

ファームウェアを更新する

本機のファームウェアをネットワーク経由で更新します。また、現在のファームウェアバージョンやシステムIDを確認できます。

設定メニュー

「ネットワーク設定」 > 「ネットワークアップデート」

選択項目

アップデートの実行	ファームウェア更新を実行する。
ファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンを表示する。
システムID	本機のシステムIDを表示する。

Bluetooth

Bluetooth を設定する

Bluetooth 機能を使用する場合に設定します。

設定メニュー

「Bluetooth 設定」 > 「Bluetooth」

設定値

オフ	Bluetooth 機能を無効にする。
オン	Bluetooth 機能を有効にする。

Bluetooth スタンバイを設定する

Bluetooth 機器から本機の電源操作をする場合に設定します。「オン」にすると、Bluetooth 機器で接続操作が行われたとき、自動的に本機の電源が入ります。

設定メニュー

「Bluetooth 設定」 > 「音声受信」 > 「Bluetooth スタンバイ」

設定値

オフ	Bluetooth スタンバイ機能を無効にする。
オン	Bluetooth スタンバイ機能を有効にする。（「オフ」に設定した場合より多くの電力がかかります。）

NOTE

設定メニューの「ネットワークスタンバイ」で「オフ」を設定時は使用できません。設定メニューの「ネットワークスタンバイ」については、「ネットワークスタンバイを設定する」（103 ページ）をご覧ください。

言語設定

メニュー言語を設定する

テレビ画面に表示するメニュー（設定メニューなど）の言語を設定します。

設定メニュー

「言語設定」

設定値

English	英語
日本語	日本語
Français	フランス語
Deutsch	ドイツ語
Español	スペイン語
русский	ロシア語
Italiano	イタリア語
中文	中国語

NOTE

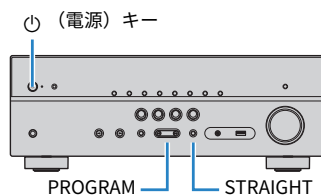
- 本体前面ディスプレイは常に英語で表示されます。
- 本体前面ディスプレイで表現できない文字は「_」表示に置き換わります。

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）

本体前面ディスプレイを使ったアドバンスドセットアップメニューの基本的な操作方法を説明します。

- 1 本機の電源が入っている場合は、電源をスタンバイにする。
- 2 本体の STRAIGHT キーを押しながら ㊦（電源）キーを押す。



アドバンスドセットアップメニューの先頭の設定項目とその設定値が、前面ディスプレイに表示されます。

- 3 PROGRAM キーで設定項目を選ぶ。
- 4 STRAIGHT キーで設定値を選ぶ。
- 5 ㊦（電源）キーで、電源をスタンバイにしてから再度電源を入れる。

これで設定は完了です。

NOTE

各メニューの初期値は「アドバンスドセットアップメニュー初期値一覧」（146 ページ）をご覧ください。

アドバンスドセットアップメニュー一覧

項目	説明	ページ
REMOTE ID	本体側のリモコン ID を変更します。	107
TV FORMAT	HDMI 映像出力のビデオ信号方式を切り替えます。	107
4K MODE	HDMI 4K 信号のフォーマットを設定します。	107
DTS MODE	本機と接続した BD プレーヤーに対して、本機が対応している DTS フォーマットの通知を設定します。	108
INIT	各種設定を初期化します。	108
UPDATE	ファームウェアを更新します。	108
VERSION	本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。	108

リモコン ID を設定する (REMOTE ID)

本体側のリモコン ID を、リモコン側のリモコン ID (初期値: ID1) と一致するように設定します。複数のヤマハ製 AV レシーバーをお使いの場合、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないようにしてください。

REMOTE ID •• ID1

アドバンスドセットアップメニュー

「REMOTE ID」

設定値

ID1、ID2

リモコン側のリモコン ID 設定

- リモコンを ID1 に設定するには、カーソルキー (◀) を押しながら SCENE (BD/DVD) キーを 3 秒間押し続けます。
- リモコンを ID2 に設定するには、カーソルキー (◀) を押しながら SCENE (TV) キーを 3 秒間押し続けます。

ビデオ信号方式を設定する (TV FORMAT)

お使いのテレビにあわせて、本機の HDMI OUT 端子から出力されるビデオ信号方式を設定します。本機はテレビにあったビデオ信号方式を自動的に選択して出力するため、通常は変更する必要はありません。テレビの映像が乱れる場合のみ変更してください。

TV FORMAT • NTSC

アドバンスドセットアップメニュー

「TV FORMAT」

設定値

NTSC、PAL

HDMI 4K 信号のフォーマットを設定する (4K MODE)

HDMI 4K 対応のテレビおよび再生機器を接続したときに、本機が入出力する信号のフォーマットを設定します。

4K MODE • MODE 1

アドバンスドセットアップメニュー

「4K MODE」

設定値

	下表に記載の 4K 信号を入出力する。
MODE 1	接続機器や HDMI ケーブルによっては、映像が乱れる場合があります。その場合は、「MODE 2」に設定してください。
MODE 2	下表に記載の 4K 信号を入出力する。

NOTE

「MODE 1」に設定した場合は、Premium HDMI ケーブルまたはイーサネット対応 Premium HDMI ケーブルをご使用ください。

フォーマット

		MODE 1			MODE 2		
		8 bit	10 bit	12 bit	8 bit	10 bit	12 bit
4K/60, 50 Hz	RGB 4:4:4	✓	–		–		
	YCbCr 4:4:4	✓	–		–		
	YCbCr 4:2:2	✓			–		
	YCbCr 4:2:0	✓			✓	–	
4K/30, 25, 24 Hz	RGB 4:4:4	✓			✓	–	
	YCbCr 4:4:4	✓			✓	–	
	YCbCr 4:2:2	✓			✓		

DTS フォーマットの通知設定 (DTS MODE)

HDMI 接続した BD プレーヤーに対して、本機が対応する DTS フォーマットの通知を設定します。

DTS MODE・MODE1

アドバンスドセットアップメニュー

「DTS MODE」

設定値

MODE 1	DTS:X 規格に準拠した通知に設定する。通常は、この設定で使ってください。
MODE 2	BD プレーヤーで DTS-HD、DTS:X コンテンツを再生しているにもかかわらず、DTS 信号が正しく出力されない場合に設定する。

設定を初期化する (INIT)

本機の各種設定を初期化します。

INIT・・・・CANCEL

アドバンスドセットアップメニュー

「INIT」

選択項目

ALL	すべての設定を初期化する。
CANCEL	初期化しない。

ファームウェアを更新する (UPDATE)

本機のファームウェアを更新します。

本機への機能追加や不具合の改善に応じて、ファームウェアは更新されることがあります。最新のファームウェアは弊社ウェブサイトからダウンロードできます。詳しくは、ファームウェア更新時に提供される情報をご確認ください。

UPDATE・・・・USB

アドバンスドセットアップメニュー

「UPDATE」

選択項目

USB	USB メモリーを使ってファームウェアを更新する。
NETWORK	ネットワーク経由でファームウェアを更新する。

NOTE

ファームウェア更新時以外は実行しないでください。また実行前には、更新時に提供される情報を必ずご確認ください。

ファームウェアバージョンを確認する (VERSION)

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

VERSION・・・・XX.XX

アドバンスドセットアップメニュー

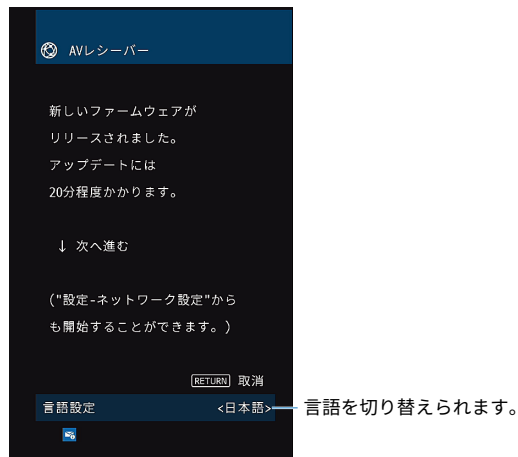
「VERSION」

付録

ファームウェアを更新する

ネットワーク経由で直接ファームウェアを更新する

本機のファームウェアをネットワーク経由で更新します。機能の追加や不具合の改善に応じて、本機用の新しいファームウェアが提供されることがあります。本機がインターネットに接続されている場合は、新しいファームウェアが提供されると、SETUP キーを押したあとに以下のメッセージが表示されます。ネットワーク経由で本機の最新ファームウェアを直接ダウンロードして更新できます。



注記

- ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードやネットワークケーブルを抜いたりしないでください。万一、中断したときは本機が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。

NOTE

- 本機がインターネットに接続されている場合は、新しいファームウェアが提供されると、本体前面ディスプレイのファームウェア更新表示が点灯します。
- ファームウェア更新の所要時間は約 20 分です（インターネット回線の速度により異なります）。
- インターネット回線の速度が十分に得られない場合や、無線ネットワークに接続している場合など、接続状態によってはファームウェアの更新に失敗することがあります。そのような場合は、時間をおいてアップデートをお試しいただくか、USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください。USB メモリーを使ったファームウェアの更新については、「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(108 ページ) をご覧ください。
- ファームウェアに関する詳細は、弊社ウェブサイトをご覧ください。
- ここで説明する方法でファームウェアを更新する際は、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

ネットワーク経由でファームウェアをすぐ更新する

SETUP キーを押したあとに表示されるメッセージ画面を見ながら、すぐにファームウェアを更新します。

- 1** 画面の説明を読み、カーソルキー（▽）を押す。
次の画面が表示されます。
- 2** ENTER キーを押して、ファームウェアのアップデートを開始する。
画面表示がオフになります。
- 3** 本体前面ディスプレイに「UPDATE SUCCESS PLEASE POWER OFF!」と表示されたら、本体の **⏻**（電源）キーを押す。

これでファームウェアの更新は完了です。

電源オフ時にネットワーク経由でファームウェアを更新する

SETUP キーを押したあとに表示されるメッセージ画面でファームウェアの更新を予約しておき、本機の電源を切る際に更新を実行します。

1 画面の説明を読み、カーソルキー（▽）を押す。

次の画面が表示されます。

2 画面の説明を読み、カーソルキー（▽）を押す。

次の画面が表示されます。

3 ENTER キーを押して、電源オフ時のファームウェア更新を予約する。

設定メニューのトップ画面が表示されます。引き続き、コンテンツの再生などをお楽しみください。

4 本体の （電源）キーを押す。

ファームウェア更新の予約があると、更新実施確認画面が表示されます。



5 ENTER キーを押して、ファームウェアのアップデートを開始する。

更新が完了すると、自動的に電源が切れます。

NOTE

- 本体前面の INFO キーを押しても、予約したファームウェアのアップデートを開始できません。
- 更新実施確認画面が表示されてから 2 分間経過すると、更新せずに電源が切れます。
- RETURN キーを押すと更新はキャンセルされ、すぐに電源が切れます。
- AV CONTROLLER や MusicCast CONTROLLER により本機の電源を切ると、更新せずに電源が切れます。

無線接続する

アクセスポイントの一覧から無線接続する

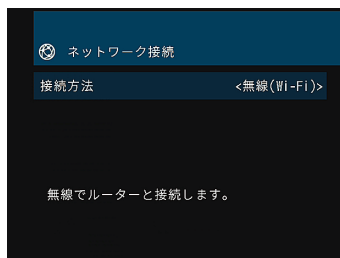
本機が検索した無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の一覧から接続先を選択して、無線接続を設定します。

セキュリティキーを手動で設定する必要があります。

NOTE

テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

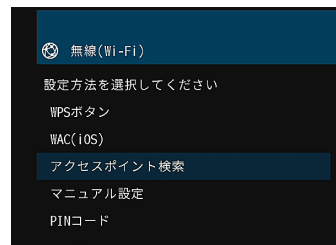
- 1 ㊦（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。
- 3 SETUP キーを押す。
- 4 カーソルキー（△/▽）で「ネットワーク設定」を選び、ENTER キーを押す。
- 5 カーソルキー（△/▽）で「ネットワーク接続」を選び、ENTER キーを押す。
- 6 カーソルキー（◀/▶）で「無線（Wi-Fi）」を選び、ENTER キーを押す。



NOTE

以前に接続したことがあるアクセスポイントに自動的に接続する場合があります。その場合、接続成功のメッセージが表示されますが、そのまま操作を続けてください。

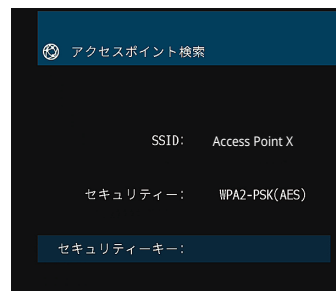
- 7 カーソルキー（△/▽）で「アクセスポイント検索」を選び、ENTER キーを押す。



アクセスポイントの検索が始まります。しばらくすると、テレビ画面に利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されます。

- 8 カーソルキー（△/▽）で接続したいアクセスポイントを選び、ENTER キーを押す。

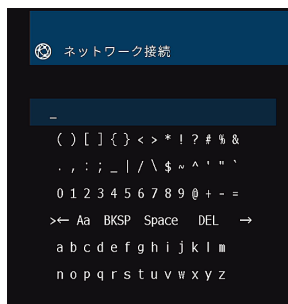
テレビに無線接続の設定画面が表示されます。



- 9 ENTER キーを押す。

編集画面が表示されます。

10 カーソルキーと ENTER キーでセキュリティキーを入力する。



各ボタンの機能

[←]/[→]: カーソルを左右に移動させる。

[Aa]: 大文字/小文字を切り替える。

[BKSP]: カーソル左の文字を削除する。

[Space]: スペースを入力する。

[DEL]: カーソル上の文字を削除する。

11 入力が終わったらカーソルキー（△/▽）で「確定」を選び、ENTER キーを押す。

テレビは1つ前の、無線接続の設定画面に戻ります。

12 カーソルキー（△/▽）で「接続」を選び、ENTER キーを押す。

本機は選択したアクセスポイントへの接続を開始します。接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。
「接続できませんでした」と表示された場合は、手順8からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

13 SETUP キーを押す。

これで無線接続は完了です。

手動で無線接続する

SSID など、必要な情報を手動で入力して、無線接続を設定します。SSID（ネットワーク名）や暗号化方式、セキュリティキーを手動で設定する必要があります。

NOTE

テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

はじめに「アクセスポイントの一覧から無線接続する」（111 ページ）の手順1から手順6を実行してください。

1 カーソルキー（△/▽）で「マニュアル設定」を選び、ENTER キーを押す。

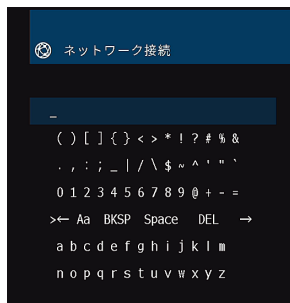
テレビに無線接続の設定画面が表示されます。



2 カーソルキー（△/▽）で「SSID」を選び、ENTER キーを押す。

編集画面が表示されます。

- 3** カーソルキーと ENTER キーで無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の SSID を入力する。



- 4** 入力が終わったらカーソルキー（△/▽）で「確定」を選び、ENTER キーを押す。

テレビは 1 つ前の、無線接続の設定画面に戻ります。

- 5** カーソルキー（△/▽）で「セキュリティー」を選び、カーソルキー（◀/▶）で暗号化方式を選ぶ。

選択項目

なし、WEP、WPA-PSK（AES）、Mixed Mode

NOTE

「なし」を選ぶと、通信が暗号化されないため、セキュリティー上のリスクがあります。

- 6** カーソルキー（△/▽）で「セキュリティーキー」を選び、ENTER キーを押す。

編集画面が表示されます。

NOTE

手順 5 で「なし」を選んだ場合は、セキュリティーキーは設定できません。

- 7** カーソルキーと ENTER キーでセキュリティーキーを入力する。

- 8** 入力が終わったらカーソルキー（△/▽）で「確定」を選び、ENTER キーを押す。

テレビは 1 つ前の、無線接続の設定画面に戻ります。

- 9** カーソルキー（△/▽）で「接続」を選び、ENTER キーを押す。

本機は設定したアクセスポイントへの接続を開始します。接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 2 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

- 10** SETUP キーを押す。

これで無線接続は完了です。

PIN コード式の WPS で無線接続する

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に PIN コードを入力して、無線接続を設定します。無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が PIN コード式の WPS に対応している場合に利用できます。

NOTE

テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

はじめに「アクセスポイントの一覧から無線接続する」（111 ページ）の手順 1 から手順 6 を実行してください。

1 カーソルキー（△/▽）で「PIN コード」を選び、ENTER キーを押す。

テレビ画面に利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されます。

2 カーソルキー（△/▽）で接続したいアクセスポイントを選び、ENTER キーを押す。

本機の PIN コードがテレビ画面に表示されます。

3 本機の PIN コードを無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に設定する。

設定方法については無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の取扱説明書をご覧ください。

4 ENTER キーを押す。

本機は設定したアクセスポイントへの接続を開始します。接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。
「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 2 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

5 SETUP キーを押す。

これで無線接続は完了です。

無線 LAN ルーターを使わずに無線接続する

本機をアクセスポイントにする（ワイヤレスダイレクト）

モバイル機器を本機に直接、無線接続します。本機はアクセスポイントとして動作します。

NOTE

- 有線ネットワーク接続や無線ネットワーク接続と同時に使用することはできません。
- ワイヤレスダイレクト使用時はインターネットに接続できません。したがってインターネットラジオなどのインターネットサービスは使用できません。
- モバイル機器もインターネット接続できなくなりますので、ご使用後は本機との接続を解除することをおすすめします。
- ワイヤレスダイレクトでは、セキュリティ上のリスクがあります。第三者が無断で接続した無線機器から操作をした場合、本機が動作する可能性があります。
- テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

1 ㊦（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。

3 SETUP キーを押す。

4 カーソルキー（△/▽）で「ネットワーク設定」を選び、ENTER キーを押す。

5 カーソルキー（△/▽）で「ネットワーク接続」を選び、ENTER キーを押す。

6 カーソルキー（◀/▶）で「無線（携帯端末を直接接続）」を選び、ENTER キーを押す。

7 カーソルキー（△/▽）で「セキュリティ」を選び、カーソルキー（◀/▶）で暗号化方式を選ぶ。

選択項目

なし、WPA2-PSK（AES）

NOTE

「なし」を選ぶと、通信が暗号化されないため、セキュリティ上のリスクがあります。

8 カーソルキー（△/▽）で「セキュリティキー」を選び、ENTER キーを押す。

編集画面が表示されます。

NOTE

手順 7 で「なし」を選んだ場合は、セキュリティキーは設定できません。

9 カーソルキーと ENTER キーでセキュリティキーを入力する。

8～63 文字の文字列、または 64 桁の 16 進数を入力してください。

10 入力が終わったらカーソルキー（△/▽）で「確定」を選び、ENTER キーを押す。

テレビは 1 つ前の画面に戻ります。

NOTE

次の手順に進む前に、以下の情報をメモしておいてください。これらの情報はモバイル機器の Wi-Fi 設定を行うときに必要です。

- テレビ画面に表示されている SSID
- 入力したセキュリティキー

11 設定を保存するには、カーソルキー（△/▽）で「保存」を選び、ENTER キーを押す。

設定が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

これにより本機はアクセスポイントとして動作します。

次に、モバイル機器の Wi-Fi 設定を行います。

12 モバイル機器の Wi-Fi 設定を行う。

設定方法についてはモバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

- モバイル機器の Wi-Fi 機能を有効にする。
- アクセスポイントの一覧が表示されたら、手順 10 で確認した SSID を選ぶ。
- パスワードの入力を求められたら、手順 10 で確認したセキュリティキーを入力する。

13 SETUP キーを押す。

これでワイヤレスダイレクトの設定は完了です。

こんな場合の解決方法

別のスピーカーに交換したら、音のバランスが以前より悪くなった

- スピーカーを交換した場合やスピーカーシステムを変更した場合は、YPAO（自動測定）を実行してスピーカー設定を再調整してください。詳しくは「スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）」（42 ページ）をご覧ください。手動でスピーカー設定を調整する場合は、設定メニューの「スピーカー設定」をご利用ください。

音量が大きくならないようにしたい

- 誤って本体やリモコンを操作して突然音量が大きくなると、事故や故障につながる恐れがあります。
設定メニューの「音量の上限」で、調節可能な音量の上限値をあらかじめ設定してください。詳しくは「音量の上限を設定する」（97 ページ）をご覧ください。

電源を入れた時の音量を一定にしたい

- 初期状態では、電源をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときにそのまま適用されます。
音量を一定にしたい場合は、設定メニューの「音量の初期値」で、電源を入れたときの音量を設定してください。詳しくは「電源を入れたときの音量を設定する」（97 ページ）をご覧ください。

入力によって音量が違う

- 入力ごとの音量差を補正できます。
オプションメニューの「入力レベル補正」（In.Trim）をご利用ください。詳しくは「入力間の音量差を調整する（In.Trim）」（79 ページ）をご覧ください。

HDMI コントロールが機能しない

- HDMI コントロールを使うには、HDMI コントロール対応機器どうしの連動設定が必要になります。
HDMI コントロール対応機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）を本機に接続後、各機器の HDMI コントロール設定を有効にしてから、連動設定を行ってください。詳しくは「HDMI コントロールと連動機能」（136 ページ）をご覧ください。
この設定は HDMI コントロール対応機器を追加するたびに必要です。
HDMI コントロールを使ってテレビと再生機器間で操作できる機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

入力名を変更したい

- 初期状態では、入力名（HDMI1、AV1 など）が前面ディスプレイに表示されます。
ほかの名称に変更したい場合は、設定メニューの「入力名変更」で表示名を設定してください。詳しくは「前面ディスプレイに表示する入力名を手動設定する」（99 ページ）をご覧ください。

設定変更を禁止したい

- スピーカー設定など、本機の各種設定の変更を禁止できます。
設定メニューの「設定保護」を「オン」に設定してください。詳しくは「設定を保護する」（100 ページ）をご覧ください。

本機のリモコンを操作すると、別のヤマハ製機器が同時に動いてしまう

- 複数のヤマハ製機器をお使いの場合、本機のリモコンを操作すると別の機器が同時に動いたり、ほかのリモコンを操作すると本機が動いたりすることがあります。
それぞれのリモコンで各機器を操作するために、リモコン ID が重ならないように設定してください。詳しくは「リモコン ID を設定する (REMOTE ID)」(107 ページ) をご覧ください。

本機の電源がスタンバイのときも、テレビでビデオ機器の映像/音声を楽しみたい

- 本機の電源がスタンバイのときに、本機に接続されたビデオ機器 (HDMI 接続の機器のみ) の映像/音声をテレビで楽しめます。
設定メニューの「スタンバイスルー」を「オン」に設定してください。詳しくは「HDMI スタンバイスルーを設定する」(92 ページ) をご覧ください。
本機のリモコンでも、入力切り替えができます。

本機の入力端子 (映像/音声) の組み合わせが外部機器と合わない

- 本機の入力端子の組み合わせを、外部機器の出力端子にあわせて変更できません。
オプションメニューの「音声入力」(Audio In) をご利用ください。詳しくは「映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を選択する (Audio In)」(80 ページ) をご覧ください。

テレビの映像とスピーカーの音声がずれている

- 映像と音声の出力タイミングを調整できます。
設定メニューの「リップシンク」をご利用ください。詳しくは「リップシンクの調整方法を設定する」(95 ページ) をご覧ください。

テレビのスピーカーから音声を出力したい

- 本機に入力された音声の出力先を設定できます。
設定メニューの「音声出力」をご利用ください。詳しくは「HDMI の音声を TV スピーカーから出力するか設定する」(92 ページ) をご覧ください。

ファームウェアを更新したい

- 本機のファームウェアを更新します。
アドバンスドセットアップメニューの「UPDATE」をご利用ください。詳しくは「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(108 ページ) をご覧ください。
設定メニューの「ネットワークアップデート」もご利用できます。詳しくは「ファームウェアを更新する」(104 ページ) をご覧ください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら最初にご確認ください

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、最初に以下をご確認ください。

- 本機、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。
- 本機、サブウーファー、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源が入っている。
- 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源や配線に問題がない場合は、以下をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または以下のトラブル以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

電源/システム/リモコンのトラブル

■ 電源が入らない

- 保護回路が 3 回続けて作動した（電源を入れようとすると、本体前面のスタンバイ表示が点滅する）。
製品保護のために電源が入らなくなっています。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。

■ 電源が切れない

- 外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。
本体の （電源）キーを 15 秒以上押して本機を再起動してください。
問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。

■ 電源がすぐに切れてしまう

- スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れようとしている。
各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。詳しくは「スピーカーケーブルの加工・接続時のご注意」（27 ページ）をご覧ください。

■ 電源が自動的にスタンバイに切り替わる

- スリープタイマーが作動した。
もう一度電源を入れて、再生を始めてください。
- 操作がない状態で一定時間が経過したため、自動スタンバイ機能が作動した。
自動スタンバイ機能を無効にするには、設定メニューの「自動スタンバイ」を「オフ」に設定してください。詳しくは「自動スタンバイまでの時間を設定する」（98 ページ）をご覧ください。
- スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。
各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。詳しくは「スピーカーケーブルの加工・接続時のご注意」（27 ページ）をご覧ください。
- 音量を上げすぎたため、保護回路が作動した。
音量を下げてください。設定メニューの「エコモード」が「オン」の場合は、「オフ」に設定してください。詳しくは「エコモードを設定する」（98 ページ）をご覧ください。

■ 本機が操作を受け付けない

- 外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。
本体の **⏻**（電源）キーを 15 秒以上押して本機を再起動してください。
問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。

■ リモコンで本機を操作できない

- 操作範囲から外れている。
操作範囲内で操作してください。詳しくは「リモコンの操作範囲」（15 ページ）をご覧ください。
- 乾電池が消耗している。
新しい乾電池に交換してください。
- 本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。
照明または本体の向きを変えてください。
- 本体とリモコンの ID が一致していない。
本体側またはリモコン側のリモコン ID を変更してください。詳しくは「リモコン ID を設定する（REMOTE ID）」（107 ページ）をご覧ください。
- リモコンの操作対象がゾーン B になっている。
リモコンの ZONE スイッチを ZONE A に切り替えてください。詳しくは「リモコンの名称と機能」（25 ページ）をご覧ください。

■ INPUT キーを押しても目的の入力を選択できない

- 入力をスキップする設定がされている。
設定メニューの「入力スキップ」で対象の入力を「オフ」に設定してください。詳しくは「入力スキップを設定する」（100 ページ）をご覧ください。

■ リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーが動かない

- HDMI 接続した機器が RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの操作に対応していない。
RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの操作に対応した機器をご使用ください。
- RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの設定を変更している。
設定メニューの「リモコンカラーキー」を「初期値」に設定してください。詳しくは「リモコンのカラーキーの機能を変更する」（100 ページ）をご覧ください。

音声のトラブル

■ 音が出ない

- 別の入力を選択されている。
入力選択キーで正しい入力を選んでください。
- 本機で再生できない信号が入力されている。
一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。入力信号の音声フォーマットは、オプションメニューの「信号情報」（Signal Info.）で確認できます。詳しくは「映像/音声信号情報を確認する（Signal Info.）」（79 ページ）をご覧ください。
- ゾーン A（またはゾーン B）への音声出力が無効になっている。
ZONE スイッチを ZONE A（ZONE B）に切り替えて、ゾーン A（ゾーン B）への音声出力を有効にしてください。詳しくは「ゾーン B の再生を操作する」（71 ページ）をご覧ください。
- 本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。
接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

■ 音量が上がらない

- 音量の上限値が低く設定されている。
設定メニューの「音量の上限」で上限値を調節してください。詳しくは「音量の上限を設定する」(97 ページ)をご覧ください。
- 本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。
該当機器すべての電源を入れてください。

■ 特定のスピーカーから音が出ない

- 再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。
オプションメニューの「信号情報」(Signal Info.)にある「チャンネル」(CHANNEL)で、入力信号のチャンネル数を確認できます。詳しくは「映像/音声信号情報を確認する」(Signal Info.)」(79 ページ)をご覧ください。
- 該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。
設定メニューの「テストトーン」で、スピーカーから音声が出力されるか確認できます。詳しくは「テストトーンを出力する」(91 ページ)をご覧ください。
- 該当スピーカーの音声出力が無効になっている。
YPAO を実行するか、設定メニューの「構成」で該当スピーカーのサイズまたは有無を設定してください。詳しくは以下をご覧ください。
 - 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(42 ページ)
 - 「サブウーファーの有無を設定する」(86 ページ)
 - 「フロントスピーカーのサイズを設定する」(86 ページ)
 - 「センタースピーカーの有無やサイズを設定する」(87 ページ)
 - 「サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する」(87 ページ)
 - 「サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを設定する」(88 ページ)
 - 「プレゼンススピーカーの有無やサイズを設定する」(88 ページ)

- 該当スピーカーの音量が極端に小さい。
YPAO を実行するか、設定メニューの「音量」で該当スピーカーの音量を調節してください。詳しくは以下をご覧ください。
 - 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(42 ページ)
 - 「スピーカーの音量を個別に調整する」(91 ページ)
- ゾーン A (またはゾーン B) への音声出力が無効になっている。
ZONE スイッチを ZONE A (ZONE B) に切り替えて、ゾーン A (ゾーン B) への音声出力を有効にしてください。詳しくは「ゾーン B の再生を操作する」(71 ページ)をご覧ください。
- 本機と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。
接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
- 該当スピーカーが故障している。
正常に機能している別のスピーカーと交換すると確認できます。それでも音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。

■ サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- 設定メニューの「パワーアンプ割り当て」が「サラウンドバック」に設定されていない。
設定メニューの「パワーアンプ割り当て」が「サラウンドバック」以外に設定されている場合、サラウンドバックスピーカーは使用できません。サラウンドバックスピーカーを使用する場合は、設定を「サラウンドバック」に変更してください。詳しくは「スピーカーシステムの構成を設定する」(86 ページ)をご覧ください。

■ サブウーファーから音が出ない

- 再生ソースに LFE や低音信号が含まれていない。
確認するには、設定メニューの「エクストラベース」を「オン」に設定して、フロントチャンネルの低音域をサブウーファーから出力してください。詳しくは「エクストラベースを設定する」(90 ページ)をご覧ください。
- サブウーファーの出力が無効になっている。
YPAO を実行するか、設定メニューの「サブウーファー」を「使用する」に設定してください。詳しくは以下をご覧ください。
 - 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(42 ページ)
 - 「サブウーファーの有無を設定する」(86 ページ)
- サブウーファーの音量が極端に小さい。
サブウーファーの音量を調節してください。
- サブウーファーのオートスタンバイ（自動的に電源を切る機能）が作動した。
サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。

■ HDMI で接続した再生機器の音が出ない

- テレビが著作権保護 (HDCP) に対応していない。
テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
- HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。
使用していない HDMI 機器を取り外してください。

■ HDMI コントロール使用時に、テレビの音声为本機から出ない

- テレビ側で、テレビのスピーカーから音声を出力するように設定されている。
テレビ音声为本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
- ARC に対応していないテレビを HDMI ケーブルのみで接続している。
光ケーブルで接続してください。
- 音声ケーブルで本機とテレビを接続している場合に、「TV 音声入力」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。
設定メニューの「TV 音声入力」で正しい音声入力端子を選んでください。詳しくは「テレビからの音声を入力する端子を設定する」(93 ページ)をご覧ください。
- ARC を使ってテレビ音声を入力する場合に、本機またはテレビの ARC が無効になっている。
設定メニューの「ARC」を「オン」に設定してください。詳しくは「ARC を設定する」(93 ページ)をご覧ください。
また、テレビ側で ARC を有効にしてください。

■ DSD 音声 (SACD プレーヤーなど) を再生してもテレビから音が出ない

- DSD 音声の再生中は、その音声をテレビに出力しない仕様です。
PCM で出力するように再生機器を設定してください。

■ マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない

- 音場プログラムとして「2ch Stereo」を選択している。
「2ch Stereo」以外の音場プログラムを選択してください。詳しくは「ステレオ再生に適した音場プログラムを選ぶ（STEREO）」（55 ページ）をご覧ください。

■ 雑音が入る

- デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。
本機と該当機器の距離を離してください。
- 本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。
接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

■ 音がひずむ

- 本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。
該当機器すべての電源を入れてください。
- 音量が大きすぎる。
音量を下げてください。
また、設定メニューの「エコモード」が「オン」に設定されている場合は、「オフ」に設定してください。詳しくは「エコモードを設定する」（98 ページ）をご覧ください。

映像のトラブル

■ 映像が出ない

- 本機で別の入力を選択されている。
入力選択キーで入力（ビデオ機器）を選んでください。
- テレビで別の入力を選択されている。
テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。
- テレビが非対応の映像信号を出力している。
再生機器の映像出力が適切に設定されているか確認してください。
- 本機、テレビ、ビデオ機器を接続しているケーブルが破損している。
接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

■ HDMI で接続したビデオ機器の映像が出ない

- 本機が非対応の映像信号（解像度）を入力している。
入力中の映像信号（解像度）は、オプションメニューの「信号情報」（Signal Info.）で確認できます。詳しくは「映像/音声信号情報を確認する（Signal Info.）」（79 ページ）をご覧ください。本機が対応している映像信号については、「対応している HDMI 信号」（138 ページ）をご覧ください。
- テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。
テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
- HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。
使用していない HDMI 機器を取り外してください。

■ HDMI 接続した再生機器からの映像（HDCP2.2 対応機器が必要なコンテンツ）が表示されない

- テレビ（HDMI 入力端子）が HDCP2.2 に対応していない。
HDCP2.2 対応のテレビ（HDMI 入力端子）に接続してください（テレビ画面に注意メッセージが表示される場合があります）。

■ 本機のメニューがテレビに表示されない

- 本機とテレビが HDMI ケーブルで接続されていない。
本機のメニューをテレビに表示するには、本機とテレビを HDMI で接続する必要があります。必要に応じて、テレビと本機を HDMI ケーブルで接続してください。詳しくは「テレビを HDMI 接続する」(35 ページ)をご覧ください。
- テレビで別の入力を選択されている。
テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替えてください。

FM/AM ラジオのトラブル

■ FM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る

- マルチパス (多重反射) などの妨害電波を受けている。
FM アンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。
- ラジオ局から離れた地域で受信している。
オプションメニューの「FM モード」を「モノラル」に設定して、モノラル受信に切り替えてください。詳しくは「FM ラジオの受信方法 (ステレオ/モノラル) を設定する (FM Mode)」(81 ページ) をご覧ください。
また、市販の屋外アンテナを使用してください。

■ AM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る

- 蛍光灯、モーターなどの雑音を拾っている。
環境により雑音を完全に除去するのは困難です。ただし、市販の屋外アンテナを使うと雑音を低減できることがあります。

■ FM/AM ラジオの自動選局ができない

- FM ラジオ局から離れた地域で受信している。
手動で選局してください。詳しくは「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」(58 ページ) をご覧ください。
また、市販の屋外アンテナを使用してください。
- AM ラジオの電波が弱い。
AM アンテナの方向を変えてください。
手動で選局してください。詳しくは「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」(58 ページ) をご覧ください。
また、市販の屋外アンテナを使用してください。ANTENNA (AM) 端子に付属の AM アンテナと一緒に接続してください。

■ AM ラジオ局を登録 (プリセット) できない

- 自動登録 (オートプリセット) を使用した。
オートプリセットは FM ラジオ局のみが対象です。AM ラジオ局は手動で登録してください。詳しくは「ラジオ局を手動でプリセット登録する」(60 ページ) をご覧ください。

USB のトラブル

■ USB 機器が認識されない

- USB 機器が USB 端子に正しく接続されていない。
本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。
- FAT16/32 フォーマット以外の USB 機器を使用している。
FAT16/32 フォーマットの USB 機器を使用してください。

■ USB 機器のフォルダーやファイルが表示されない

- 暗号化機能により USB 機器内のデータが保護されている。

暗号化機能のない USB 機器を使用してください。

■ USB 機器のファイルを連続して再生できない。

- 選択したフォルダーに、本機で再生できないファイルが含まれている。

再生するフォルダーには、本機で再生できないファイルを入れないでください。

ネットワークのトラブル

■ ネットワーク機能を使用できない

- ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていない。

ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の設定メニューで「DHCP」を「オン」に設定してください。詳しくは「ネットワーク情報を自動設定する（DHCP 機能）」（101 ページ）をご覧ください。

DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する場合は、本機の IP アドレスが他のネットワーク機器と重複しないようにしてください。詳しくは「ネットワーク情報を手動設定する」（102 ページ）をご覧ください。

■ 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）経由でインターネットに接続できない

- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の電源が切れている。
無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の電源を入れてください。
- 本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の距離が離れすぎている。
本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を近づけてください。
- 本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の間に障害物がある。
本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の間に障害物がない場所に設置してください。
- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が 14 チャンネルを使用する設定になっている。
1～13 チャンネルのいずれかを使用するよう、無線 LAN ルーターの設定を変更してください。

■ 無線ネットワークが見つからない

- 電子レンジや別の無線機器からの電磁波により、無線通信が妨害されている。
それらの機器の電源を切るか、本機や無線 LAN ルーターから遠ざけてください。
- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。
無線 LAN ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定をご確認ください。

■ メディアサーバー（パソコン/NAS）が検出されない

- メディアサーバーの共有設定が正しくない。
本機がメディアサーバーのフォルダーにアクセスできるように、メディアの共有設定を変更してください。詳しくは「Windows Media Player でメディアの共有設定を行う」（66 ページ）または「Windows Media Player 以外でメディアの共有設定を行う」（66 ページ）をご覧ください。
- セキュリティソフトなどの設定により、メディアサーバーへのアクセスが制限されている。
メディアサーバーまたはルーターのセキュリティソフトの設定をご確認ください。
- 本機とメディアサーバーが同じネットワークに接続されていない。
ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、本機とメディアサーバーを同じネットワークに接続してください。
- MAC アドレスフィルターが有効になっている。
設定メニューの「MAC アドレスフィルター」で、MAC アドレスフィルターを無効にするか、使用するメディアサーバーの MAC アドレスを指定してください。詳しくは「MAC アドレスフィルターを設定する」（102 ページ）をご覧ください。

■ メディアサーバー（パソコン/NAS）のファイルが表示（再生）されない

- 本機またはメディアサーバーが非対応のファイル形式を使用している。
本機およびメディアサーバーが対応しているファイル形式を使用してください。本機が対応している音楽ファイルについては、「対応しているファイルフォーマット」（135 ページ）をご覧ください。

■ インターネットラジオを再生できない

- 選択したラジオ局のサービスが現在停止している。
ラジオ局側のネットワークエラーにより受信できない場合や、サービスを休止している場合があります。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。
- 選択したインターネットラジオ局が無音を放送している。
時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合は受信できていても音はでません。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。
- ルーターなどネットワーク機器のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。
ファイアウォールの設定をご確認ください。なお、インターネットラジオは各ラジオ局指定のポート経由でのみ再生できます。ポート番号はラジオ局により異なります。

■ AirPlay 使用時に、iPhone で本機が検出されない。

- マルチ SSID 対応ルーターを使用している。
無線 LAN ルーターのネットワーク分離機能により、本機へのアクセスができなくなっている可能性があります。iPhone を接続する際は、本機へのアクセスが可能な SSID をお使いください（プライマリ SSID への接続をお試しください）。

■ モバイル機器の専用アプリケーションで本機が検出されない

- 本機とモバイル機器が同じネットワークに接続されていない。
ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。
- MAC アドレスフィルターが有効になっている。
設定メニューの「MAC アドレスフィルター」で、MAC アドレスフィルターを無効にするか、使用するモバイル機器の MAC アドレスを指定してください。詳しくは「MAC アドレスフィルターを設定する」(102 ページ)をご覧ください。
- マルチ SSID 対応ルーターを使用している。
無線 LAN ルーターのネットワーク分離機能により、本機へのアクセスができなくなっている可能性があります。iPhone を接続する際は、本機へのアクセスが可能な SSID をお使いください（プライマリ SSID への接続をお試しください）。

■ ネットワーク経由でファームウェアを更新できない

- ネットワークの接続状態がよくない。
しばらく経ってから再度実行するか、USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください。詳しくは「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(108 ページ) をご覧ください。

Bluetooth®のトラブル

■ Bluetooth®機器と接続できない

- 本機の Bluetooth 機能が無効になっている。
Bluetooth 機能を有効にしてください。
- 本機が別の Bluetooth 機器と接続されている。
現在の Bluetooth 接続を切断してから、目的の Bluetooth 機器と接続してください。
- 本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。
本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- 2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。
本機や Bluetooth 機器を、それらの機器から遠ざけてください。
- お使いの Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない。
A2DP プロファイル対応の Bluetooth 機器をお使いください。
- Bluetooth 機器に登録されている接続情報が何らかの原因で正しく機能していない。
Bluetooth 機器の接続情報を削除してから、本機と Bluetooth 機器の接続操作を行ってください。詳しくは「Bluetooth®機器の音声の本機で再生する」(61 ページ) をご覧ください。

■ Bluetooth®接続時に音が出ない、音が途切れる

- Bluetooth 機器の音量が小さすぎる。
Bluetooth 機器の音量を上げてください。
- Bluetooth 機器の出力切り替えが本機に設定されていない。
Bluetooth 機器の出力切り替えを本機に設定してください。
- Bluetooth 接続が切断された。
再度 Bluetooth 接続を行ってください。詳しくは「Bluetooth®機器の音声を本機で再生する」(61 ページ)をご覧ください。
- 距離が離れすぎている。
Bluetooth 機器を本機の近くに移動してください。
- 2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。
本機や Bluetooth 機器を、それらの機器から遠ざけてください。

前面ディスプレイのエラー表示

前面ディスプレイのエラー表示

前面ディスプレイにエラーが表示された場合は、以下をご確認ください。

メッセージ (アルファベット順)	内容	対策
Access denied	メディアサーバー (パソコン/NAS) がアクセスを拒否している。	本機がメディアサーバー (パソコン/NAS) のフォルダーにアクセスできるように、メディアの共有設定を変更してください。詳しくは「Windows Media Player でメディアの共有設定を行う」(66 ページ) または「Windows Media Player 以外でメディアの共有設定を行う」(66 ページ) をご覧ください。
Access error	USB 機器にアクセスできない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
	ネットワーク経路に問題が発生している。	ルーターおよびモデムの電源が入っていることを確認してください。本機とルーター (またはハブ) が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「ネットワークケーブルを接続する」(39 ページ) または「無線アンテナを準備する」(39 ページ) をご覧ください。
Check SP Wires	スピーカーケーブルがショートしている。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。
Internal Error	本機の内部でエラーが発生している。	ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
No content	選択したフォルダーに本機が再生可能なファイルが含まれていない。	本機が再生可能なファイルが含まれている、別のフォルダーを選択してください。
No device	USB 機器が認識されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Not connected	ネットワークケーブルが接続されていない。	ネットワークケーブルを正しく接続してください。
	無線 LAN ルーター (アクセスポイント) が見つからない。	無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の電源が入っているか確認してください。
Please wait	ネットワークへの接続準備中です。	メッセージが消えるまでしばらくお待ちください。3 分以上経ってもメッセージが消えない場合は、本機の電源を入れ直してください。
RemID Mismatch	リモコン ID が一致していない。	リモコンまたは本機のリモコン ID を変更して ID を一致させてください。詳しくは「リモコン ID を設定する (REMOTE ID)」(107 ページ) をご覧ください。
Unable to play	iPhone の曲を再生できない。	再生可能なファイルが確認してください。iPhone 本体でも再生できない場合は、曲データや記憶領域が破損している可能性があります。
	メディアサーバー (パソコン/NAS) の曲が再生できない。	本機で再生可能なファイルが確認してください。本機が対応している音楽ファイルについては、「対応しているファイルフォーマット」(135 ページ) をご覧ください。本機が対応しているファイルなのに再生できない場合は、ネットワークに大きな負荷がかかっている可能性があります。

メッセージ (アルファベット順)	内容	対策
USB Overloaded	USB 機器に過電流が流れている。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Version error	ファームウェアの更新に失敗している。	再度ファームウェアを更新してください。詳しくは「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(108 ページ) または「ネットワーク経由で直接ファームウェアを更新する」(109 ページ) をご覧ください。
Update failed.	ファームウェアの更新に失敗している。	STRAIGHT キーを押してファームウェアの更新方法を選び、INFO キーを押して再度ファームウェアを更新してください。詳しくは「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(108 ページ) または「ネットワーク経由で直接ファームウェアを更新する」(109 ページ) をご覧ください。

入出力端子とケーブル

映像/音声を入出力する端子

■ HDMI 端子

デジタル映像およびデジタル音声を伝送します。接続には、HDMI ケーブルを使います。



NOTE

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル (19 ピン) をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- HDMI コントロール、オーディオリターンチャンネル (ARC)、3D 映像、4K Ultra HD 映像の伝送に対応しています。
- 3D 映像、4K Ultra HD 映像をお楽しみになる場合は、Premium HDMI ケーブルまたはイーサネット対応 Premium HDMI ケーブルをお使いください。

映像を入出力する端子

■ VIDEO 端子

アナログ映像を伝送します。接続には、映像用ピンケーブルを使います。



音声を入出力する端子

■ OPTICAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、光デジタルケーブルを使います。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、取り外してからお使いください。



■ COAXIAL 端子

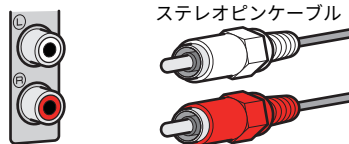
デジタル音声を伝送します。接続には、同軸デジタルケーブルを使います。



■ AUDIO 端子

(ステレオ L/R 端子)

アナログステレオ音声を伝送します。接続には、ステレオピンケーブルを使います。



(ステレオミニ端子)

アナログステレオ音声を伝送します。接続にはステレオミニプラグのケーブルを使用します。



音声に関する用語

■ 音声デコードフォーマットに関する用語

本説明書で使用する音声デコードフォーマットに関する用語を解説します。

サンプリング周波数と量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz/24bit などのように表現されます。

・サンプリング周波数

1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいほど再生可能な音域が広がります。

・量子化ビット数

音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、モノラル音声から 5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS/地上波デジタル放送で採用されています。

Dolby Atmos

最初に映画館から導入された音響技術で、オブジェクト化された信号を正確かつ自由に定位または移動させて、3 次元的な音響空間を簡単に創り出せます。ホームシアターへの導入により、画期的なシネマサウンドを家庭でも楽しめるようになりました。視聴者の方から聞こえる音を活用しているのが大きな特徴です。

Dolby Atmos ストリーム

Dolby Atmos コンテンツは、Dolby Atmos ストリームを含む Dolby Digital Plus、または Dolby TrueHD フォーマットで収録された BD（ブルーレイディスク）、ダウンロードファイル、ストリーミングなどにより、Dolby Atmos 対応 AV レシーバー向けに提供されます。Dolby Atmos ストリームには音の位置に関する情報（メタデータ）が含まれており、Dolby Atmos 対応 AV レシーバーで再生する場合は、その情報に基づいてさまざまなホームシアター環境に最適な音響空間を創り出します。

Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

Dolby Digital Plus

ドルビーラボラトリーズにより開発された、7.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

Dolby Surround

2～7.1 チャンネルのコンテンツを、使用されるスピーカーシステムに合わせて拡張できる次世代のサラウンド技術です。インシーリング・スピーカー（埋め込みスピーカー）やドルビーイネーブルドスピーカーなど、Dolby Atmos の再生に適したシステムはもちろん、従来のスピーカーレイアウトでも Dolby Surround を楽しめます。

Dolby TrueHD

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリット音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS ダイアログコントロール

中央に定位する音（セリフなど）の音量を高める機能です。雑音の多い環境で視聴する場合などに、セリフなどの音を聴き取りやすくします。また、聴力障害をもつ方にとっても便利な機能です。なお、コンテンツによっては DTS ダイアログコントロールを使用できない場合があります。ファームウェアの更新により、新たな機能が追加されたり、機能が拡張されたりする場合があります。

DTS デジタルサラウンド

DTS 社により開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

DTS96/24

高品質 96kHz/24bit 5.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。音楽 DVD など採用されています。

DTS-ES

DTS-ES 方式で収録された 6.1 チャンネル音声の再生方式です。5.1ch 信号に追加して、サラウンドバックチャンネルの音声も出力されます。サラウンドバックチャンネルの信号をサラウンドチャンネル信号に合成して収録するマトリックス方式と、独立した信号を収録するディスクリット方式があります。

DTS Express

DTS Digital Surround フォーマットよりも、さらに高圧縮に対応した 5.1 チャンネル対応の音声フォーマットです。ネットワークストリーミングや BD（ブルーレイディスク）のセカンダリーオーディオなどを目的として開発されています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS 社により開発された高品質 96kHz/24bit 7.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

DTS-HD Master Audio

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、DTS 社により開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリット音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS Neo:6

2 チャンネルで記録された信号のソースを、6 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Cinema モード、音楽用の Music モードが用意されています。ディスクリット方式で記録されたソースのようなチャンネル分離感を実現します。

DTS:X

DTS:X は、DTS 社により開発された次世代オブジェクトベースのサラウンド技術です。チャンネルの枠を超えて音のオブジェクトが視聴者を包み込む音場空間内を自由に動き、より正確な音場表現を実現します。この音場表現が、これまでにない音の豊かさやリアリティ、没入感を生み出します。テレビ内蔵のスピーカーから、ホームシアターのスピーカー、さらには映画館に設置された多数のスピーカーに至るまで、多様なスピーカーの配置と視聴スペースに合わせて音声を自動調整し、最高の音響空間をつくり出します。さらに詳しい情報については、<http://www.dts.com/dtsx> をご覧ください。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパーオーディオ CD）などで採用されている、デジタル信号を記録する方式の一つです。2.8224Mbps や 5.6448Mbps の高ビットレートで記録され、CD よりも高音質な再生ができます。収録可能な周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。

FLAC（Free Lossless Audio Codec）

音声圧縮方式の一つで、ロスレス（可逆型）圧縮方式を採用しています。圧縮率では非可逆圧縮方式フォーマットには劣るものの、音質の劣化がないため、高品質の音声を楽しめます。

MP3

MPEG 圧縮技術を使用した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

MPEG-4 AAC

MPEG-4 オーディオ規格の一つです。音質を保ったまま、データ量を大幅に圧縮できます。携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高音質が求められる機器や、インターネット上のコンテンツ配信などにも利用されています。

Neural:X

Neural:X は、DTS 社による最新のダウンミックス/アップミックス技術であり、空間の再配置技術です。DTS:X に組み込まれており、Neural:X エンコードされた信号、通常の信号（PCM）のどちらもアップミックスできます。DTS:X に対応した AV レシーバーでは、Neural:X が最大で 11.x チャンネルの信号をつくり出します。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）

アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CD をはじめとして BD（ブルーレイディスク）などさまざまなコンテンツで採用されており、リニア PCM とも呼ばれています。

WAV

Windows 標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は PCM データ（非圧縮）が使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA（Windows Media Audio）

Microsoft 社が開発した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/20 に圧縮できると言われています。

■ 音声デコードフォーマット以外の音声に関する用語

本説明書で使用する音声に関する用語を解説します。

バイアンプ接続

スピーカーのウーファーとツイーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して駆動することにより、相互影響を排除した、よりクリアな音声を楽しめます。

リップシンク (Lipsync)

音声と映像の出力タイミングのずれを補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声に対して映像が遅れてしまう症状を補正します。

LFE (低域効果音) 0.1 チャンネル

音声成分の帯域が 20~120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用のチャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

HDMI/映像に関する用語

本説明書で使用する HDMI/映像に関する用語を解説します。

コンポジットビデオ信号

輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。

Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたため、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

HDMI

世界業界標準規格である HDMI (High-Definition Multimedia Interface Specification) 規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ/オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術 (HDCP: High-bandwidth Digital Content Protection System) に対応しています。より詳しい情報は、"<http://www.hdmi.org>"を参照ください。

x.v.Color

HDMI がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

ネットワークに関する用語

本説明書で使用するネットワークに関する用語を解説します。

SSID (Service Set Identifier)

無線ネットワークのアクセスポイントを特定するための名前です。

Wi-Fi

無線電波を使用して、電子機器間でデータをやり取りしたり、インターネットに接続できるようにする技術です。無線接続のため、ネットワークケーブルを使った有線接続の煩雑さが無いのが利点です。Wi-Fi Alliance の互換性テストをクリアした製品のみ「Wi-Fi Certified」ロゴが付与されます。

WPS (Wi-Fi Protected Setup)

Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。WPS により、無線ネットワークを簡単に設定できます。

ヤマハテクノロジーに関する用語

本説明書で使用するヤマハテクノロジーに関する用語、技術を解説します。

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場再生を仮想的に再現する技術です。すべての音場プログラムはヘッドホン用に効果調整されており、自然で立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

シネマ DSP (デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

本来映画館用に設計されたシステムをご家庭で再生すると、部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。シネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

シネマ DSP 3D

高さ方向の情報も含めた 3 次元の実測音場データを応用し、立体的な 3D 音場を再現します。

バーチャルシネマ DSP

フロントスピーカー 2 本のみでも、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを設置していなくとも、豊かな音場プログラム再生をお楽しみいただけます。

バーチャルシネマフロント

サラウンドスピーカーを前方に配置したときに、後方の音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを前方に配置しても、サラウンド再生をお楽しみいただけます。

バーチャル・プレゼンス・スピーカー（VPS）

センタースピーカーとサラウンドスピーカーを使用し、仮想的にプレゼンススピーカーの音場を再現する技術です。プレゼンススピーカーを設置しない場合でも、シネマ DSP の豊かな 3 次元音場空間をお楽しみいただけます。

ミュージックエンハンサー

携帯音楽プレーヤーや PC などで使用される圧縮オーディオフォーマット（MP3、AAC など）で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮オーディオをより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

YPAO（Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer）

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整する技術です。

バーチャル・サラウンドバック・スピーカー（VSBS）

サラウンドスピーカーを使用し、仮想的にサラウンドバックスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドバックスピーカーを設置しない場合でも、シネマ DSP の後方奥行き感ある音場空間をお楽しみいただけます。

対応している機器とフォーマット

対応している Bluetooth 機器

本機が対応している Bluetooth 機器は、以下をご確認ください。

- A2DP プロファイルに対応した Bluetooth 機器に対応しています。
- すべての Bluetooth 機器に対する接続を保証するものではありません。

対応している USB 機器

本機が対応している USB 機器は、以下をご確認ください。

- 本機は、FAT16/FAT32 フォーマットの USB マスストレージクラスの機器（フラッシュメモリー、携帯音楽プレーヤーなど）に対応しています。
- USB マスストレージクラス以外の機器（USB チャージャー、USB ハブなど）、パソコン、カードリーダー、外付けハードディスクを接続しないでください。
- 暗号化機能がある USB 機器は使用できません。
- すべての USB 機器に対する接続を保証するものではありません。

対応している AirPlay 機器

AirPlay は iOS 4.3.3 以降を搭載した iPhone、iPad、iPod touch、OS X Mountain Lion or later を搭載した Mac、iTunes 10.2.2 以降を搭載した Mac と PC において動作します。

対応 iPhone（2017 年 2 月現在）

Made for.

iPhone 7 Plus, iPhone 7, iPhone SE, iPhone 6s Plus, iPhone 6s, iPhone 6 Plus, iPhone 6, iPhone 5s, iPhone 5c, iPhone 5, iPhone 4s

iPad Pro (9.7 インチ、12.9 インチ), iPad mini 4, iPad Air 2, iPad mini 3, iPad Air, iPad mini 2, iPad mini, iPad (3rd and 4th generation), iPad 2

iPod touch (5th and 6th generation)

対応しているファイルフォーマット

本機が対応しているファイルフォーマットは、以下をご確認ください。

ファイル	サンプリング 周波数 (kHz)	量子化ビット 数 (bit)	ビットレート (kbps)	チャンネル数	ギャップレス 再生対応
WAV*	32/44.1/48/8 8.2/96/176.4 /192	16/24	-	2	✓
MP3	32/44.1/48	-	8 ~ 320	2	-
WMA	32/44.1/48	-	8 ~ 320	2	-
MPEG-4 AAC	32/44.1/48	-	8 ~ 320	2	-
FLAC	32/44.1/48/8 8.2/96/176.4 /192	16/24	-	2	✓
ALAC	32/44.1/48/8 8.2/96	16/24	-	2	✓
AIFF	32/44.1/48/8 8.2/96/176.4 /192	16/24	-	2	✓
DSD	2.8 MHz/5.6 MHz	1	-	2	-

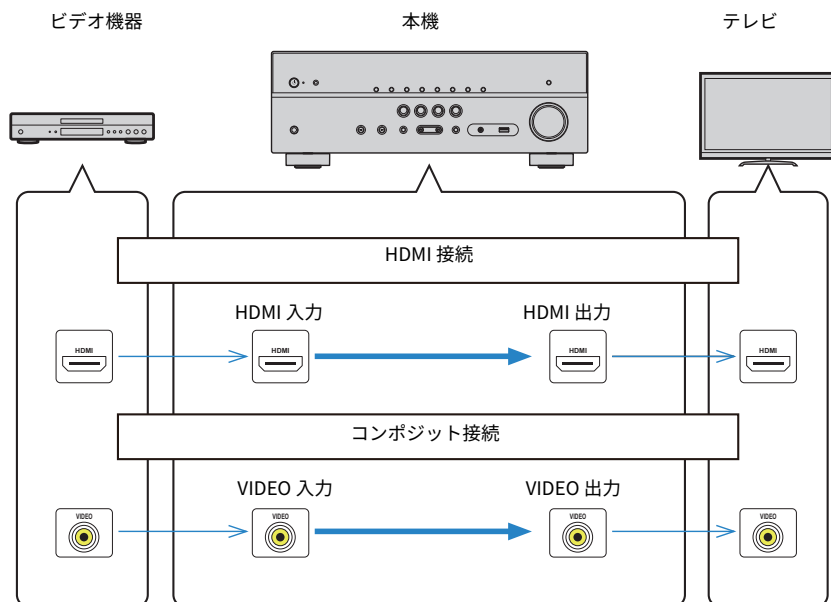
* リニア PCM フォーマットのみ

- メディアサーバー（パソコン/NAS）にインストールされているサーバーソフトにより、再生可能フォーマットが異なります。詳しくはサーバーソフトの取扱説明書をご覧ください。
- DRM（デジタル著作権管理）により保護されたファイルは再生できません。

映像信号の流れ

映像信号の流れ

ビデオ機器から本機に入力された映像信号は、以下のようにテレビに出力されます。



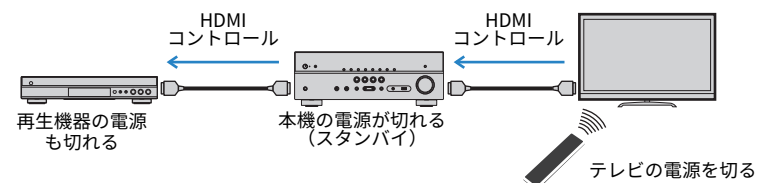
HDMI について

HDMI コントロールと連動機能

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます (HDMI コントロール)。また HDMI ケーブルで接続した再生機器 (HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなど) も操作できます。

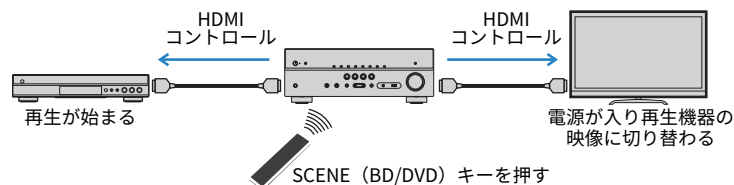
テレビのリモコン操作による連動機能

- 電源スタンバイ
- 音量調節および消音
- テレビで内蔵チューナー選択時に、本機の入力をテレビ音声入力に切り替え
- テレビで再生機器を選択時に、本機の入力を再生機器に切り替え (映像をテレビに出力)
- 音声出力機器の切り替え (本機またはテレビ)



本機のリモコン操作による連動機能

- ・シーン選択と連動して外部機器の再生開始およびテレビの電源入
- ・テレビの入力を本機の映像に切り替えて設定メニューを表示（SETUP キー操作時）
- ・再生機器（再生機能およびメニュー）を操作



NOTE

シーン選択との連動については、「SCENE キーに登録したシーンを呼び出す」（73 ページ）をご覧ください。

HDMI コントロールを使うには、テレビ、再生機器を接続後に以下の連動設定が必要です。テレビ、再生機器の設定や操作については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

NOTE

HDMI コントロール対応の機器を新しく追加するたびに、以下の設定が必要になります。

- 1 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。**
- 2 本機、テレビ、HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。**

本機の HDMI コントロール機能を有効にするには、設定メニューの「HDMI コントロール」を「オン」に設定してから、関連項目（TV 音声入力、スタンバイ連動、ARC、シーン連動）を設定します。設定メニューの「HDMI コントロール」については、「HDMI コントロールを設定する」（92 ページ）をご覧ください。
- 3 テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。**
- 4 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。**

- 5 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。**
- 6 本機の入力が再生機器からの HDMI 入力（「HDMI1～4」のいずれか）に切り替わっていることを確認する。**

ほかの入力が選ばれている場合は、手動で再生機器からの入力を選んでください。
- 7 テレビ画面に再生機器の映像が表示されていることを確認する。**
- 8 テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。**

NOTE

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善される場合があります。また HDMI コントロール連動機器が制限数を超過して接続されていると正しく機能しない場合があります。この場合は、使用していない機器の HDMI コントロールを無効にしてください。
- 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。
- HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

オーディオリターンチャンネル (ARC)

本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力できます。HDMI コントロールの設定後、以下を確認してください。

NOTE

HDMI コントロールの設定については、「HDMI コントロールと連動機能」(136 ページ)をご覧ください。

1 テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶ。

2 本機の入力が自動的に「AUDIO1」に切り替わり、テレビの音声の本機から出力されることを確認する。

テレビの音声が出力されない場合は、以下をご確認ください。

- 設定メニューの「ARC」が「オン」になっている。設定メニューの「ARC」については、「ARC を設定する」(93 ページ)をご覧ください。
- HDMI ケーブルがテレビの ARC 対応 HDMI 端子に接続されている。

テレビの HDMI 端子が ARC に対応していない場合もあります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

NOTE

- ARC 使用時に音声が途切れる場合は、設定メニューの「ARC」を「オフ」に設定し、光デジタルケーブルで本機とテレビを接続してください。設定メニューの「ARC」については「ARC を設定する」(93 ページ)を、光デジタルケーブルで本機とテレビを接続するには「テレビを HDMI 接続する」(35 ページ)をご覧ください。
- ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルでテレビと本機を接続してください。
- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AUDIO1」が設定されています。AUDIO1 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。設定メニューの「TV 音声入力」については、「テレビからの音声を入力する端子を設定する」(93 ページ)をご覧ください。また、シーン機能を使う場合は、SCENE (TV) キーの入力設定もあわせて変更してください。シーン機能の変更については、「SCENE キーの登録内容を変更する」(74 ページ)をご覧ください。

対応している HDMI 信号

本機の HDMI 信号については、以下をご確認ください。

- 一部の再生機器は、コピープロテクトがかかった DVD オーディオの映像/音声を出力できません。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- 再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、デジタル音声（光デジタルまたは同軸デジタル）で本機に入力すれば、音声解説を楽しめます。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。なお、BD などの音声解説（インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

商標

本説明書で使用している商標です。

DOLBY ATMOS®

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Surround およびダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS, Inc. のライセンスに基づき製造しています。

DTS とそのシンボルマーク、および DTS とそのシンボルマークの組み合わせ、DTS:X、DTS:X ロゴは米国及びその他の国々における DTS, Inc. の登録商標または商標です。

©DTS, Inc. All Rights Reserved.



AAC ロゴマーク（マーク）はドルビーラボラトリーズの商標です。

SILENT™
CINEMA

「サイレントシネマ™ SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。



iOS 7 以降では、WAC（Wireless Accessory Configuration）を使った設定をサポートしています。

「Made for iPod」、「Made for iPhone」、「Made for iPad」とは、それぞれ iPod、iPhone、iPad 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリであることを示します。

アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。

本機を iPod、iPhone、iPad と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。

iTunes、AirPlay、iPad、iPhone、iPod、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

iPad Air、iPad mini は、Apple Inc. の商標です。

App Store は Apple Inc. のサービスマークです。

iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国々における HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。



DLNA™ および DLNA CERTIFIED™ はデジタルリビングネットワークアライアンスの登録商標です。無断使用は固く禁じられています。

Windows™

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Internet Explorer、Windows Media Audio、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

Android™ Google Play™

Android、Google Play は、Google Inc. の商標または登録商標です。



Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。

Wi-Fi Protected Setup マークは Wi-Fi Alliance の認証マークです。



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

Bluetooth プロトコルスタック(Blue SDK)

© 1999-2014 OpenSynergy GmbH

All rights reserved. All unpublished rights reserved.



Spotify および Spotify ロゴは Spotify Group の登録商標です。

Spotify のソフトウェアは、以下に記載のサードパーティソフトウェアを利用しています。

<https://developer.spotify.com/esdk-third-party-licenses/>



MusicCast は、ヤマハ株式会社の商標または登録商標です。



ヤマハエコラベルは、優れた環境性能を備えた製品として、ヤマハグループが認定するマークです。

Google Noto Fonts

本製品は以下のフォントを使用しています。

Noto Sans Version 1.004

(<https://www.google.com/get/noto/#sans-lgc>)

© June 2015, Google Noto Sans CJK Version 1.004

(<https://www.google.com/get/noto/help/cjk/>)

© June 2015, Google

これらのフォントソフトウェアは、SIL Open Font License 1.1 のもとライセンスされています。ライセンスに関しては、<http://scripts.sil.org/OFL> の FAQ をご覧ください。

GPL/LGPL について

本製品は、GPL/LGPL ライセンスが適用されたオープンソースソフトウェアのコードの一部に使用しています。

お客様は GPL/LGPL ライセンスの条件に従い、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があります。

GPL/LGPL ライセンスの適用を受けるソフトウェアの概要、ソースコードの入手、GPL/LGPL ライセンスの内容につきましては、以下の弊社ウェブサイトをご覧ください。

<http://download.yamaha.com/sourcecodes/musiccast/>

主な仕様

主な仕様

本機の主な仕様です。

入力端子

アナログ音声

- ステレオ×4 (AUX[3.5mm ミニ端子]含む)

デジタル音声 (対応 fs : 32kHz~96kHz)

- 光×1
- 同軸×2

映像

- コンポジットビデオ×3

HDMI 入力

- HDMI×4

その他

- USB×1 (USB2.0)
- NETWORK (有線) ×1 (100Base-TX/10Base-T)
- NETWORK (無線) ×1 (IEEE802.11b/g/n)

出力端子

アナログ音声

- スピーカー出力×7 (フロント左/右、センター、サラウンド左/右、サラウンドバック左/右*)

* 割り当て変更可能

[サラウンドバック、プレゼンス、バイアンプ (フロント左/右)、ゾーン B]

- サブウーファー出力×2 (モノラル)
- ヘッドホン×1

映像

- コンポジットビデオ×1

HDMI 出力

- HDMI×1

その他の端子

YPAO MIC×1

HDMI

HDMI 機能

- 4K UltraHD Video (include 4K/60、50Hz 10/12bit)、3D Video、オーディオリターンチャンネル (ARC)、HDMI コントロール (CEC)、オートリップシンク、Deep Color、“x.v.Color”、HD オーディオ再生、HDMI スタンバイスルー時の入力切替機能、21:9 アスペクト比、BT.2020 対応、HDR 対応

映像フォーマット (リピーターモード)

- VGA
- 480i/60Hz
- 576i/50Hz
- 480p/60Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz、50Hz
- 1080i/60Hz、50Hz
- 1080p/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 4K/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz

音声フォーマット

- Dolby Atmos
- Dolby TrueHD
- Dolby Digital Plus
- Dolby Digital
- DTS:X
- DTS-HD Master Audio
- DTS-HD High Resolution Audio
- DTS Express
- DTS
- DSD 2~6 チャンネル
- PCM 2~8 チャンネル (Max 192kHz/24bit)
- AAC

著作権保護：HDCP 2.2 準拠

リンク機能：CEC 対応

チューナー

アナログチューナー

- FM/AM×1 (TUNER)

USB

USB マスストレージクラス

最大供給電流：1.0A

Bluetooth

受信動作

- Bluetooth 機器（スマートフォン、タブレットなど）からの受信機能
- サポートプロファイル
 - A2DP、AVRCP
- 対応コーデック
 - SBC、AAC

送信動作

- Bluetooth 機器（Bluetooth ヘッドホンなど）への送信機能
- サポートプロファイル
 - A2DP、AVRCP
- 対応コーデック
 - SBC
- Bluetooth 機器（Bluetooth ヘッドホンなど）からの再生/停止操作が可能

Bluetooth バージョン

- Ver. 2.1+EDR

ワイヤレス出力

- Bluetooth Class 2

最大通信距離

- 10m（障害物がないこと）

ネットワーク

PC クライアント機能

DLNA ver1.5 対応

AirPlay 対応

インターネットラジオ

Spotify

無線ネットワーク

- 無線 LAN 規格：IEEE802.11b/g/n
- 無線周波数帯域：2.4GHz
- WPS (Wi-Fi Protected Setup)
 - プッシュボタン式
 - PIN コード式
- モバイル機器の直接接続対応
- 対応セキュリティ
 - WEP
 - WPA2-PSK (AES)
 - Mixed Mode

対応デコードフォーマット

デコードフォーマット

- Dolby Atmos
- Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus
- Dolby Digital
- DTS:X
- DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express
- DTS、DTS 96/24、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1
- AAC

ポストデコードフォーマット

- Dolby Surround
- DTS Neo:6 Music、DTS Neo:6 Cinema
- Neural:X

オーディオ部

定格出力 (2ch 駆動) (20Hz~20kHz、0.09%THD、6Ω)	
・ フロント左/右	80W+80W
定格出力 (1ch 駆動) (1kHz、0.9%THD、6Ω)	
・ フロント左/右	115W/ch
・ センター	115W/ch
・ サラウンド左/右	115W/ch
・ サラウンドバック左/右	115W/ch
実用最大出力 (JEITA、1kHz、10%THD、6Ω)	
・ フロント左/右	135W/ch
・ センター	135W/ch
・ サラウンド左/右	135W/ch
・ サラウンドバック左/右	135W/ch
ダイナミックパワー	
・ フロント左/右 (6Ω/4Ω/2Ω)	140/170/190W
ダンピングファクター	
・ フロント左/右 (20Hz~20kHz、8Ω)	100 以上
入力感度/入力インピーダンス	
・ AV2 他 (1kHz、100W/6Ω)	200mV/47kΩ
最大許容入力	
・ AV2 他 (1kHz、0.5%THD、Effect On)	2.3V
出力電圧/出力インピーダンス	
・ SUBWOOFER	1V/1.2kΩ
ヘッドホン出力/出力インピーダンス	
・ AV2 他 (1kHz、50mV、8Ω)	100mV/470Ω

周波数特性

- AV2 他→フロント (10~100kHz) +0/.3dB

S/N 比 (IHF-A ネットワーク)

- AV2 他 (入力 1kΩ ショート、SP OUT) 110dB 以上

残留ノイズ (IHF-A ネットワーク)

- フロント左/右 (SP OUT) 150μV 以下

チャンネルセパレーション

- AV2 他 (入力 1kΩ ショート、1kHz/10kHz) 70dB/50dB 以上

音量可変範囲

MUTE、-80dB~+16.5dB (0.5dB ステップ)

トーンコントロール特性

- BASS (可変幅) ±6dB/0.5dB ステップ、50Hz
- BASS (ターンオーバー周波数) 350Hz
- TREBLE (可変幅) ±6dB/0.5dB ステップ、20kHz
- TREBLE (ターンオーバー周波数) 3.5kHz

フィルター特性 (fc = 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz)

- H.P.F. (フロント、センター、サラウンド) 12dB/oct.
- L.P.F. (サブウーファー) 24dB/oct.

ビデオ部

ビデオ信号方式	NTSC
コンポジットビデオ信号	1Vp-p/75Ω
ビデオ最大許容入力	1.5Vp-p 以上
S/N 比	50dB 以上

FM チューナー部

受信周波数範囲 76.0MHz~94.9MHz (FM 補完放送対応)

50dB SN 感度 (IHF、1kHz、100% MOD.)	
・ モノ	3μV (20.8dBf)
S/N 比 (IHF)	
・ モノ/ステレオ	65dB/64dB
歪率 (1kHz)	
・ モノ/ステレオ	0.5%/0.6%
アンテナ入力	75Ω、アンバランス

AM チューナー部

受信周波数範囲	531～1611kHz
---------	-------------

総合

電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	260W

待機時消費電力	
・ HDMI コントロールオフ、スタンバイスルーオフ、ネットワークスタンバイオフ	0.1W
・ HDMI コントロールオン、スタンバイスルーオン（無信号時）、ネットワークスタンバイオフ	1.1W
・ HDMI コントロールオフ、スタンバイスルーオフ、ネットワークスタンバイオン、Bluetooth スタンバイオフ	
－ 有線	1.7W
－ 無線 (Wi-Fi)	1.8W
－ ワイヤレスダイレクト	1.8W
・ HDMI コントロールオフ、スタンバイスルーオフ、ネットワークスタンバイオン（有線）、Bluetooth スタンバイオン	1.6W
・ HDMI コントロールオン、スタンバイスルーオン（無信号時）、ネットワークスタンバイオン（ワイヤレスダイレクト）、Bluetooth スタンバイオン	2.4W

寸法（幅×高さ×奥行き）	435×161×327mm（脚部、突起物を含む）
参考寸法（無線アンテナ直立時） （幅×高さ×奥行き）	435×225.5×327mm
質量	8.1kg

* この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてご覧いただけますようお願いいたします。

初期値一覧

オプションメニュー初期値一覧

本機のオプションメニューの初期値は、以下をご確認ください。

トーンコントロール	高音 (Treble)、低音 (Bass) ともに Bypass (0.0dB)
* 高音 (Treble) と低音 (Bass) の両方が 0.0dB の場合は、「バイパス」(Bypass) と表示されます。	

DSP/サラウンド	
・エフェクト量の加減	0dB
・アダプティブ DRC	オフ (Off)
・多重モノラル音声	主音声 (Main)
・エンハンサー	
– TUNER、Spotify、AirPlay、MusicCast Link、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB	オン (On)
– その他	オフ (Off)

再生レベル補正	
・入力レベル補正	0.0dB
・サブウーファーレベル補正	0.0dB
・ゾーン B レベル補正	0.0dB

リップシンク設定	オン (On)
----------	---------

映像選択	オフ (Off)
------	----------

FM モード	ステレオ (Stereo)
--------	---------------

シャッフル	オフ (Off)
-------	----------

リピート	オフ (Off)
------	----------

音量連動	制限あり (Ltd)
------	------------

設定メニュー初期値一覧

本機の設定メニューの初期値は、以下をご確認ください。

スピーカー設定

構成	
・パワーアンプ割り当て	プレゼンス
・サブウーファー	使用する
・フロント	小
・センター	小
・サラウンド	小
・サラウンドバック	小 2 台
・プレゼンス	小
・配置	フロントハイト
・低音クロスオーバー	80Hz
・サブウーファー位相	正相
・エクストラベース	オフ
・バーチャルシネマフロント	オフ

距離	3.00m
----	-------

音量	0.0dB
----	-------

イコライザー	オフ
--------	----

テストトーン	オフ
--------	----

HDMI 設定

HDMI コントロール	オン
-------------	----

音声出力	オフ
------	----

スタンバイスルー	オン
----------	----

4K アップスケーリング	オフ
--------------	----

TV 音声入力	AUDIO1
---------	--------

スタンバイ連動	自動
---------	----

ARC	オン
-----	----

シーン連動	
・BD/DVD、TV	オン
・NET、RADIO	オフ

音声設定

DSP パラメーター	
・シネマ DSP 3D モード	オン
・センタースプレッド	オフ
・センターイメージ	0.3

リップシンク	
・自動/手動選択	自動補正
(自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合のみ有効)	
・調整	0ms

ダイアログ	
・ セリフ音量調整	0
・ DTS ダイアログコントロール	0
・ セリフ位置調整	0

音量	
・ 音量表示	dB
・ ダイナミックレンジ	最大
・ 音量の上限	+16.5dB
・ 音量の初期値	オフ
・ ゾーン B 音量	同期

エコ設定

自動スタンバイ	オフ
エコモード	オフ

ファンクション設定

入力名変更	
・ HDMI1 ～ 4	自動
・ その他	手動
(AUX、AUDIO3、TUNER、MusicCast Link、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB は「手動」のみ選択可)	
入力スキップ	オフ
明るさ	0
設定保護	オフ
リモコンカラーキー	初期値

ネットワーク設定

ネットワーク情報	—
ネットワーク接続	有線
IP アドレス	
・ DHCP	オン
MAC アドレスフィルター	オフ
DMC からの操作	有効
ネットワークスタンバイ	自動
ネットワーク名	—
MusicCast Link 電源連動	オフ
ネットワークアップデート	—

Bluetooth 設定

Bluetooth	オン
音声受信	
・ デバイス切断	—
・ Bluetooth スタンバイ	オン
音声送信	
・ 音声送信機能	オフ
・ デバイス検索	—

言語設定

	日本語
--	-----

アドバンスドセットアップメニュー初期値一覧

本機のアドバンスドセットアップメニューの初期値は、以下をご確認ください。

REMOTE ID	ID1
TV FORMAT	NTSC
4K MODE	MODE 1
DTS MODE	MODE 1
INIT	CANCEL
UPDATE	USB
VERSION	—

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通)



0570-011-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

■ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通)



0570-012-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)
*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪府浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ニッセイビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エーシングの差による音色の違いが出る場合があります。

●摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

Yamaha Global Site
<http://www.yamaha.com/>

Yamaha Downloads
<http://download.yamaha.com/>

Manual Development Group
© 2017 Yamaha Corporation

2017 年 4 月 発行 NV-B0
Printed in Malaysia

ZW74200